

計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL
(Basic Adjectives)
—解説編—

平成2年7月

情報処理振興事業協会
技 術 セ ン タ ー

まえがき

情報処理振興事業協会（IPA）では、技術センター発足当初から「計算機用辞書」の研究に取り組んでいる。動詞に関しては、昭和62年度より「計算機用日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic Verbs)」を公開し、多数の方々にご利用いただいている。このたび、その続編ともいえる形容詞の辞書「計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)」が完成し、これをフロッピー、報告書の両形式で公開する運びとなった。報告書の構成は、次のような三分冊になっている。

- 『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)
— 辞書編 上 あ～し —』
- 『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)
— 辞書編 下 す～わ —』
- 『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)
— 解説編 —』

本書『解説編』は、辞書の枠組みを示すため、辞書の利用に必要な項目を説明的に書いたものである。ただし、辞書の枠組みの理論的背景については詳しく触れていない。関心のある方は『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—10— I P A L (Basic Adjectives) をめぐって—』および本巻末に挙げた参考文献を参照されたい。

辞書の執筆・校閲および解説編の執筆は、「意味理解システムのための日本語辞書の調査研究」テーマの연구원ならびにワーキング委員、臨時ワーキング委員が次のように分担して行なった。

- | | |
|------------|--------------------------|
| I 形容詞辞書の概要 | 橋本三奈子 |
| II 見出し情報 | 青山 文啓, 橋本三奈子 |
| III 形態情報 | 清沢 美恵, 小川 裕花 |
| IV 意味情報 | 外池 俊幸, 渡辺 恵子, 大名 力, 金沢 誠 |
| V 統語情報 1 | 青山 文啓, 小島 幸子, 橋本三奈子 |
| VI 統語情報 2 | 井口 厚夫, 堤 正典, 中島 尚樹 |
| VII 慣用表現 | 山本 清隆, 高松 正毅 |
| VIII 備考 | 高松 正毅 |
| IX 下位区分一覧 | 白石由紀子 |
| | (全体の調整 小島 幸子) |

今後の研究のために各位から忌憚のないご意見やご教示を賜れば幸いである。

情報処理振興事業協会
技術センター

目 次

まえがき

目次

I 形容詞辞書の概要

1. 研究概要	1
2. 記載項目の構成	2
3. 動詞辞書と併用する際の注意事項	5
3.1 記載項目の相違	5
3.2 記号の相違	5

II 見出し情報

0. 印刷形式	7
1. 見出しについて	7
2. 見出し語	7
3. 下位区分	8
3.1 語義による下位区分の方法	9
3.1.1 語義番号	9
3.2 終止用法の中の下位区分	10
3.2.1 文型による下位区分の方法	10
3.2.2 述語素による下位区分の方法	10
3.2.3 区分番号	11
4. 記載例	12

III 形態情報

0. 印刷形式	14
1. 表記	14
2. 語幹	15
3. 語尾	16
4. 異音同語	16
5. 派生語	16
5.1 派生名詞	16
5.2 派生形容動詞	17
5.3 派生形容詞	17
5.4 派生副詞	17
5.5 派生動詞	18
6. 複合語	20
7. その他	20
8. 記載例	20
[参考 1] 形容詞の活用	21
[参考 2] 音便	22
[参考 3] 人称制限	23

IV 意味情報

0. 印刷形式	24
1. 意味記述	24
2. 関連語	25
2.1 同義語	26
2.2 類義語	26
2.3 反義語	26
3. 意味の分類	27
3.1 属性・感覚・感情の区別	27
3.1.1 属性・感覚・感情の特徴	28
3.2 形容詞の意味分類	29
3.2.1 形容詞意味分類項目	29
3.2.2 記述方法	31
3.2.3 属性・感覚・感情の区別との関係	32
3.2.4 各意味分類項目の該当例	32
4. 段階性	37
5. 評価、快・不快	38
5.1 評価	38
5.2 快・不快	39
6. 記載例	40

V 統語情報 1

0. 印刷形式	42
1. 統語情報の範囲	42
2. 終止用法	43
2.1 文型	43
2.1.1 文型の種類と格形式の範囲	43
2.1.2 文型の間関係：格形式の交替	45
2.1.3 文型の表示方法	46
2.2 名詞の意味素性	47
2.2.1 意味素性の表示例	49
2.2.2 名称および素性間関係	52
2.3 文型に現れる名詞句	56
2.4 述語素：文型の中の2項間関係	57
2.4.1 2項の文型と述語素	58
2.4.2 3項の文型と述語素	58
2.4.3 1項の文型と述語素	59
2.4.4 例外的な述語素	60
2.5 文例	77
2.6 記載例	77

VI 統合情報 2

0. 印刷形式	82
1. 連体用法	82
1.1 連体用法について	82
1.1.1 制限用法と非制限用法	82
1.1.2 連体用法と終止用法	84
1.1.3 種々の連体用法	85

1.2 当辞書における記載事項 -----	86
1.2.1 制限用法 1 -----	87
1.2.2 制限用法 2 -----	88
1.3 記載例 -----	89
2. 連用用法 -----	91
2.1 連用用法について -----	91
2.2 当辞書における記載事項 -----	92
2.2.1 ーくなる、ーくする 1、ーくする 2 -----	92
2.2.2 動詞 -----	94
2.2.3 その他 -----	95
2.3 記載例 -----	96
VII 慣用表現	
0. 印刷形式 -----	97
1. 慣用表現について -----	97
2. 「慣用表現」の記載方法 -----	99
3. 記載例 -----	102
VIII 備考	
0. 印刷形式 -----	103
1. 備考 1 -----	103
2. 記載例 -----	103
3. 備考 2 -----	104
4. 記載例 -----	104
IX 下位区分一覧 -----	105
参考文献 -----	152
索引 -----	155

あとがき

[図 1] 辞書の印刷形式 i) -----	2
[図 2] 辞書の印刷形式 ii) -----	3
[表 1] 記述項目一覧 -----	4
[表 2] ローマ字表記 -----	15
[表 3] 形容詞の活用表 i) 口語, 文語 -----	21
[表 4] 形容詞の活用表 ii) -----	22
[表 5] 意味分類項目一覧 -----	30
[表 6] 意味素性一覧 -----	53
[表 7] 意味素性略号一覧 -----	55
[表 8] 述語素一覧 -----	61
[表 9] 述語素略号一覧と交替情報 -----	76
[表 10] 意味素性対照表 -----	80
[表 11] 述語素対照表 -----	81

I 形容詞辞書の概要

1. 研究概要

『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)』は、特別許可法人情報処理振興事業協会 (I P A) 技術センター (所長：萩布真十朗) における「意味理解システムのための日本語辞書の調査研究」テーマ (昭和62年12月～) において、計算機による日本語処理を目的として試作された辞書である。

この辞書は、I P A 技術センターで試作している汎用的計算機用日本語辞書 I P A L の一部であり、「ドキュメント作成のための日本語辞書の調査」テーマで試作した『計算機用日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic Verbs)』(昭和62年より磁気テープ、報告書の両形式で公開中) に続くものとして位置づけられる。

I P A 技術センターの研究グループは、研究員をはじめとして、専門的立場で共同研究、執筆を行なうワーキンググループ (WG) 委員および臨時ワーキンググループ委員、さらに助言・指導を行なうコンサルティンググループ (CG) 委員から成っている。辞書の執筆項目、技術の枠組み、解説書の内容等の重要事項は、ワーキンググループ委員会 (研究員、WG 委員、臨時WG 委員が参加し、月1回の合同委員会および月数回の特別委員会を開催) で討議を重ねて決定した。

辞書作成の指揮、取りまとめ、内容の校閲、辞書編集システムの作成などは、研究員が行なった。

村田賢一 (特別研究員、グループリーダー)

橋本三奈子 (研究員)

廣瀬茂 (研究員 ～平成元年7月)

白石由紀子 (研究員 平成元年8月～)

辞書、解説書の執筆は、WG 委員と臨時WG 委員が行なった。委員およびその主要担当分野は以下の通りである。

WG 委員

外池俊幸 (主査、千葉商科大学商経学部講師)	:	意味情報
青山文啓 (東海大学文明研究所講師)	:	統語情報 1
山本清隆 (東海大学文明研究所講師)	:	慣用表現
井口厚夫 (独協大学外国語学部講師)	:	統語情報 2
清沢美恵 (北陸大学外国語学部講師)	:	形態情報

臨時WG 委員

小島幸子 (中国帰国孤児定着促進センター非常勤講師)	:	統語情報 1
堤 正典 (東京外国語大学外国語学部非常勤講師)	:	” 2
中島尚樹 (東京学芸大学研究生)	:	” 2
渡辺恵子 (筑波大学留学生教育センター非常勤講師)	:	意味情報
大名 力 (東京学芸大学非常勤講師)	:	”
金沢 誠 (東京学芸大学大学院修士課程 ～平成元年7月)	:	”
小川裕花 (上智大学大学院博士課程)	:	形態情報
高松正毅 (早稲田大学大学院修士課程)	:	慣用表現

辞書執筆の資料となる用例を、新聞やマニュアルなどのデータベースから検索するシステムのプログラミングと操作を、玉井陽子が担当した。また、計算機入力をはじめとする各種の補助作業については、長島みどり、面川眞智子、木村由記子、井沢泰子、永井桃子、降旗ゆかり、片岡隆子の協力を得た。

動詞辞書の試作の際のWG 委員であった先生方には、今回の形容詞辞書ではCG 委員としてご指導を賜った。その他にも、多くの方々にお世話になった。

2. 記載項目の構成

別冊の『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives) 辞書編』の印刷形式を[図 1、図 2]に示す。この「解説編」では、これに従って説明を行なう。

[図 1] 印刷形式 1 ページ目 (左ページ)

見出し					語 義 番 号	語 義 数	区 分 数	
形 態 情 報	表 記							
	語 幹		語 尾		異 同 音 語			
	派 生 語	名 詞				形 動		
		形 容 詞				副 詞		
		動 詞						
	複 合 語							
意 味 情 報	意 味 記 述							
	関 連 語	同 義						
		類 義						
		反 義						
意 味 の 分 類				段 階 性				
統 語 情 報	連 体 用 法	制 限 用 法	1					
			2					
	連 用 用 法	動 詞						
		他						
慣 用 表 現								
備 考 1								

[図2] 印刷形式 2ページ目 (右ページ) 以降

統 話 止 用 報 法 1	区分番号	文型	述語素	名 詞 句	
					格形式
	文例				
	区分番号	文型	述語素	名 詞 句	
					格形式
	文例				
	区分番号	文型	述語素	名 詞 句	
					格形式
	文例				
	備考2				

I P A L (Basic Adjectives)は、語彙体系上ならびに使用頻度上重要であると考えられる基本的な形容詞について、意味および統語的な特徴に基づいて下位区分し、それを一つの単位として、形態、意味、統語、慣用表現などに関する情報をできるだけ詳細に記載したものである。

辞書に記載されている情報は [表 1] の通りである。計算機による日本語処理に必要な不可欠なものを優先した。ただし、一部には探索的に取り上げた項目も含まれている。各項目については、II～VIII章で詳しく説明する。

[表 1] 記載項目一覧

II 見出し情報	
1) 見出し語	ひらがなによる表記
2) 語義番号	語義による下位区分を示す番号
3) 語義数	語義の総数
4) 区分番号	文型、述語素による下位区分を示す番号
5) 区分数	文型、述語素による下位区分の総数
III 形態情報	
1) 表記	漢字と送りがなによる表記
2) 語幹	ローマ字による表記
3) 語尾	ーい、ーな、ーだ のうち接続可能なもの
4) 異音同語	例 さびしい→さみしい
5) 派生語	例 たかさ、さびしげ、いたむ
6) 複合語	例 あまざけ、よしあし
IV 意味情報	
1) 意味記述	語義の簡単な記述
2) 関連後	同義語、類義語、反義語
3) 意味の分類	3分類と下位分類
3. 1) 属性・感情・感覚	属性・感情・感覚の3分類
3. 2) 意味分類	意味の下位分類
4) 段階性	段階性の有無
5) 評価、快・不快	評価、快・不快の意味を含むかどうか
V 統語情報 1	
1) 終止用法	
1. 1) 文型	例 NPニ NP1ガ
1. 2) 名詞の意味素性	例 HUM, CON, ABS
1. 3) 文型に現れる名詞句	
1. 4) 述語素	例 PA, PV, FC
1. 5) 文例	
VI 統語情報 2	
1) 連体用法	
1. 1) 制限用法 1	例 あかい花 (この花があかい)
1. 2) 制限用法 2	例 ちかい将来 (*将来がちかい)
2) 連用用法	
2. 1) ーくなる、ーくする	例 あかくなる、あかくする
2. 2) 動詞	例 あかく塗る、みじかく切る
2. 3) その他	例 すばらしく速い
VII 慣用表現	
慣用表現	例 面の皮が厚い
VIII 備考	

3. 動詞辞書と併用する際の注意事項

形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives) は、動詞辞書 I P A L (Basic Verbs) の続編にあたるものである。

形容詞辞書では、動詞辞書の記述方針を基本的には継承しているが、形容詞に特有の問題も取り上げたため記述項目に多少の違いがある。さらに、同一の項目であっても、動詞辞書によせられた意見を検討し、内容を改良した場合もある。動詞辞書と併用する際には、ご注意いただきたい。

3.1 記載項目の相違

(1) 追加項目

形容詞の果す統語上の役割には、「この花は赤い」のような、文の述語になる用法（終止用法）のほかに、「赤い花」のように名詞を修飾する連体用法がある。動詞辞書ではこの連体用法は扱わなかったが、形容詞では重要な用法であるため、統語情報の一つとして取り上げた。同様に「壁を赤く塗る」のような動詞などを修飾する連体用法も取りあげた。

また、意味情報として、段階性の有無や評価などの分類項目を追加した。

(2) 変更した項目

形容詞辞書も、動詞辞書と同様に、ある見出し語を意味および統語的特徴に基づいて下位区分し、それを一つの単位として意味、形態、統語、慣用表現などに関する情報を記述したものである。ただし、形容詞辞書では、この下位区分の根拠を明らかになるように、下位区分を示す番号を語義番号と区分番号に階層化した。（詳しくは II. 「見出し情報」参照）

また、述語素、意味素性、関連語については、細部を変更したので、該当箇所をよくお読みいただきたい。

(3) 削除した項目

動詞辞書で扱った「文法的カテゴリに関する情報」のヴォイス情報、テンス・アスペクト情報、ムード情報については、形容詞辞書では扱っていない。形容詞では、サセラレ形やテイル形等の形式の後接や、アスペクトやムードの上での意味の区分がないからである。

3.2 記号の相違

(1) NとNPの区別

動詞辞書では、統語情報の文型を示す際に、名詞句 (noun phrase) を「N」で表わしているが、形容詞辞書では名詞句を「NP」で表わした。

〔動詞辞書〕	文型： N 1	ガ	泣く
	文例： 赤ちゃんが		泣く
〔形容詞辞書〕	文型： NP 1	ガ	かわいい
	文例： 赤ちゃんが		かわいい

なお、形容詞辞書では、「N」によって、連体用法において制限用法で用いられる際の被修飾語（名詞）を表わす。（制限用法／非制限用法については VI. 1.1 参照）

[形容詞辞書] 連体用法： N 1 | 赤ちゃん, 犬, …
(かわいい赤ちゃん, かわいい犬, …)

形容詞辞書では終止用法には「NP」を、連体用法には「N」を用いて両者を区別する。これは、連体用法での制限用法／非制限用法の違いを考慮したためである。
(詳しくは、VI. 1「連体用法」参照)

(2) 名詞句番号

動詞辞書では、名詞句を示すのに、文型の中の名詞句の出現順に、「N 1」「N 2」「N 3」…と番号をつけたが、形容詞辞書では、ガ格の名詞句だけに形容詞に近い方から「NP 1」「NP 2」と番号をつけた。終止用法と連体用法との関連を考慮したためである。

[動詞辞書] 文型： N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ ある
文例： 彼 は 政治に 関心が ある

[形容詞辞書] 文型： NP 2 ガ NP ニ NP 1 ガ 強い
文例： 彼 は 政治に 関心 が 強い

文型： NP 2 ガ NP 1 ガ 強い
文例： 彼 は 政治への関心が 強い

連体用法： N 1 | 関心, 関係, …
(強い関心, 強い関係, …)

II 見出し情報

0. 印刷形式

<1 ページ目>

見出し		語義番号	語義数	区分数

<2 ページ目以降>

区分番号				

1. 見出しについて

『形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)』は、基本的な形容詞 136 語を取り上げ、形態、意味、統語、慣用表現などに関する情報を記述したものである。

「見出し情報」は、次の項目からなる。

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 見出し語 | 形容詞のひらがな表記 |
| (2) 語義番号 | 見出し語を語義の違いで分けたものに与えた通し番号 |
| (3) 語義数 | 語義の総数 |
| (4) 区分番号 | 語義の違いで分けたものをさらに終止用法の違いで分けたものに与えた通し番号 |
| (5) 区分数 | 終止用法による下位区分の総数 |

「見出し語」は記述対照となる 136 語の形容詞をひらがなで示したものである。なお、ひらがなでは区別できない「暑い」と「厚い」には、判別のための番号をつけ、それぞれ「あつい1」「あつい2」とした。

見出し語を意味的・統語的特徴によって下位区分した結果に対し、形態、意味、統語、慣用表現などの情報を記述した。語義番号は語義の違い、区分番号は終止用法（文型・述語素）の違いで下位区分したものの番号である。以下、項目ごとに解説を加える。

2. 見出し語

ここでは、一般の辞書で「見出し語」として扱われるものを「単語」と呼ぶ。ある単語が形容詞であるかどうかの判定は、以下の (i) (ii) (iii) の三つの条件による。

- (i) 見出し語の形が「-い」で終わるか
- (ii) その見出し語の形のままで名詞を修飾する用法（連体用法）があるか
- (iii) その見出し語の形のままで述語になる用法（終止用法）があるか

今回の形容詞辞書では、(i) の条件をみたす単語のうち、さらに (ii) か (iii) のいずれか一方、あるいは両方の条件をみたすものを「形容詞」と認めた。

例えば、見出し語の形が「-い」で終わる「うつくしい」は (ii) (iii) の用法があるので、形容詞と認めることができる。

- (1) 見出し語： うつくしい (i)
 用法： うつくしい庭 (ii)
 庭がうつくしい (iii)

また、見出し語の形が「-い」で終わる「めぼしい」は (i) (ii) の条件によって形容詞と認められるが、(iii) の用法が欠けている。

- (2) 見出し語： めぼしい (i)
 用法： めぼしい作品 (ii)
 *作品がめぼしい (iii)

(i) (ii) (iii) の三つの条件をみたすものでも、次の「かたい」のように、結びつく名詞によっては (ii) の用法がない場合もある。

- (3a) 見出し語： かたい (i)
 用法： かたい石 (ii)
 石がかたい (iii)

- (3b) 見出し語： かたい (i)
 用法： *かたい入賞 (ii)
 彼の入賞はかたい (iii)

ところが、見出し語の形が同じ「-い」で終わる「きれい」は一見形容詞に見えるが、「そのままの形」で名詞を修飾する用法も述語になる用法もないので、上にあげた条件からは形容詞と呼ぶことはできない。

- (4) 見出し語： きれい (i)
 用法： きれいな庭 (ii)
 庭がきれいダ (iii)

この辞書では(1)―(3)を形容詞と認め、記述の対象にした。印刷形式の左上にある「見出し」欄には、市販の辞書と同様、終止形と同じ形を「見出し語」として記載した。

なお、辞書に収録した見出し語と同形であっても、次のように単独で述語にならない接辞や助動詞の用法は記述していない。

- にくい： 理解しにくい、入りにくい
 やすい： 理解しやすい、入りやすい
 つらい： 理解しづらい、入りづらい
 かたい： 理解しがたい、入りがたい
 ない： 理解しない、入らない

3. 下位区分

この辞書では、見出し語の持つ「用法」を大きく語義と終止用法の二つの観点から分類した。この「用法の分類」を以下では単に「下位区分」と呼ぶ。下位区分を示す番号には、語義番号と区分番号がある。語義番号は、語義の違いによる下位区分を2桁の数字で表示したもので、区分番号は、終止用法（文型・述語素）の違いによる下位区分を2桁の数字で表示したものである。下位区分の概要について、ここで簡単に説明する。

3.1 語義による下位区分の方法

ある見出し語について、異なる同義語、類義語、反義語の組が見つかる場合、類義の違いを認め、下位区分した。

例えば「うまい」には、次に示すような別々の同義語、類義語、反義語の組が見つかる。(これらの用語については、IV.2.「関連後」参照)

見出し語	同義語	類義語	反義語
うまい	おいしい	美味だ	まずい
	上手だ	得意だ 達者だ 巧みだ	下手だ

また、「かわいい」のように、知覚主体の感覚や感情を表わす場合と知覚対象の属性・状態を表わす場合とがあるときにも、類義の違いと捉え、下位区分した。(IV.2.

「意味記述」参照)

見出し語	類義語	文例	意味記述
かわいい	好きだ 愛しい	私は 子供が かわいい	人や動物などに愛情がわき、大切にしたいと思う
	愛らしい 愛くるしい	あの子の瞳は かわいい	外見やしぐさなどがほほえましく、愛情を漢字させる

さらに、次の「よい」のように、形容詞そのものが表わす事柄は同じと考えられても、結びつく名詞句の性質の違いが見られるときには、語義の違いとして下位区分した場合もある。

見出し語	名詞句	
よい	形、音色、色、香り、味、音、…	ある側面がすぐれている
	成績、点数、利益率、回転率、利率、…	数量的な程度が高く、好ましい
	……	……

3.1.1 語義番号

上のように、「見出し語」を語義の違いに基づいて下位区分した結果を、語義番号で示した。一つの見出し語における語義の総数が語義数である。

見出し語	意味記述		記載番号	語義数
うまい	(私は) 味がよいと感じる	→	0 1	0 3
	飲食物などの味がよい	→	0 2	
	人や動物などが何かすることが上手である	→	0 3	

3.2 終止用法の中の下位区分

3.2.1 文型による下位区分の方法

見出し語が述語になる用法（終止用法）において、そこにいくつの名詞句（NP）が現われ、それぞれの名詞句がどのような格助詞（格形式）を伴うかを表示したのが、「文型」である。ひとつの語義で複数の文型がある場合は、さらに下位区分とした。例えば「まるい」の「形が円または球に近い」という語義や、「やさしい」の「態度が穏やかで思いやりがある」という語義では、次に示すような文型が見られる。

見出し語	語義番号	文例		文型
うまい	0 1	このケーキの形は 丸い 犯人の顔は 丸い	→	NPガ
		このケーキは 形が 丸い 犯人は 顔が 丸い 犯人は 顔の形が 丸い	→	NPガ NPガ
やさしい	0 1	彼女は 優しい	→	NPガ
		彼女は 気立てが 優しい	→	NPガ NPガ
		彼女は 皆に 優しい	→	NPガ NPニ

このように、同じ語義でも文型に違いがある場合には下位区分とした。（詳しくは V.2.1 「文型」参照）

3.2.2 述語素による下位区分の方法

文型内の二つの名詞句の関係を表わすものを、動詞辞書と同様「述語素」と呼ぶことにする。同じ文型でも名詞句間の関係に違いがあれば、さらに下位区分の対象となる。先の例の「まるい」の「NPガNPガ」という文型には、次のような違いが見られる。

- (1) a. このケーキは 形が 丸い
b. このケーキは 丸い

- (2) a. 犯人は 顔が 丸い
 b. *犯人は 丸い
- (3) a. 犯人は 顔の形が 丸い
 b. *犯人は 丸い

(1)では「形が」の部分を省略しても意味が変わらないが、(2)では「顔が」の部分を省略できない。また、(3)は(1)と同じ「形」という名詞を含んでいるが、「顔の形が」の部分省略できない。このことは、単に「ケーキ」と「形」という二つの名詞句の関係として考えるだけでは不十分である。(4)にも、(1)と同じ二つの名詞句が現われるが、やはり「形が」を省略できないからである。

- (4) a. このケーキは 形が 悪い
 b. *このケーキは 悪い

この違いをどこに求めるとすれば、それは述語以外には考えにくい。「述語素」という名称および以下にあげる36種の述語素は、述語とそれに従属する名詞句の結ぶ関係を表示するものである。例にあげた「まるい」の「NPガNPガ」という文型は、述語素の違いによって三つに区分できる。(詳しくは V. 2. 4「述語素」参照)

文型	文例		述語素
NPガNPガ	このケーキは 形が 丸い	→	PV
	犯人は 顔が 丸い	→	PA
	犯人は 顔の形が 丸い	→	TR

このように、同じ文型で述語素に違いがある場合も、下位区分の対象となる。

3.2.3 区分番号

同じ語義を表わす終止用法の中でも、文型や述語素に違いがある。この違いに基づいて、下位区分した結果を区分番号で示した。区分数はその総数である。「まるい」は次のように表示されている。区分番号は、原則として、格助詞(格形式)や述語素の優先順位に従った。ただし、格助詞(格形式)の交換がある場合や区分数が多い場合には、記述内容を追いやすように順序づけた。

見出し語	語義番号	語義数	文型	文例	述語素	区分番号	区分数
まるい	01	03	NPガ	このケーキの形が 丸い	O1	01	04
			NPガNPガ	このケーキは 形が 丸い	PV	02	
				犯人は 顔の形が 丸い	TR	03	
				犯人は 顔が 丸い	PA	04	

なお、連体用法だけで終止用法がない見出し語がある。このような場合は、文型・述語素による下位区分がないので、区分数は「00」になる。

見出し語	語義番号	語義数	文型	文例	述語素	区分番号	区分数
めぼしい	01	01	——	めぼしい作品がない	—	—	00

以上のように、見出し語を語義の違い、終止用法の文型や述語素の違いに基づいて下位区分し、その結果を語義番号と区分番号で階層的に示した。

これに伴い、本辞書では、語義の違いによる下位区分ごとに共通した情報を、1ページ目（左ページ）にまとめて示した。2ページ（右ページ）以降には、下位区分した終止用法の情報をそれぞれ示した。見出し情報は各ページに記載してある。（注1）

1ページ目 形態情報
 意味情報
 統語情報2（連体用法・連用用法）
 慣用表現

2ページ目以降 統語情報1（終止用法）

4. 記載例

あつい

<1ページ目>

見出し	あつい 2	語義番号	語義数	区分数
		01	04	03

<2ページ目>

区分番号				
01				

区分番号				
02				

区分番号				
03				

めぼしい

< 1 ページ目 >

見出し	めぼしい	語義番号	語義数	区分数
		0 1	0 1	0 0

< 2 ページ目 >

[空白]

注 1) 動詞辞書と併用する場合

形容詞辞書の「見出し語」は、動詞辞書の「エントリ」にあたるものである。

動詞辞書では、エントリ（見出し語）を語義、文型、述語素の違いで下位区分したものを「サブエントリ」と呼び、これを一つの単位として形態・意味・統語・文法的カテゴリ・慣用表現について記述していた。

今回の形容詞辞書でも執筆にあたって同じ奉仕を取った。その結果、文型や述語素に違いがあっても、語義による下位区分が同じものは、形態・意味・慣用表現・連体用法・連用用法の情報も、共通していることがわかった。そこで形容詞辞書では、重複を避けるため階層的に編集した。「サブエントリ番号」という用語を使わずに、「語義番号」と「区分番号」で同じ内容を示すことにした。

動詞辞書と同じようにサブエントリ番号をつけたい場合は、次の図のようにすればよい。一つの見出し語（エントリ）の「語義番号：0 1」「区分番号：0 1」から順にサブエントリ番号を加算していく。ただし、終止用法がないために区分数が「0 0」となっているものも一つのサブエントリと数える必要がある。

[形容詞辞書]

見出し語	語義数	語義番号	区分数	区分番号
	0 4	0 1	0 2	0 1
				0 2
		0 2	0 3	0 1
				0 2
				0 3
		0 3	0 0	—
		0 4	0 1	0 1

⇒

[動詞辞書の形式]

サブエントリ番号
0 1
0 2
0 3
0 4
0 5
0 6
0 7

III 形態情報

0. 印刷形式

形態情報	表記					
	語幹		語尾		異同音語	
	派生語	名詞			形動	
		形容詞			副詞	
	動詞					
複合語						

1. 表記

見出し語に漢字表記のある場合は、漢字ひらがな交じりで記載した。読みは漢字のあとにひらがなで示した。漢字表記のない場合には、ひらがなで表記した。漢字表記に関しては複数の辞書を参考にした。

例 しろい → 白(しろ)い
しつこい → しつこい

表記は以下の原則によって記載してある。

- ① 漢字表記が何種類かある場合は、標準的だと思われる表記から順に並べた。

例 まるい → 丸(まる)い, 円(まる)い

- ② 送り仮名のつけ方が何種類かある場合は、標準的な表記を最初に示してある。

例 あかるい → 明(あか)るい, 明(あ)かるい
こまかい → 細(こま)かい, 細(こまか)い

- ② 漢字を2字以上含み、漢字1字ごとに読みが対応する場合には、それぞれの漢字に読みを示してある。漢字1字ごとに読みが対応しない場合には、複数の感じのあとに読みを示した。

例 ありがたい → 有(あり)難(がた)い, 有(あ)り難(がた)い
おいしい → 美味(おい)しい

④ ひらがな表記の方が普通の場合、まずひらがな、次に漢字を含む表記を示した。

例 うまい → うまい, 旨 (うま) い

⑤ 常用漢字表にない漢字、または常用漢字音訓表にない読みを含む場合には、その表記を[]に入れて最後に示した。複数の表記が[]に入るときは、コンマではなく読点で区切ってある。

例 くやしい → くやしい, 悔 (くや) しい, [口惜 (くや) しい]
うまい → うまい, 旨 (うま) い, [甘 (うま) い, 美味 (うま) い]

2. 語幹

活用語において、活用に際して変化しない部分を「語幹」と呼ぶ。活用語は語幹と語尾により一語となる。語幹は[表2]に従ってローマ字表記してある。(活用については[参考1]参照)

例 あらい → ara (活用例 ara-i, ara-ku)
いちじるし → itizirusi (活用例 itizirusi-i, itizirusi-ku)

長音はひらがな表記に基づいてローマ字表記してある。すなわち、「お」はo、「い」はiと表記してある。

例 とおい → too
ちいさい → tiisa

[表2] ローマ字表記

a	i	u	e	o			
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
sa	si	su	se	so	sya	syu	syo
ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
ya	(i)	yu	(e)	yo			
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
wa	(i)	(u)	(e)	(o)			
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo
da	di	du	de	do	dya	dyu	dyo
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo
1. はねる音「ン」はすべてnと書く 2. つまる音は、子音字を重ねて表わす							

3. 語尾

形容詞の中には、その語幹と同じ形の語幹を持つ形容動詞が存在するものがある。ここでは、「-い、-な、-だ」のうち、見出し語の語幹の形式に接続可能なものを記載した。それによってそれぞれの語幹に対応する形容動詞が存在するかどうかを示した。

「-い」のみ記載されている場合は、対応する形容動詞は存在しない。「-い、-な、-だ」が記載されている場合は、対応する形容動詞が存在する。「-い、-な」は記載されているが、「-だ」はない場合は、対応する形容動詞のうち、連体形のみが存在する。この連体形のみ形容動詞については、これを連体詞とする説もあるが、ここでは便宜上、形容動詞とした。

なお、「あお、あか」のように、形容詞の語幹のみで名詞になりうる場合は、語幹と同じ形式に「-だ」が接続可能であるが「-な」はつかない。このような名詞に接続する「-だ」については、この欄では扱っていない。(5. 1 「派生名詞」参照)

例	あまい	→	-い	(対応する形容動詞なし)
	あたたかい	→	-い、-な、-だ	(対応する形容動詞あり)
	おおきい	→	-い、-な	(対応する形容動詞あり)

4. 異音同語

意味がほぼ同じで、音形変化による異形態の語を異音同語とし、ひらがなで記入した。

例	さびしい	→	さみしい
---	------	---	------

5. 派生語

派生とは、ある語の語根、または語根を含む要素にいろいろな接辞がついて、別の語をつくる現象を指す。「いた=さ」「いた=む」の「いた」のように、語の基本となる部分を語根といい、それ以外の補助的な要素「-さ、-む」などは接辞という。

この欄では、見出し語と語根を同じくする語を品詞別に記入した。表記はすべてひらがなで示し、いかに挙げる接辞に関しては、語根を- (ハイフン) で示した。このとき語根は、原則として語幹(活用において変化しない部分)と同じ形態である。

また、「ほそい」に対する「ほそぼそ」、「よわい」に対する「よわよわしい」などもここでは派生語として扱った。

5.1 派生名詞

「-φ、-さ、-み、-め」について、語根に接続可能なものを示してある。

- ① -φ： 接辞なしで、語根のまま名詞として使える場合を示す。

例 あかい → あか

記入例

-φ

- ② -さ： 形容詞の示す性質・状態やその程度を表わす名詞を作る。ほとんどの形容詞につく。

例 しろい → しろさ
たかい → たかさ

記入例

-さ

- ③ ーみ： i) 形容詞の表わす状態・性質を意味する名詞、または ii) 形容詞の表わす状態・性質を持つ場所や部分を意味する名詞を作る。

例 i) あまい → あまみ
ii) ふかい → ふかみ
つよい → つよみ

記入例

ーみ

- ④ ーめ： 程度が普通よりも高いことを意味する名詞を作る。

例 たかい → たかめ

記入例

ーめ

- ⑤ その他、派生名詞があれば記入してある。

例 とおい → とおく
(例 とおくを見る)

記入例

とおく

5.2 派生形容動詞

「ーげ、ーそう」について、語根に接続可能なものを示してある。

- ① ーげ： 「そのような様子をしている」という意味を表わす。

例 さびしい → さびしげ

記入例

ーげ

- ② ーそう： i) 「ある内面的性質が表面に現れている」という意味、または ii) 「近くある事象が起こることを予測・予感させるような様相を呈している」という意味を表わす。

例 i) うれしい → うれしそう 父はうれしそうだ
ii) あつい → あつそう 今日暑そうだ

記入例

ーそう

なお、「ーげ、ーそう」は主語が人の場合、人称に制限を受けることがある。
(人称制限については[参考3]参照)

- ③ その他、派生形容動詞があれば記入してある。

例 しろい → まっしろ

記入例

まっしろ

5.3 派生形容詞

- ① 派生形容詞があれば記入してある。

例 さびしい → ものさびしい、うらさびしい
まるい → まんまるい

記入例

まんまるい

5.4 派生副詞

- ① 派生副詞があれば記入してある。「まるまると」の「と」のように、ある要素を伴う形と伴わない形の両方が可能な場合、その随意的な要素を () に入れた。

例 こわい → こわごわ
 まるい → まるまる（と） 記入例

まるまる（と）

5.5 派生動詞

「-む、-まる、-める、-ぶる、-がる、-すぎる」について、語根に卒族可能なものを示してある。

- ① -む： 「そのような状態・性質である、またはそのような状態・性質になる」という意味の自動詞を作る接尾辞。

例 いたい → いたむ 記入例

-む

 なつかしい → なつかしむ

- ② -まる： i) 「そのような状態・性質になる」という意味の自動詞を作る接尾辞。
 ii) それ以外の意味のあるときは、派生動詞欄に-（ハイフン）を用いなくて記入し、備考欄にその意味を記載した。

記入例 i) ふかい

派生動詞	-まる
------	-----

ii) ひろい

派生動詞	-ひろまる
備考1	<形>ひろまる「広範囲に伝わる」の意味

（<形>は、形態に関する記載事項であることを示す）

- ③ -める： i) 「そのような状態・性質にする」という意味の他動詞を作る接尾辞。
 ii) それ以外の意味のあるときは、「-まる」と同じように記入した。

記入例 i) ふかい

派生動詞	-める
------	-----

ii) ひろい

派生動詞	-ひろめる
備考1	<形> ひろめる「広範囲に知らせたり、行われるようにする」の意味。

- ④ -ぶる： i) 「いかにもそれらしく振舞う」という意味の自動詞を作る接尾辞。
 ii) それ以外の意味のあるときは、「-まる」と同じように記入した。

記入例 i) えらい

派生動詞	-ぶる
------	-----

ii) たかい

派生動詞	たかぶる
備考1	<形> たかぶる「感情が激しくなる、興奮する」の意味。

- ⑤ ーがる：原則として感情・感覚を表わす形容詞に接続して「そのような様子をする、気持ちを示す、ふりをする」という意味の自動詞を作る接尾辞。三人称主体の状態を客観的に述べるが、自己を客観化して述べる場合には一人称主体にもつく。

(IV. 3. 1 参照) 文型の対応関係は、原則として以下のようになる。

NP 1 ガ[語幹ーイ] → NP 1 ガ[語幹ーガル]
 NP 2 ガ NP 1 ガ[語幹ーイ] → NP 2 ガ NP 1 ヲ[語幹ーガル]
 NP ニ NP 1 ガ[語幹ーイ] → NP ガ NP 1 ヲ[語幹ーガル]

感情・感覚を表わす用法と、属性を表わす用法の両方を持つ見出し語の場合、意味分類で感情もしくは感覚とされている語義についてのみ、「ーがる」が接続するかどうかを記入してある。

例 かなしい

私はかなしい(感情) → かなしがる(あの人は悲しがっている)

秋はかなしい(属性) → 無記載

なつかしい

私は昔がなつかしい(感情) → なつかしがる

(彼は昔をなつかしがる)

記入例	派生動詞	ーがる
-----	------	-----

属性を表わす用法しか持たない見出し語の場合、備考1に例文を記載した。

例 つよい 彼はつよい(属性) → つよがる

記入例	派生動詞	ーがる
	備考1	<形> ーがる「彼はつよがっている」

上記以外の意味のあるときは、「ーまる」と同じように記入した。

記入例	ひろい	派生動詞	ひろがる
		備考1	<形> ひろがる「広範囲に行われる」の意味。

- ⑥ ーすぎる：「程度が基準を超えている」という意味を表わす。

例 たかい → たかすぎる 記入例

ーすぎる

- ⑦ その他、派生動詞があれば記入してある。

例 あおい → あおぎめる 記入例

あおぎめる

6. 複合語

独立して用いられる語が複数集まって一つの語となったものを複合語という。派生語は語根と接辞が結びついたものであるのに対し、複合語は単語どうしの結びつきから成る。この欄では、見出し語あるいはその語根を含む複合語を記入した。便宜上、「よしあし」なども複合語の欄で扱っている。(VII. 1. 「慣用表現」 IV. 2. 「関連語」参照)

ひらがなで見出し語または語根を示し、その他の部分に漢字表記のある時には漢字を用いた。なお、「あまい+さけ」→「あまざけ」のように二つめの要素の最初の音が濁音に変ることを連濁という。連濁の起きている場合には読みを示した。また、複合語を作る構成要素が複数の要素と接続可能な場合は、接続する要素を～で表わし [] 内にその例を示してある。[] 内の例は、コンマではなく、読点で区切ってある。

例 くるしい → 心ぐるしい
あまい → あま～ [あま酒 (ざけ)、あま茶]
ながい → ～なが [足なが、面なが、縦なが、横なが]、細ながい

7. その他

形態に関して注記すべき事項があれば、備考1に記入してある。

例 あかい → <形> 「あかむ」「あかめる」ではなく、「あからむ」「あからめる」となる。
こい → <形> 「こめ」ではなく「こいめ」となる。
よい → <形> 終止形・連体形は、「いい」となることが多い。

8. 記載例

あおい 01 「色が青か青に近い」 文例：空の色が青い。

形 態 情 報	表記	青 (あお) い, [碧 (あお) い]				
	語幹	a o	語尾	-い	異同音語	
	派生語	名詞	-φ, -さ, -み, -め		形動	-そう, まっさお
		形容詞	あおっぼい		副詞	あおあお (と)
	動詞	-すぎる, あおみがる				
複合語	あお～ [あお色、あお黒 (ぐろ) い]					

【参考1】 形容詞の活用

活用とは、動詞、形容詞、形容動詞、助動詞が用法によって語形が変わることをいう。形容詞の活用の代表的な形を〔表3a〕で示す（注1）。また〔表3b〕は文語の活用を示す。学校文法の活用表も〔表4a, b〕に示した。

〔表3a〕 形容詞の活用表 i) 口語

文体			普通の文体		丁寧な文体 (注2)	
			肯定	否定	肯定	否定 (注3)
用法	時制	現在	高い	高くない	高いです	高くありません
		過去	高かった	高くなかった	高かったです	高くありませんでした
	推量	現在	高いだろう	高くないだろう	高いでしょう	高くないでしょう
		過去	高かっただろう	高くなかっただろう	高かったでしょう	高くなかったでしょう
述語となる形	断定	現在	高い	高くない	高いです	高くありません
		過去	高かった	高くなかった	高かったです	高くありませんでした
連体の形	現在	高い	高くない			
	過去	高かった	高くなかった			
連用の形			高く			
中止の形	／	高く				
	テ	高くて	高くなくて			
並列の形	タリ	高かったり	高くなかったり			
条件の形	ナラ	高いなら	高くないなら			
	タラ	高かったら	高くなかったら			
	バ	高ければ	高くなければ			
逆条件の形	テモ	高くても	高くなくても			

注1 鈴木(1972)、吉川(1989)

注2 「高いです」よりもさらに丁寧な言いかたとして、「高うございます」がある。「ございます」が後続する場合には、ウ音便が起る。音便については〔参照2〕参照。

注3 否定の場合には「高くない」「そう高くもない」のように「は」「も」などの助詞が入ることがある。

[表 3 b] 形容詞の活用表 i) 文語

用法		時制	肯定	否定
述語となる形	断定	現在	高し	高からず
		過去	高かりき 高かりけり	高からざりき 高からざりけり
	推量	現在	高かるらむ	高からざるらむ
		過去	高かりけむ	高からざりけむ
	命令		高かれ	高からざれ
連体の形	現在	高き	高からぬ	
	過去	高かりし 高かりけり	高からざりし 高からざりけり	

[表 4] 形容詞の活用表 ii)

a) 口語

b) 文語

活用形	語形変化 (注 3)
未然形	高かろーう
連用形	高くーなる 高かつーた
終止形	高い
連体形	高いーとき
仮定形	高けれーば
命令形	/

活用形	語形変化	
未然形	高からーず	美しからーず
連用形	高くー飛ぶ 高かりーき	美しくー咲く 美しかりーき
終止形	高し	美し
連体形	高きーとき 高かるーとき	美しきーとき 美しかるーとき
已然形	高けれーば	美しけれーば
命令形	高かれ	美しかれ

注 3 - (ハイフン) の左側は語幹+活用語尾を、右側は代表的な後続要素を表わす

[参考 2] 音便

発音の便宜上、ある音が元の音と違った発音をされることがあるが、それを音便という。形容詞の場合、「ございます」が接続するときにウ音便となる。ウ音便では、連用形語義-k u のkが脱落し、次のような形になる。

- 1) 語幹が u で終わる場合、ウ段長音となる
 例 さむく さむうございます
 samu-ku → samu-u → samuu
- 2) 語幹が o で終わる場合、オ段長音となる
 例 しろく しろうございます
 siro-ku → siro-o → siroo
- 3) 語幹が a で終わる場合、オ段長音となる
 例 たかく たこうございます
 taka-ku → taka-u → takoo
- 4) 語幹が i で終わる場合、ウ段長音となる
 例 うれしく うれしゅうございます
 uresi-ku → uresi-u → uresyuu (参考文献 鈴木 1972)

[参考 3] 人称制限

形容詞が感覚・感情を表わす場合、終止用法（現在・断定・肯定）では話し手自身の感覚・感情を表わすのが普通である。そのため、(1a)のように感覚・感情の主体が明示されないときには、それは話し手として解される。また、主体が明示されるときでも、名詞句は一人称に限られる。(1b)は自然な文であるが、(1c, d)はそうではない。

- (1) a 冷たい水がほしい
 b 私はさびしい
 c ?あの人さびしい
 d ?あなたはさびしい

二、三人称について述べるためには、助動詞「-がる」を用いる。

- (2) あの人さびしがっている

また、話し手の判断・推量を表わす助動詞や過去時制の文、疑問文などでも、一人称以外に言及できる。従属節や連体修飾の場合も同様である。

- (3) a 太郎はさびしいのだ 太郎はさびしいらしい 太郎はさびしそうだ
 b 太郎はさびしかった
 c 何がほしいの
- (4) a 太郎はさびしくなると、母に電話をかける
 b 太郎がこわい犬

その他、小説の叙述などでは、終止用法においても二、三人称が現れることがある。

一方、「-がる」「-そう」などは、主体の内的な状態について客観的に述べる表現であるので、(5a)のような一人称主語の文はおかしい。(5b)では、話し手が自分の状態を客観的にとらえている。このような場合ならば、一人称についても「-がる」を用いることができる。

- (5) a ?私はさびしがっている ?私はさびしそうだ
 b あんなことを面白がったのがはすかしい

(参考文献 西尾 1972、井上 1976、寺村 1982)

IV 意味情報

0. 印刷形式

意味 情報	意味記述						
	関連語	同義					
		類義					
		反義					
意味の分類			段階性		評価 または 快不快		

1. 意味記述

これは、形容詞の各語義をわかりやすく示すために、それぞれの意味を簡潔に記述したものである。

形容詞の項（V. 2. 1. 1 参照）となる名詞句の制限や、その名詞句のどの側面を問題にするのかということ、必要に応じて、下線部のように記述することで示した。

記入例

くろい	01	シャツのえりが黒い	→	<u>物が汚れて</u> 黒っぽく見える
くろい	02	彼は髪が黒い	→	<u>色が黒か</u> 黒に近い

形容詞の中には、語義によっては連体用法しか許さないものもあるが、その場合、意味記述も、連体修飾語としてふさわしいと思われる言い方で記述した。

記入例

くろい	03	黒いうわさ	→	不吉で悪意があるような
-----	----	-------	---	-------------

形容詞が感覚・感情を表わす場合、一人称主語の心理状態について「私はさびしい」のようにいうが、「あの人はさびしい」とは言わない。（人称制限についてはⅢ. 参考3を、感覚・感情については3.1を参照）このように主語が一人称に制限されることを「(私は)」を付け加えることで意味記述に反映させた。

記入例

あつい	01	暑いねえ	[感覚]	→	(私は) 気温がたかすぎると感じる
-----	----	------	------	---	-------------------

かわいい 01 私は孫がかわいい[感情] →

(私は)人や動物などに
愛情がわき、大切にしたい
と思う

2. 関連語

形容詞の語義それぞれに対し、意味的な関連を持つ語（形容詞以外の語も含む）のうち後述の規準に合うものを、同義語・類義語・反義語として記入した。記入の仕方は次の通りである。

- ① 終止用法と連体用法で形が異なるものについては、下線部のように斜線で区切って両方の形を記入した。(注1)

例 まるい 01 このめがねのフレームは丸い → 円形だ／の
／丸いフレーム
うまい 03 彼は歌がうまい／うまい歌 → 上手だ／な
ひとしい 01 二辺の長さが等しい／等しい長さ → 同じだ／φ

ただし、見出し語が、当該の語義においてどちらか一方の用法でしか用いられない場合は、関連語に関しても以下のように対応する形のみを記入した。

例 くわしい 02 くわしい事情 → 詳細な
かたい 09 Aチームの優勝は堅い → 確実だ

- ② 連体用法・終止用法どちらか一方のみが可能なものについては、その可能な用法に関して見出し語との対応関係を検討し、以下2.1-2.3に示す規準に合えば、関連後として記入した。

例 おおきい 02 この靴は大きい／大きい靴 → 大きな

- ③ 「動詞+ている」については、連体用法として「動詞+た」も併用されることが多く、その場合も以下のように記入した。

例 くわしい 03 田中君は京都の地理に詳しい → 精通している／た
／地理に詳しい人 (動詞+ている／た)

- ④ 形の上で二語以上からなる表現でも、一つのまとまった意味を表わしていると考えられるものについては、記述の対象に含めた。

例 つまらない 04 つまらないもの → 取るに足りない

- ⑤ 形態情報の派生語、複合語の欄と重複しても、該当するものがあれば記入した。ただし、形態情報の異音同語に相当するものは、関連語では扱わなかった。

例	あおい	05	月の光が青い／青い月の光	→	青白い	(複合語)
	あやしい	01	あの男は挙動が怪しい ／怪しい男	→	怪しげだ／な	(派生語)

2.1 同義語

意味にはほとんど違いがないものを同義語としたが、文体的な差は考慮しなかった。
同義語には、原則として、見出し語と置き換えた場合に、どの名詞(句)と結びついても、不自然にならないものを記入した。

記入例	うまい	02	日本の戸めはうまい ／うまい米	→	おいしい
	あぶない	01	この端は危ない ／危ない端	→	危険だ／な

2.2 類義語

意味が似ているものを類義語とし、同義語は類義語から除外した。
同義語の場合よりも制限は緩く、見出し語と置き換えた場合、名詞句によっては不自然になることもある。

記入例	あたたかい	02	日本は暖かい この部屋は暖かい	温暖だ *温暖だ	→	温暖だ／な
	えらい	01	シュバイツァー博士は偉い 彼は腹をたてないから偉い	偉大だ *偉大だ	→	偉大だ／な

次の例に示すように、見出し語と基本的な意味は共有するが、さらに何らかの意味を加えたものも類義語に含めた。

記入例	ながい	03	彼の小説は長い	→	長たらしい
-----	-----	----	---------	---	-------

2.3 反義語

意味が対立する二つの語義の組を互いに反義語の関係にあると考えた。また、意味が互いに対立し合っている、三つ以上の語が相互に対立的であるものは、反義語とはしなかった。

記入例	あかるい	01	この部屋は明るい	→	暗い	(明るいー暗い)
	くろい	01	このペンキは黒い	→		(くろいーあかいーきいろい...)

反義語として記入した語は、原則として該当の語義において、どの名詞（句）と結びついて、その反義関係が認められるものである。語義ごとに、名詞（句）との結びつきを検討して判断した。

一部の名詞（句）との結びつきが不自然になる場合でも、反義語として認めたものには次のような例がある。

- a) 名詞（句）に意味的な片寄りがあることから来る不整合

例 反義語： ころよ 01 → 不快な
 快いそよ風
 *不快なそよ風

この場合、「そよ風」自体に快いものという意味的な片寄りがあり、そのために「不快な」との結びつきが不自然になっている。このような場合、片寄りのない一般的な名詞（句）を入れると不自然さが解消されるので、反義語として認めた。

例 快い風
 不快な風

- b) 名詞（句）の意味的な広がり、反義関係とずれる場合

例 反義語： ふとい 01 → 細い / ほそい 01 → 太い
 太い線 ←→ 細い線
 *太い道 ←→ 細い道

「線」という名詞には、「太い」と「細い」の両方が無理なく結びつく。しかし「道」との結びつきでは、「細い道」はいいが、「太い道」は不自然に感じられる。これは、問題になっている語義で、「太い」は「細い」と反義関係にあるのだが、名詞の「線」と「道」に意味的な広がりや違いがあるからだと考えられる。「線」の方は幅を広げていっても、「線」として認識されるうちは「太い」と言えるが、「道」の方は、幅を広げていくと、「空間」として認識されるほうが自然になり、「太い」で形容するよりも「広い」で形容する方が自然になる。（「道」が空間として認識されない場合、例えば地図を見て話している場合などには「太い線」と同様に「太い道」も可能であろう。）以上のことから、当該の語義においては、「太い道」は不自然であるが、「太い」と「細い」は反義関係にあると考えた。

3. 意味の分類

3.1 属性・感覚・感情の区別

従来から形容詞は、知覚対象の属性・状態について述べるものと、知覚主体の状態について述べるものと大きく二分することが行なわれている。前者を「属性形容詞」と呼ぶ。後者は更に、知覚主体の感覚について述べる「感覚形容詞」と、知覚主体の感情について述べる「感情形容詞」に分けられる。

例 属性形容詞 ・ ・ ・ ・ ・ 大きい、長い、青い
 感覚形容詞 ・ ・ ・ ・ ・ 痛い、苦しい、眠い
 感情形容詞 ・ ・ ・ ・ ・ うれしい、ほしい、憎い

しかし、例えば「感情形容詞」に分類される語が常に知覚主体の感情を表わすとは限らず、用法により知覚対象の属性・状態を表わすこともある。

例	私は孫がかわいい	感情を表わす
	かわいい女の子	属性を表わす
	私は暑い	感覚を表わす
	この部屋は暑い	属性を表わす

このような理由から、当辞書では、従来のような各形容詞を「属性形容詞」「感覚形容詞」「感情形容詞」のどれかに分類するのではなく、形容詞の語義を単位とし、当該の語義において問題の形容詞が何について述べるものであるかを、「属性」「感覚」「感情」に分類、記述した。

例	私は孫がかわいい	→	感情
	この人形はとてもかわいい	→	属性
	私には荷物が重い	→	感覚
	彼の荷物は重い	→	属性

3.1.1 属性・感覚・感情の特徴

属性・感覚・感情の区別は、基本的には意味的なものであるが、属性と感覚・感情の間では、意味的な違いだけでなく、形態的・統語的な特徴に違いが見られることも多く、これらの特徴も判断の規準として用いた。

属性と感覚・感情を区別するのには次のような規準を用いた。

① 動詞を作る接尾辞「-がる」は感覚・感情に分類されるものには付くが、属性に分類されるものには通常付かない。(Ⅲ 5.5 「-がる」の記述参照)

例	属性	あおい	*空を青がる
	感覚	まぶしい	太陽をまぶしがる
	感情	うれいし	友達の親切をうれしがる

② 「-くなる」は、属性・感覚・感情のどれにも付くが、属性では 知覚対象の状態が変化するのに対し、感覚・感情では知覚主体の状態が変化する。

属性	あおい	空が青い 空が青くなる] 知覚対象である「空」の状態の変化
感覚	いたい	(私は) 足が痛い (私は) 足が痛くなる	
感情	にくい	(私は) 健が憎い (私は) 健が憎くなる] 知覚主体である「私」の状態の変化

「こわい」には、属性の語義と感情の語義の両方があり、そのた「こわくなる」は次の二つの意味を持つことになる。

例 そのことがあってから、山田先生が前よりこわくなった

属性の語義 山田先生自身（知覚対象の性質）が変わった

感情の語義 山田先生は変わらないが、私（知覚主体の状態）が変わった

③ 形容詞が、文の述語になる場合、終止用法（断定・現在・肯定）では、感覚・感情に分類されるものの主語は第一人称に限られる。

感覚 いたい (私は) 手が痛い
*彼女は手が痛い

感情 うれしい (私は) 母のはげましの言葉がうれしい
*彼女は母のはげましの言葉がうれしい

上記の規準は、属性と感覚・感情を区別するのに有用ではあるが、これにより、すべての形容詞が、明確にどちらかに分けられるというわけではない。これは、属性と感覚・感情という意味的な区別と、形態的な特徴や統語的な特徴との間の相関関係が、絶対的なものではないためである。また、形容詞によっては、属性と感覚・感情という意味的な区別そのものに関して、中間的であると考えられるものがある。(中道 1986 参照) 当辞書では、このような中間的な形容詞については、属性と感覚、属性と感情の二つに分けて記述した。

例 おいしい (私には) この料理がおいしい 感覚
彼女の料理はおいしい 属性

おもしろい (私は) きのうのピクニックがおもしろかった 感情
この雑誌はおもしろい 属性

感覚と感情の区別に関しては、上で述べたような客観的なテストは考えにくい。そこで、五感で具体的に感じると考えられるものと、そうでないものとに分け、前者を感覚、後者を感情とした。

3.2 形容詞の意味分類

3.2.1 形容詞意味分類項目

記述の対象となった形容詞の分類（語義による下位区分）をもとに、記述対象外の形容詞の意味も考慮に入れ、次ページ [表 5] に示す意味分類項目をたてた。（注 2）
（各意味分類項目にどのような形容詞が入るかについては、3.2.4 を参照のこと）

【表5】 意味分類項目一覧

存在・数量	緊張	要求	心理
程度 { 範囲 十分不十分	かたさ { 硬度 弾力性 柔軟性	執着	苦楽 悲喜 怒り 安心 焦躁 恐怖 優越感 満足 快不快 悔恨 反省 罪悪感 煩瑣 好悪 羨望 滑稽 興趣 興奮
逸脱	緊密	親密	
時 { 期間 新旧 { 老若 成熟 時期 速度 間隔	難易	要不要	
緩急	未使用	過失責任	
順序	正誤	陰気陽気	
空間的広がり { 量 { 大小 広狭 厚薄 太細 長短 遠近 高低 深淺 傾斜 形状	異同	輕重	
	身分	活発	綺麗 { 美醜 清潔 清濁
	丁寧	願望	
	詳不詳	危險	良否 { 価値 得手不得手 適不適 当不当 可不可 正不正 徳 禍福
	賢愚	不審	
	機能	神秘	
	親切	生理・刺激 { 聴覚・音 嗅覚・におい 視覚 { 明暗 色 鮮明 濃淡 味覚・味 触覚 重量 温度	確實性
強弱 { 力 激しさ 刺激力 耐性 剛健 気力	寛厳		安定
	気性	濃度	不可避
	柔軟	価格	負担
勇敢	残忍	貧富	
活力	積極性		

3.2.2 記述方法

3.2.1 に示した意味分類項目の中から、語義ごとに適当なものを選んで記入した。

例 きびしい	}	01 あの先生は生徒に厳しい	→ 寛厳
		02 父は時間に厳しい	→ 要求
		03 日本チームは五輪出場はかなり厳しい	→ 難易
		04 これから船出する二人の表情は厳しい	→ 緊張
		05 残暑が厳しい	→ 程度

意味分類が改装を成している場合には、上位分類項目と下位分類項目との関係を「;」で表わした。

例 あたらしい	この靴はまだ新しい	→ 時; 新旧
ひろい	その道路の道幅は広い	→ 空間的広がり; 量; 広狭

意味分類名は、一つの語義に対して一つ記入するのが基本としたが、複数の分類名を記入したものもある。その際には次のような記号を用いた。

記号	意味
A + B	「AかつB」
A - B	「AかつB」あるいは「AまたはB」

例 A + B : 新しい担任	→ <u>順序 + 異同</u>
あきらめるのは早い	→ <u>時; 時期 + 良否; 適不適</u>

A / B : 彼女の目もと	} 涼しい	→ 生理・刺激; <u>視覚 / 聴覚・音</u>
風鈴の音が		
この山道は険しい	→ 空間的広がり; <u>傾斜 / 形状</u>	

下位分類の項目三つ以上にあてはまる場合、または下位分類の項目が特定できない場合には、下位分類名は記入せず、上位の分類名のみを記入した。

例	}	は / が 鋭い	→ 生理・刺激
もずの鳴き声			(下位分類項目が三つ以上: 聴覚・音 / 味覚・味 / 嗅覚・におい / 視覚 / ...)
レモンの酸味			
硫黄の臭い			
夏の日差し			
痛み			

この料理の味	}	はしつこい	→ 生理・刺激	
このシャンプーのにおい				(下位分類項目が三つ以上: 味覚・味 / 嗅覚・におい / 視覚)
この服の色				

食べ過ぎて私は苦しかった	→ 生理・刺激
	(下位分類項目が特定できない)

3.2.3 属性・感覚・感情の区別との関係

ここでの意味分類は、属性・感覚・感情の分類とは別の意味的な観点から記述したものであり、下の例に示すように、意味分類名が同じでも感情・感覚・属性の分類において区別されるものもある。

例	かなしい	┌	01	私は友達との別離が悲しかった	→	感情	心理；悲喜
			02	別れは悲しい	→	属性	心理；悲喜
	ねむい	┌	01	私は睡眠不足で眠い	→	感覚	生理；刺激
			02	あの先生の講義は眠い	→	属性	生理；刺激

3.2.4 各意味分類項目の該当例

3.2.1の表に挙げた意味分類項目一つ一つについて、該当する形容詞の例を示す。
(以下に示す例の中には、記述対象外の形容詞も含まれている)

存在・数量

例 ない。少ない。乏しい。多い。想像力が貧しい。

程度
┌ 範囲
└ 十分不十分

程度：名詞や動詞などにより表わされる行為・状態などの程度を表わすもの。

例 疲労がはなはだしい。著しい進歩。ひどい渋滞。えらい寒さ。
おそろしい数。すさまじ勢い。高い精度。確立が低い。
規模が大きい。重い処分。軽いけが。深い関心。浅い知識。
可能性が濃い。関心が薄い。

範囲 例 付き合いが広い。レパートリーが狭い。
十分不十分 例 この写真のピントはあまい。

逸脱

逸脱：普通・平凡・異常・特異などを含む。
例 とんでもない事件。えらい事件。珍しい動物。
そんな格好はおかしいよ。

時
┌ 期間
├ 新旧
├ ┌ 老若
├ └ 成熟
├ 時期
├ 速度
└ 間隔

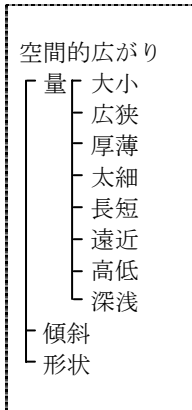
期間 例 短い滞在期間。長い休暇。歴史が浅い。古い付き合い。
新旧 例 新しいビル。古い建物。若き学問。
老若 例 若い人。末の子ももう大きい。子供がまだ小さい。
成熟 例 このバナナはまだ青い。下の子はまだ幼い。
時期 例 この学校の始業時間は早い。今年の桜は開花が遅い。
速度 例 太郎は走るのが速い。彼は歩くのが遅い。
間隔 例 近い将来。遠い昔。

緩急

例 鋭いパンチ。地価の動きが鈍い。緩い川の流れ。動きが重い。
足取りが軽い。

順序

例 若い番号。新しい住所。古い制度。



空間的広がり：空間的な量や形状を表わすもの。

量 大小 例 大きな岩。小さな石。細かい砂。目の粗いやすり。

広狭 例 広い庭。狭い道。

厚薄 例 薄い膜。

太細 例 太い腕。細い指。

長短 例 長いひも。袖が短い。

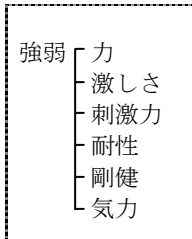
遠近 例 海に近いホテル。私の家は駅から遠い。

高低 例 高い山。重心が低い。

深淺 例 この湖は比較的浅い。深い震源。

傾斜 例 傾斜が鋭い。緩いカーブ。険しい山道。

形状 例 地球は丸い。このカップは底が四角い。鋭いくちばし。険しい山道。



力：力学的な力の大小を表わすもの。

例 彼は力が強い。兄の方が力が弱い。

刺激力：物理的・化学的な刺激など（力学的な力を除く）の強弱を表わすもの。

例 強い酸。火が強い。弱い電流。きついにおい。

激しさ 例 激しい暴風雨。波が荒い。風が強い。弱い地震。

耐性 例 寒さに弱い。酒が強い。この辺は地盤が脆い。

剛健 例 たくましい体。顔が青い。

気力 例 強い忍耐力。精神力が弱い。精神的に脆い。たくましい生命力。

勇敢

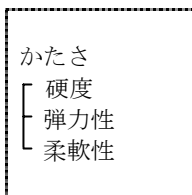
例 勇ましい行動。

活力

例 年の割に若い。

緊張

例 厳しい表情。演技がかたい。険しい目つき。



かたさ：外部からの力などによる変化の容易さを表わすもの。

例 しつこい汚れ。かたい決意。

硬度 例 ダイヤモンドは硬い。柔らかい金属。

弾力性 例 固いベット。このソファのクッションはやわらかい。

柔軟性 例 太郎は体が柔らかい。関節がかたい。

緊密

例 このビンのふたはかたい。靴のひもが緩い。ねじがきつい。

難易

難易：困難などを含む。

例 易しい問題。この機械は操作が難しい。きつい仕事。軽い作業。難しい職場の人間関係。日本の前途は険しい。厳しい状況。

繁簡

例 ややこしい説明。難しい職場の人間関係。

繁忙

例 年末は何かと忙しい。出発の準備で慌ただしい。

未使用	例 新しいコップを出してください。
正誤	例 彼の意見は正しい。問い3の答えはbが正しい。
異同	異同：相似・類似などを含む。 例 等しい二辺。私の考えは彼の考えに近い。正解からは程遠い。
身分	身分：地位などを含む。 例 学校で一番偉い人は校長先生だ。貴い御方。賤しい身分。
丁寧	丁寧：丁重・ぞんざい・粗雑などを含む。 例 彼の仕事は粗い。言葉づかいが荒い。細かい配慮。
詳不詳	例 詳しい意味記述。田中君は京都の地理に詳しい。細かい説明。 田中さんは国際情勢に明るい。彼は歴史に強い。機械が弱い。
賢愚	例 かしこい子供。愚かしい行為。あの人は少しおめでたい。 おめでたい考え。考えが青い。甘い見通し。鋭い質問。
機能	例 イルカの聴力は鋭い。嗅覚が鈍い。胃が弱い。心臓が強い。
親切	親切：不親切などを含む。 例 あの先生は生徒にやさしい。あたたかい思いやり。冷たい態度。 つらくあたる。
寛厳	例 あの先生は生徒に厳しい。鋭い論調。規制が緩い。 彼は孫に甘い。彼女は孫に弱い。あの教授は点が辛い。
気性	例 気性が荒い。性格が激しい。きつい性格。性格が丸い。 おとなしい。
柔剛	例 彼の笑顔はやさしい。やわらかい線。きつい目付き。
残忍	例 ひどい仕打ち。むごいありさま。むごたらしい情景。
積極性	例 快く引き受ける。渋い返事。
要求	例 父は時間に厳しい。僕は紅茶にうるさい。あの先生は発音に やかましい。私の祖父は着る物に難しい。
執着	例 金に細かい。金にきたない。しつこい勧誘。

親密	例 彼は生前山田さんと親しかった。あの二人は熱い。仲睦まじい。
要不要	例 その話はもういいよ。
過失責任	過失責任：ある行為・状態の原因・結果の責任の所在を表わす。 例 この喧嘩はおまえが悪い。その件は私がいけなかった。
陰気陽気	例 明るい性格。職場の雰囲気は明るい。彼は性格が暗い。
軽重	例 軽い読物。重い現実。かたい話。
活発	例 激しい抗議。消費税についての議論がやかましい。 政界の動きが慌ただしい。
願望	例 もう一台のカメラが欲しい。彼を助手に欲しい。私はすしがいい。 全員参加が望ましい。
危険	例 駆け込み乗車は危ないのでおやめ下さい。危ういところを 助けられた。
不審	例 決してあやしい者ではありません。如何わしい人物。
神秘	例 妖しい魅力。
生理・刺激	生理・刺激：知覚主体の肉体的・生理的状态を表わすか、そのよう 状態を引き起す対象の属性を表わすもの。
<ul style="list-style-type: none"> — 聴覚・音 — 嗅覚・におい — 視覚 <ul style="list-style-type: none"> — 明暗 — 色 — 鮮明 — 濃淡 — 味覚・味 — 触覚 — 重量 — 温度 	<p>例 食べ過ぎて苦しい。私は眠い。そよ風が頬に快い。 この化粧品は肌にやさしい。鋭い痛み。足が痛い。</p> <p>聴覚・音 例 ラジオがうるさい。声大きい。高い音。 嗅覚・におい 例 部屋がたばこで臭い。あまい香り。 視覚 例 輪郭が鋭い。</p> <p>明暗 例 暗い夜道。明るい部屋。 色 例 空が青い。赤い服。黒い髪。黄色い帽子。 鮮明 例 明るい色合い。暗い色。 濃淡 例 薄い水色。浅い緑。深い色あい。薄い紫。</p> <p>味覚・味 例 うまい水。甘い柿。渋いお茶。まずい料理。 触覚 例 足のしもやけがかゆい。背中がくすぐったい。 やわらかい肌さわり。</p> <p>重量 例 軽い荷物。ペダルが重い。荷物が重たい。 温度 例 今日は暑い。水が冷たい。ぬるいお茶。</p>

濃度

例 濃い水溶液。薄いコーヒー。深い霧。

価格

価格：価格の額の大小を含む。
例 この店は食料品の値段が高い。大根が安い。細かいお金。

貧富

例 家が貧しかったので進学できなかった。

心理
├ 苦楽
├ 悲喜
├ 怒り
├ 安心
├ 焦躁
├ 恐怖
├ 優劣感
├ 満足
├ 快不快
├ 悔恨
├ 反省
├ 罪悪感
├ 煩瑣
├ 好悪
├ 羨望
├ 滑稽
├ 興味
└ 興奮

心理：知覚主体の精神的・心理的状态を表わすか、そのような状態を
引き起す対象の属性を表わすもの。

苦楽 例 苦しい胸のうち。つらい立場。
悲喜：寂しさ・楽しさ・嬉しさなどを含む。
怒り 例 悲しい別れ。さびしい一人暮らし。楽しい思い出。
安心 例 たくさんの仲間と知り合えたことがうれしい。
焦躁 例 腹立たしい。いまましい。
恐怖 例 君と一緒に心強い。あの男は頼もしい。
優劣感 例 もどかしい。歯痒い。
満足 例 私は雷が怖い。大地震は恐ろしい。すさまじい形相。
快不快 例 皆に見られて恥ずかしい。誇らしげに語る。
悔恨 例 自分だけが叱られるのが面白くない。つまらない買物。
反省 例 たまらない暑さ。たまらない快感。小言がうるさい。
罪悪感 例 彼に負けて悔しい。昨日の試合は惜しかった。
煩瑣 例 それでは彼に悪い。済まないことをした。
好悪 例 やましいところなどない。後ろめたい。
羨望 例 煩わしい手続き。前髪がうるさい。
滑稽 例 私は孫がかわいい。俺はあいつが憎い。憎らしい態度。
興味 例 彼が羨ましい。海外旅行に行くなんて君はいいなあ。
興奮 例 彼のとぼけた表情が実におかしい。この漫才は面白い。
例 発想がおもしろい。つまらない講義。
例 熱い思い。

綺麗 ┌ 美醜
├ 清潔
└ 清濁

美醜 例 美しい景色。みすばらしい身なり。醜い心。
清潔 例 きたない字。かわいいデザイン。みっともない格好。
清濁 例 汚いごみの山。シャツの襟が黒い。
例 清い川の流れ。

良否
├ 価値
├ 得手不得手
├ 適不適
├ 当不当
├ 可不可
├ 正不正
├ 徳
└ 禍福

例 質が良い。味が良い。体調が悪い。客の回転率が悪い。
素晴らしい演奏。ひどい成績。渋い演技。
価値 例 めばしい作品。輝かしい業績。みすばらしい記録。
得手不得手 例 彼は歌がうまい。彼は守備がまずい。
この学校はサッカーが強い。彼は喧嘩が弱い。
適不適 例 デートによい喫茶店。指導者にふさわしい人物。
当不当 例 値段が下がらないのはおかしい。苦しい言い訳。
可不可 例 そんなやり方はいけない。
正不正 例 人のせいにするのはずるい。あくどい商売。
徳 例 シュバイツァー博士は偉い。
禍福 例 無事に卒業できたのはめでたい。

確実性	<p>確実性：推量・蓋然性・真偽・信疑・信頼などを表わすもの。</p> <p>例 彼女の入賞はかたい。このままでは来年度の進級は危ない。 目撃者の証言が臭い。彼のドイツ語はあやしい。</p>
安定	<p>例 空模様があやしい。</p>
不可避	<p>例 やむをえない。しょうがない。仕方がない。よんどころない。</p>
負担	<p>例 一万円の会費はきつい。先取点を挙げられなかったのが痛い。</p>

4. 段階性

形容詞の語義は、対象を連続的なスケールで捉えるものと、そうでないものとの、大きく二つに分けられる。連続的なスケールで捉えないというのは、「である／でない」の二つに一つという捉え方しか出来ないということである。二つの違いは、形容詞の語義が表現していることの程度を問題に出来るか出来ないかの違いである。前者を段階的、後者を非段階的と呼ぶ。

例 a.	私の父は背が高い	段階的
b.	ご飯がない	非段階的

段階的である a の例では、事例に連続的なスケールを当てはめている。そのスケール上には、点的には特定されない基準がある。「背が高い」のはどこからなのかが、点として認識されない。そういう点的ではない基準から、「高い」方に「父の背の高さ」があると a はいっている。それに対して、非段階的な b の例では、連続的なスケールを当てはめてはいない。「ご飯がある／ない」の二つのうちで「ない」ほうだと言っている。

段階的／非段階的の判定は、次のような点を考慮して、内省によって行った。基本的には、程度副詞「とても」と無理なく共起する場合には段階的、共起しない場合は非段階的と考えた。また、もう一つの判断基準として、「ほとんど」と無理なく共起する場合には非段階的、共起しない場合は段階的と考えた。

本辞書では、段階的なものを「段階性 有」、非段階的なものを「段階性 無」とし記述した。

記入例				段階性
たかい 01	とても 背が 高い	┌ └───▶	段階的	有
	*ほとんど 背が 高い			
ない 01	*とても ご飯が ない	┌ └───▶	非段階的	無
	ほとんど ご飯が ない			

日本語の形容詞の語義の多くは、段階的／非段階的の区別がはっきりしていると考えられるが、はっきりしないものも少数ある。「とても／ほとんど」との結びつきが、自然なのか不自然なのかの判断が難しいものである。

例 はやい 07 (まだ適当な時期に到っていない)
あきらめるのは早い

「とても／ほとんど」との結びつきを考えると、

?あきらめるのは とても早い
??あきらめるのは ほとんど早い

この例は「とても」との結びつきが不自然であることから、最終的に「段階性 無」と記述した。

次に、「段階性 無」と記入した例をいくつか挙げる。

例 ただしい	問3の答はbが正しい
やむをえない	10分ぐらいの遅れはやむをえない
かたい	彼の入賞はかたい
めぼしい	めぼしいもの／人／作品
あつい	あついてもなし

5. 評価、快・不快

属性の語義の形容詞は、それを使うことで、事態に対しての話し手の評価が聞き手に伝わると考えられるものがある。また、感覚・感情の語義の形容詞は、その感覚・感情を、話し手が快いと感じているか不快と感じているかが伝わるものがある。

この辞書では、これらの項目について語義ごとに判断し、記入した。

5.1 評価

属性の語義で、それが一般的に好ましい性質や状態を表わしている場合は「+」、好ましくない性質や状態を表わしている場合は「-」を記入し、どちらとも言えない場合には「/」で示した。

① 形容詞が単独ですでにどちらかの評価を表わしているとき

当該の語義の範囲で、どの名詞句と結びついても評価が変わらないので、以下のよう
に記入した。

記入例 うつくしい 01 : 外見や音色などがすばらしく、感動的である。

バラの花は美しい → 好ましい →

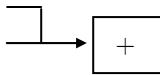
+

② 形容詞が名詞句と結びついて初めて評価を表わすとき

a) 当該の語義の範囲で、どの名詞句と結びついても評価が変わらない場合は、以下の
ように記入した。

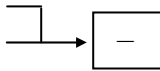
記入例 かるい 08 : 病気などが大したことはない。

症状が軽い → 好ましい
軽い障害 → 好ましい



記入例 おもい 08 : 病気などが深刻でなおりにくい。

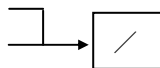
症状が重い → 好ましくない
重い障害 → 好ましくない



b) 当該の語義の範囲で、結びつく名詞句によって評価が変わる場合は「/」で示した。

記入例 ふかい 05 : 心情が非常に強い。

愛情が深い → 好ましい
 怨みが深い → 好ましくない

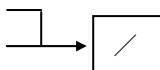


③ 形容詞が名詞句と結びついても評価が表わさないとき

当該の語義の範囲で、どの名詞句と結びついても評価を表わさない場合も「/」で示した。

記入例 ふかい 01 : 表面から底までの距離が長い。


この湖は深い → ?
深い川 → ?




5.2 快・不快

語義が感覚または感情を表わす場合、話し手がそれを一般的に快だと感じていると考えられれば「+」、不快だと感じていると考えられれば「-」と記入し、どちらとも言えない場合については「/」で示した。


記入例 うれしい 01 : (私は) 喜びを感じて、にこにこしたくなるような気持ちである

私は うれしい → 快 → 

かなしい 01 : (私は) 心が痛んで、泣きたくなるよう気持ちである

私は 悲しい → 不快 → 

ほしい 1 : (私は) 何かを手に入れたい

私は 車がほしい → ? → 

6. 記載例

属性を表わす場合と、感情・感覚を表わす場合では、印刷形式の右下部分が異なる。

うまい 2 [属性を表わす場合]

意味 情報	意味 記述	人、動物などが何かをすることが上手である。				
	関 連 語	同 義	上手だ / な			
		類 義	特異だ / な, 達者だ / な, 巧みだ / な			
		反 義	下手だ / な			
意味の 分類	属性	評価; 得手不得手	段 階 性	有	評価	+

かわいい 1 [感情を表わす場合]

意味 情報	意味 記述	(私は)人や動物などに愛情がわき、大切にしたいと思う。				
	関 連 語	同 義				
		類 義	好きだ / な, 大好きだ / な, 愛しい, 愛おしい, 慕わしい, 大切だ / な, 大切だ / な			
		反 義				
意味の 分類	感情	心理; 好悪	段 階 性	有	快不 快	+

注1)

記述の対象とする文の種類を、助動詞を含まない単文に限れば、「終止用法」であれば「終止形」、「連体用法」であれば「連体形」という対応関係が成り立つが、対象をより広くとれば、この対応関係が常に成り立つとは言えなくなる。詳しくは、.1.参照のこと。

注2) 意味分類項目

意味分類項目を立てるにあたっては、『分類語彙表』『角川類語新辞典』を参考にした。

注3) 段階性について

日本語の形容詞の段階性については、西尾(1972)の第1部3「程度」を参考にした。程度副詞については、沖(1983)、工藤(1983)を参考にした。程度副詞と形容詞の共起については、中道(1983)が論じている。

英語の形容詞の段階性について論じたものに、八木(1987)、安井他(1976)、Bolinger(1972)、Rusiecki(1985)、Sinclair(ed. 1987)、Quirk *et al.*(1985)があり、参考になった。

V 統語情報 1

0. 印刷形式

統 語 情 報 1	終	区分番号	文 型		述 語 素		
	止 用 法	格形式	意味素性	名詞句			
文例							

1. 統語情報の範囲

形容詞の用法は、動詞に較べて単純に見え、統語情報として記載すべき項目も少ないように思われる。その理由の一つとして、動詞の場合と違い、形容詞には使役や受身の助動詞、アスペクト形式などが後続する可能性のないことがあげられる。ところが（用例を単文に限ると）以下の示すように、形容詞には(1a)述語、(1b)連体修飾句、(1c)連用修飾句として現れる用法を持つものがある。

- (1)a. いただく料理はいつもおいしい
 b. おいしい料理をいつもいただく
 c. いつも料理をおいしくいただく

(1a)には形容詞の終止形が、(1b)には連体形が、(1c)には連用形が現れることに着目して、以下では「見出し語」である形容詞の<a>終止用法、連体用法、<c>連用用法とそれぞれ呼ぶ。形容詞辞書では、使役、受身、アスペクト、命令形などの不必要な情報をのせるかわりに、これら三つの用法を記述対象とした。記載事項の詳細については、終止用法、連体用法、連用用法の順に節を改めて述べる。

ここで、上にあげた三つの用法の関係について簡単に触れておきたい。(1)のような現象がすべての形容詞に一貫して観察されるとすれば、記述対象に入れる価値はないが、実際はその形容詞がどのように名詞句と組み合わせられるかによって、それぞれの用法の間には制約が見られる。つまり、その形容詞に終止形があるということと、文中で、ある名詞句と組み合わせられて終止用法として用いられることは、関係があるとしても、別々の事柄として考えなければならない。例えば、形容詞「にがい」には終止形があるが、終止用法が可能なのは(2)の「コーヒー」の場合であり、(3)の「経験」については許されない。

- (2)a. そのコーヒーはにがい : 終止形
 b. にがいコーヒー : 連体形
 (3)a. *その経験はにがい : 終止形
 b. にがい経験 : 連体形

記述の意図は上に述べた通りだが、< c >連用用法については、その見出し語に < a >終止用法と< b >連体用法の両方、あるいはどちらか一方の用法がある場合に限って記述を行なったので注意が必要である。従って、見出し語の持つ用法を< a >< b >< c >の三つの観点から特徴づけた場合、可能なクラスは8種類に分かれるが、この辞書で取りあげるのは以下に示す6種類である。

<a>	終止用法はあるか?	Y	Y	Y	N	Y	N	N	N
	連体用法はあるか?	Y	Y	N	Y	N	Y	N	N
<c>	連用方法はあるか?	Y	N	Y	Y	N	N	Y	N
1	<a> <c>	X							
2	<a> 		X						
3	<a> <c>			X					
4	 <c>				X				
5	<a>					X			
6							X		
7	<c>							X	
8									X

記述対象外

Y : 'Yes' の値

N : 'No' の値

X : 上の値の組み合わせが左側のクラスに対応する

上の表で7番目に位置づけられた<c>連用用法（例：彼はよく遅刻する）のみのものは、既に述べたように、この辞書では扱わない。また、8番目のものは形容詞の認定から外れた品詞類ばかりであり、この表にあげたのはそのことを確認するためである。それぞれの用法については該当する箇所細目を示すので、この表は概略を示すものであることを断っておきたい。（注1）（注2）

2. 終止用法

ある見出し語が述語（終止用法）になった場合、その述語としての用法は次の四つの観点から記述することができる。それぞれの観点について、（ ）内の順序で概要を説明する。

- (1) 文型
- (2) 文型間の関係（格形式の交替）
- (3) 文型の中に現れる名詞句の性格（意味素性）
- (4) 文型の中に現れる二つの名詞句間の関係（述語素）

2.1 文型

2.1.1 文型の種類と格形式の範囲

ここで「文型」と呼ぶのは、述語の持つ次の二つの側面である。

- (1) i. その述語はいくつの名詞句 (NP) を取るか
- ii. それぞれの名詞句はどのような格助詞 (格形式) を伴うか

以下では文型の中に現れる名詞句を便宜的に項と呼ぶ。形容詞辞書では4項以上については記述対象から外し、名詞句の上限を3項まで認めた。

- (2) ① NP
- ② NP NP
- ③ NP NP NP

「格助詞」は動詞辞書の名称に従って「格形式」と呼ぶ。今回の形容詞辞書で取り上げた格形式は次の4種類である。

- (3)

ガ、ヲ、ニ、カラ

これは文型を設定する場合に、次のような基準をたてたからである。

- (4) i. 自然な話しことばの中に現れうるかどうかだけでなく、推敲された書きことばの中でも使用できるかどうかについても考える。
- ii. ただし係助詞や副助詞については、上にあげた格形式 (ガ、ヲ、ニ、カラ) のいずれかに戻したものを文型には表示する。
- iii. 比較級・最上級の用法については、文型には表示しない。

(4ii)で、扱う格形式の範囲を絞り込むことによって、文型の表示(5b)は簡潔なものになった。形容詞述語文に典型的に現れる係助詞「ハ」は、(5b)連体修飾内部や(5c)問い返し文のように、文型の中では格形式「ガ」に戻される。ただし「文例」としては(5a)のような文脈上の制限があまり強くない自然な例が示してある。

- (5) a. この店は 牛肉の値段が やすい
- b. この店が 牛肉の値段が やすいことはあまり知られていない
- c. この店が 牛肉の値段が やすいって!?
- d. NPガ NPガ ヤスイ

上の(3)にあげたものはすべて動詞辞書で取りあげたものばかりだが、「ヨリ」「デ」「 ϕ 」「へ」「ト」の五つの格形式は形容詞辞書では扱っていない。(「マデ」については副助詞と考え、動詞辞書と同様に扱っていない。)

このうち格形式「ヨリ」「デ」「 ϕ 」の用法については、(4iii)の基準によって扱わないことになった。日本語では、名詞句が一つ現れるたびに、その名詞句は格形式を一つ伴うと考え、文の構造を理解しやすい。格形式「 ϕ 」はそのような考えで動詞辞書に設定されたものだが、文型として(6a, b)のような比較級・最上級を取り上げない方針をたてた形容詞辞書では不要になった。同様に、比較の対象を示す「ヨリ」や比較の範囲を示す「デ」も文型には表示されない。

- (6) a. 君のおつりは僕のより 500円 ϕ 多い
- b. 三人の中で彼女のおつりが一番 ϕ 多い

言うまでもなく、形容詞述語文には「へ」が現れる可能性はないので、この格形式については取り上げない。（「ト」については、2.4.4 参照）

また、「ニ」のうち(7a, b)のような「基準点」を示すものについては、形容詞の比較級の用法に共通するものがあると考えて取りあげなかった。

- (7) a. この帽子はうちの子には大きい
b. この本は貧乏学生の僕には高い

(3)にあげた格形式の範囲からは、以下にあげるように、1項のものには1種類、2項には4種類、3項には3種類の文型をそれぞれ認めることができる。（注3）

- (8) ① a. NPガ
② a. NPニ NPガ
b. NPガ NPガ
c. NPガ NPヲ
d. NPガ NPカラ
③ a. NPガ NPニ NPガ
b. NPガ NPニ NPヲ
c. NPガ NPカラ NPガ

2.1.2 文型の間関係：格形式の交替

二つの文型(9a, b)の間に同じ名詞句のグループが現れる場合は、ある一つの文型の中での格形式の交替と考えて、(9c)のように表示を簡潔なものにした。「/」はその左側の格形式と右側の格形式とが交替することを示す。

- (9) a. 日本は資源が乏しい NPガ NPニ
b. 日本には資源が乏しい NPニ NPガ

c. NPニ/ガ NPガ

また、(3)にあげた格形式の間に序列をつけて、(10)のようなスケールを設けた。(8)にあげた文型の提示順序もこのスケールに従う。動詞辞書にあげた格形式では最も左側に「ガ」があったが、ここでは「ニ」が最も左側に位置付けられている。これは、形容詞に一般に見られる状態的な性格を考慮したためである。

- (10)

ニ>ガ>ヲ>カラ

格形式の交替もこれに従って記入したので、同じ格形式の交替が、例えば「ガ/ニ」「ニ/ガ」のように異なることはない。格形式が交替するのは以下の3種類である。

- (11) NPニ/ガ
NPニ/カラ
NPガ/ヲ

ここにあげた以外の格助詞との交替については備考欄に記入した。

文型間の関係を見るのに最も適した方法は、あるグループの語彙がどのような文型のどの名詞句にどのような格形式を伴って現れるかを注意深く追うことである。すべての項目の記述が終了した後で、そのような方向の調査が必要とされるが、現在までのところは結果を出すまでには至っていない。ここに一例として取り上げた格形式の交替は文型間の関係という大きな問題の氷山の一角に過ぎないことを、最後に付け加えておきたい。

2.1.3 文型の表示方法

ある見出し語が述語（終止用法）になった場合に、名詞句をいくつ取るか、それぞれの名詞句がどのような格形式を伴うかを表示したものが文型である。ガ格の名詞句は一つの文型に2項まで現れるので、述語形容詞に近い方から「NP1」「NP2」と番号を振り、1項の場合は「NP1」とした。動詞辞書では、名詞句を「N」で示し、述語動詞に遠い方から「N1」「N2」としたので、注意が必要である。

また、「文型」欄には簡潔になるよう名詞句と格形式だけを表示し、述語を省略した。

記入例

彼は 女生徒に 甘い → NP1ガ NPニ

彼は 政治に 興味が ない → NP2ガ NPニ NP1

そのデモの参加者の数は 十万人に 近い → NP1ガ NPニ

そのデモの参加者は 数が 十万人に 近い → NP2ガ NP1ガ NP

文型内の名詞句の配列については、自然な語順を示すようにした。

記入例

日本は 資源に 乏しい → NP1ガ NPニ

日本には 資源が 乏しい → NP2ニ/ガ NP1ガ
日本は 資源が 乏しい

また、名詞句に人称制限のあるものには（ ）をつけて示した。

記入例

私は 眠い → (NP1ガ)

私は 日の光が まぶしい → (NP2ガ) NP1ガ

私には この人工甘味料は 甘い → (NP 2 ガ) NP 1 ガ

従って、格形式の交替の「/」や人称制限の「(NP)」の有無を数えると、実際に「文型」欄に記載されているのは以下の19種類である。区分番号は原則としてこの順序で振った。ただし、3項の文型を含む場合には、1項から3項への文型の展開を追いやすいように並べた。

- ① NP 1 ガ
(NP 1 ガ)
- ② NPニ NP 1 ガ
(NPニ) NP 1 ガ
NP 1 ガ NPニ
NP 2ニ/ガ NP 1 ガ
NPニ/カラ NP 1 ガ
NP 1 ガ NPニ/カラ
NP 2ガ NP 1ニ/ガ
NP 2ガ NP 1 ガ
(NP 2ガ) NP 1 ガ
(NP 2ガ) NP 1 ガ/ヲ
NPカラ NP 1 ガ
- ③ NP 2ガ NPニ NP 1 ガ
(NP 2ガ) NPニ NP 1 ガ
NP 2ガ NP 1 ガ NPニ
(NP 2ガ) NP 1 ガ NPニ
NP 2ガ NPニ/カラ NP 1 ガ
(NP 2ガ) NP 1 ガ/ヲ NPニ

2.2 名詞の意味素性

今回の形容詞辞書を動詞辞書と比較した場合、意味素性は変更の多いものの一つに数えられる。最初に、二つの辞書に採用されている素性の違いについて、簡単に触れておきたい。

動詞辞書の素性の枠組みを使うと、例えば形容詞述語文に現れる次のような名詞（句）には、等しく [ABS] という素性が振られてしまう。

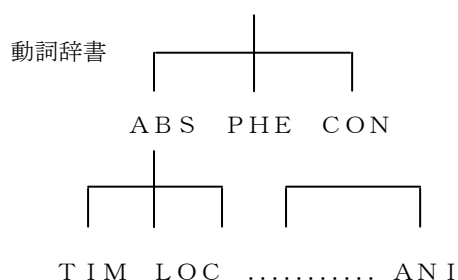
- (1) a. 頻度 が高い
b. 知能 が高い
- (2) a. 水深 が深い
b. 造詣 が深い

このような傾向は、形容詞の中で最も数の多い属性形容詞が述語として現れる文型を通じて見られるものであり、抽象名詞 [ABS] の下位分類を動詞辞書のものより細分化する必要がある。（このため、抽象名詞の下位分類は動詞辞書の8種類に対して17種類となった。）

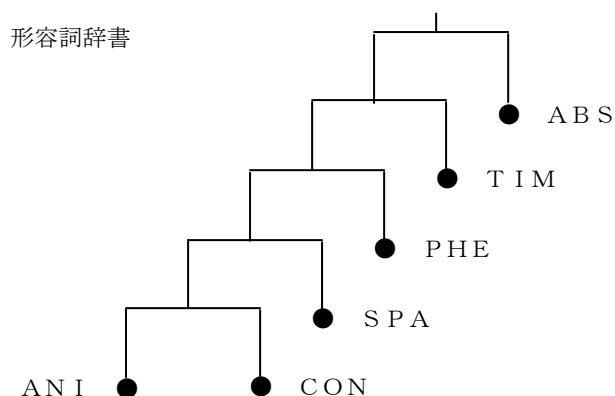
抽象名詞の細分化に加えて、素性間についても別の考え方を導入した。動詞辞書で主な意味素性としてあげられているのは、次の6種類である。

- ABS (抽象)
- TIM (時間)
- PHE (物理/生理現象)
- LOC (場所)
- CON (具体)
- ANI (動物)

ここでは、上にあげた6種類の素性のうち全体を最初に [CON] [PHE] [ABS] に三分して並列させ、それぞれの下位に他の素性を並べる形式を取っていた。概略を示すと以下の通りである。



これに対して形容詞辞書では、最も外側に [ABS] を、最も内側に [ANI] を配置して、すべての素性が包含関係にあるように仮定した（動詞辞書の [LOC] は、形容詞辞書では [SPA] に名称変更されている）。このような包含関係をヴェン図として描けば直径の異なる同心円が六つ連なることになるが、ここでは動詞辞書で採用された素性との違いを明らかにするために、同じ表示内容を持つ枝分かれ図をあげることにする。



この図では、それぞれの素性が分岐点ではなく末端に位置づけられている。それは例えば [ABS] が、全体から [TIM] 以下の素性が示される部分を差しひいた範囲を示すようにしたからである。

上に述べたように素性間の関係を包含的にとらえるということは、[ABS] から [ANI] まで徐々に属性の特定化が加えられていく過程と考えることと同義である。つまり、最も外側の [ABS] から内側の [ANI] に行くに従って、述語や修飾語のつく可能性が高くなるということである。上にあげた素性間については、[ANI] に含まれる [HUM] (人間) の名詞を中心にして考えた。つまり、一人の人間は心理的側面 [ABS] も物理的側面 [CON] も合わせ持ち、それ自体は空間

[SPA]の中に位置を占め、年齢を重ねてゆく時間的[TIM]存在である。それだけ「人間」の属性を特定化する幅には広がりがある。

属性の特定化という問題と切りはなせないのは、「外延」と「内包」の関係である。よく「外延」と「内包」は反比例の関係にあると言われる。例えば、「花」の外延は「チューリップ」の外延より広い。しかし、それとは逆に「花」に対して言えること（内包）はすべて「チューリップ」に当てはまるのに、「チューリップ」に当てはまることは「花」の一部にしか当てはまらない。

「外延」という用語はある単語によって指される存在物のクラスをいうのに対して、「指示対象」はある単語によって実際の場面の中で指される存在物をいう。このような区別が「外延」と「指示対象」の間にはあるので、両者を混同することはできない。しかし、上に述べた外延と内包の反比例の関係を理解することは、指示対象を想起しやすい「花」や「チューリップ」のような具体名詞については容易であるのに、「責任」や「罪」のような抽象名詞については、その関係が判然としなくなる。

先に抽象名詞の細分化の必要性について述べたが、ここでも問題は抽象名詞にあることがわかる。そこで、形容詞辞書では次のような方針に従うことにした。つまり、その名詞の外延について考えるのはあきらめ、その名詞がどのような述語（あるいは修飾句）を伴うか——従って、内包——だけを考える。こうすれば、具体名詞から抽象名詞まで一貫して扱うことが可能になる。

上に述べたことは、単語間の共起関係から振り返る必要がある。ある単語の頻度が高いということは、いろいろな単語と組み合わせられる可能性が高く、用法も多様だということである。慣用表現や成句の場合を除けば、ここに収めた頻度の高い形容詞が、述語や修飾句として、同じひとつの名詞といつも一緒に現れるのは稀である。

同じことを名詞の側から見れば、共起する単語の数の多さは、その名詞の意味の多さにつながる。つまり、名詞が複数の意味素性を持ち、そのどれかがある文型の中で表に出てくるとすれば、一つの名詞は、共起する述語や修飾句の種類が多いほどいくつもの意味素性を持つことになる。このような前提を基に、ある名詞の意味がその共起関係から帰納した場合に複数の意味単位（素性）に分解可能な形で表示できると、この辞書では考えた。

しかし、それぞれの素性を与えられた名詞が上に示したような均斉の取れた包含関係を実際示すかどうかは、今後に残された大きな問題である。

2.2.1 意味素性の表示例

以下に記述例を示す。以下の(1)にあげた「小説」という名詞には、物質的な側面を指す場合と内容的な側面を指す場合の二つの可能性が考えられる。前者を[CON]で、後者を[INF]でそれぞれ示す。概略を上にも述べたように、同じ名詞の二つの側面は述語の性格の違いにより次のような現れ方をする。

- (1) a. あの小説が 雨に ぬれる (のは こまる)
[CON]
b. あの小説は 厚い
[CON]
c. あの小説を 読む
[INF]
d. あの小説は おもしろい
[INF]

つまり、「小説」の物質的な側面は「ぬれる」「厚い」などの述語によって文の表面に出てくるのに対して、その内容的な側面は「読む」「おもしろい」などの述語に依存し

て現れる。

一つの名詞の持つ素性のいずれかが、いつも同じ述語によって引き出されるのであれば作業上も問題は少ない。ところが、このような理想的な状態が見られる名詞の例は、1例もないといってよい。次にあげる(2)は、このあたりの事情を説明するのにふさわしい例である。

- (2) a. 彼は料理がうまい
b. 彼の料理はうまい

両方の文に現れる「料理」という単語は、「料理する」のように動詞にもなれば「スペインの料理」のように名詞句内部の被修飾語としても働く。(名詞句に素性を表示する場合は、被修飾名詞の素性を優先させる。)このことから分かるように、「料理」という単語にも二面性がある。一つは何かを作る活動としての側面であり、これは(2a)に対応している。もう一つは活動の結果できあがった生産物としての側面であり、こちらの方は(2b)に対応している。

ここに述べた「料理」の二つの意味は、別々の述語に対応して引き出されるわけではないが、その区別はそれぞれの述語が結ぶ関連語の組からある程度予測できる。

- (2a) 彼は料理が (うまい／上手だ／得意だ／下手だ…)
(2b) 彼の料理は (うまい／おいしい／美味だ／まずい…)

(2a)の活動としての側面は[ACT]で、(2b)の生産物としての側面は[EDI]で、それぞれ表示する。([EDI] は、「あまい」「からい」「しぶい」「すっぱい」「にがい」などの形容詞が味覚を表わす場合に表示されるものである。言うまでもなく「あの先生は女子学生にあまい」のような例からもわかるように、これらの形容詞が常に「味覚」を意味するわけではない。)

また、社会的役割や属性を表わす名詞には、(3)に示すような差がある。

- (3) a. 彼は 議長と 親しい
b. 彼は 議長に ふさわしい

(3a)では「彼」と「議長」は別の人物を指すが、(3b)の「議長」は「彼」の可能な役割を表わしているのであり、「彼」と「議長」は同一人物を指している。このような二つの名詞の指示対象の異同が問題になる場合は(4)のような表示が与えられている。ここでは[HUM]は「人間」を表わし、[KND]はその「役割」を表わす。

- (4) a. 彼は 議長と 親しい
[HUM] [HUM]
b. 彼は 議長に ふさわしい
[HUM] [KND]

さらに、指示対象の問題で重要なのは、(5)のように感覚を表わす用法と属性を表わす用法の両方を持つ見出し語の場合である。(IV.3.1参照)

- (5) a. 私は 手が つめたい 感覚
b. 君は 手が つめたい 属性
c. その階段は 手すりが つめたい 属性

感覚を表わす形容詞が、この辞書で規定した限りの終止用法として、(5a)のように使用された場合、一人称の「私」によって指される人物は知覚主体としてとらえられる。一

方、二人称である(5b)の「君」は(5c)の「その階段」と同様に知覚主体ではなく、知覚対象としてとらえられる。このような区別については(6)のような表示の差として反映させた。

- (6) a. 私は 手が つめたい 知覚主体
 [HUM] [CON]
 b. 君は 手が つめたい 知覚対象
 [CON] [CON]
 c. その階段は 手すりが つめたい 知覚対象
 [CON] [CON]

また、属性を表わす形容詞の中には、(7)に示したように上位概念である「答え」からそこに含まれる適当な下位概念「③」を選び出す働きを示すものがある。このような場合は、上位概念にも、選ばれる下位概念にもすべて [ENT] を表示する。

- (7) 答えは ③が 正しい
 [ENT] [ENT]

文型の中の同じ名詞句の位置に様々な素性を持つものが現れる場合は、記入する素性の数を四つまでとして、その間を「/」で区切った。その素性に対応する名詞句についても同様である。ここでは「うるさい」という形容詞の1項述語文を例に取る。

(8)

	意味素性	名詞句
NP 1 ガ	FOR/ CON/ LOC/ PIT/	時計の音, ラジオの音, 風鈴の音, ……/ ラジオ, 風鈴, 隣の犬/ この通り/ 選挙の時期

最後に [CON\ABS] という素性について触れておきたい。(これは動詞辞書の [DIV] に相当する。) この素性は上にあげたすべての素性を包括するもので、ある文型に現れる名詞句の範囲が広すぎて特定できない場合や、特定しようとするれば四つ以上の素性名が現れてしまう場合に用いられるものである。例えば「むずかしい」の2項述語文は、次のように表示されている。

(9)

	意味素性	名詞句
NP 2 ガ	CON\ ABS	この機械, 失った信用, この理論
NP 1 ガ	PRC	操作, 回復, 説明するの, 実用化

これは「NP 2」に現れる名詞句が、「NP 1」に現れる名詞句で示される行為や作用 ([PRC] で表示) の範囲内にあるものであれば何でもよいからである。つまり、そ

れぞれ「操作」できたり、「回復」できたり、「説明」できたりする名詞句であればよく、その範囲を特定することはむずかしい。

以上の他に説明すべきものは多いが、ここには注意を要するものに限って例示した。

2.2.2 名称および素性間の関係

意味素性の枠組みを今回のような形に変更したのは、上に述べた問題に対処するためだが、枠組み自体は、形容詞以外の動詞や名詞（あるいは形容動詞）が述語として現れる場合にも有効であることが望ましい。以下にあげる41種類の素性のうち、今回の記述の中に一度も現れないもの（[AML] [DIS] [DUR] の三つ）があるのはこのためである。

素性の名称は英語から選んで（ ）の中に示した。素性は数が多いので、名称としてあるいは不適切なものを採用してしまった場合があるかもしれない。先頭に示した略号は最初の3文字を取ることを原則としたが、他の略号と同じものになったり、既成の英単語と紛れるような場合は、この原則をやぶることにした。

最初にあげた6種類の素性 [ABS] [TIM] [PHE] [SPA] [CON] [ANI] は下位分類として複数の素性を含むので見やすいように●をつけた。6種類の素性に下位分類として含まれる素性は、すべて一字下げて示されている。例として、[PHE] に含まれる素性を次にあげる。

- P H E (PHENOMENA)
- ▼ N A T (NATURAL ENTITIES)
- ▼ P R C (PROCESS)
- A C T (ACTIVITY)
- E V E (EVENT)
- ▼ S T A (STATE)

この場合 [PHE] の一つ下には、3種類の素性 [NAT] [PRC] [STA] が同じレベルで位置する。●の一つ下の素性名にはすべて▼がつけてある。これは今回採用した素性名の数が多いので、ページ変わりした場合でも、問題の素性が全体の中でどこに位置づけられるかを捉えやすくするためである。さらに、上の例では [PRC] の下に一字下げて [ACT] が、さらに一字下げて [EVE] がそれぞれ示されている。これは、[PRC] が [ACT] を、[ACT] が [EVE] を含むことを意味する。

（ところで、●をつけた6種類の素性もそれぞれ包含関係にあり、本来なら一字下げて示さなければならない。そうしなかったのは一覧の便宜を考えたからである。）

以下、[表6] [表7] に意味素性一覧を示す。（注4）そこには、それぞれの素性を振られる名詞の例を少数あげたが、上に述べたように一つの名詞が複数の持つ場合は（「手紙」「学校」「先生」など）は、何度も現れる。形容詞辞書の編集作業が終了した段階で、記述結果が最初の仮説に合っているかどうかについて見直しが必要である。この作業は動詞辞書も併用して、述語から素性間の関係を観察することによって充分なものとなるが、本解説編の執筆段階では結果を出すまでには至っていない。

【表6】 意味素性一覧

- A B S (ABSTRACT) 魅力, 不可能, テーマ, 内容, 責任, 罪
 - ▼ K N D (KIND) 議長, 先生, 贈り物, 高級品, 金
 - R E L (RELATIONAL TERMS) 夫婦, いとこ, 友だち, ファン
 - S O C (SOCIAL BONDS) 団結, つながり, 関係, 関連, 差, 食い違い
 - A F F (AFFECT) 人気, 評判, 支持, 反対
 - E F F (EFFECT) 影響, 関心, 不安, 効果, 興味, 期待
 - ▼ N O R (NORMS / RULES / SCIENTIFIC SUBFIELDS) 法律, 規則, 科学, 点, 基準
 - ▼ I N F (INFORMATION) 手紙, 小説, 雑誌, 情報
 - ▼ E N T (ENTITY) 辺 A B, これ, それ, あれ, どれ, だれ, いつ, どこ, なぜ
 - ▼ M E A (MEASURE UNITS / MEASURABLE ENTITIES) 面積, 長さ, 距離, 年齢, 数
 - F O R (FORMS / STRUCTURES) 形, 色, 味, におい, 音, 具合, 調子
 - A P P (APPEARANCE) 表現, 表情, 模様, 目つき, 構図, 雰囲気
 - G R A (GRADABLE) 学力, 熱, 筋力, 知能, もうけ, 利益, 忍耐力, 勾配
 - M A N (MANNER) 考え方, 見通し, 判断, 方法
 - P E R (PERSONALITY) 性格, 心, 気立て, 気質
 - D U R (DURATION) 3ヶ月, 2週間, 1秒
 - D I S (DISTANCE) 5km, 1cm
 - Q U A (QUANTITY) 10kg, 30, 1万人, 80歳
- T I M (TIME) 時期, タイミング, チャンス
 - ▼ P I T (POINT IN TIME) 今年, 今日, 夕方, 春
 - O R D (ORDINAL) スケジュール, 手順, 順序
- P H E (PHENOMENA) 日差し, 地震, 霧, 病気, 健康, 疲労
 - ▼ N A T (NATURAL ENTITIES) 台風, 川, 桜

▼ P R C (PROCESS) 回転, 移動, 処理, 変化

ACT (ACTIVITY) テニス, 料理, 連絡

EVE (EVENT) 結婚式, コンサート, 授業, 優勝, 当選, 開花

▼ S T A (STATE) インフレ, 本番, 国際情勢, 病状, 世の中, 立場, 環境

● S P A (SPACE) 空間, 穴の中

▼ L O C (LOCUS) 学校, 病院, 外, 店内, 日本, 部屋

▼ O R G (ORAGANIZATION) 学校, 病院, 警察, 日本, 店

● C O N (CONCRETE) 手紙, 小説, 頭, 手, 足, 桜, 部屋

▼ A U T (AUTOMATA) 車, 新幹線, 飛行機, コンピュータ, 電子レンジ

▼ E D I (EDIBLE) 料理, ラーメン, 味噌汁, 空気

▼ S O L (SOLID) ガラス, 爪, ダイヤモンド

▼ L I Q (LIQUID) ジュース, スープ, 墨汁

▼ P A S (PASTY) 糊, ポタージュ

▼ G A S (GAS) ガス, 空気, 酸素, 息

● A N I (ANIMATE)

▼ G A T (CONGREGATION) P T A, 若者

A M I (ANIMAL) 犬, ライオン, 蛇, 象

H U M (HUMAN) 彼, 太郎, 先生, 友だち

C O N \ A B S 制限なし

[表 7] 意味素性略号一覧

意味素性	階層番号
ABS (ABSTRACT)	[ABS.]
ACT (ACTIVITY)	[PHE. 2. 1]
AFF (AFFECT)	[ABS. 1. 1. 2]
AML (ANIMAL)	[ANI. 1. 1]
ANI (ANIMATE)	[ANI.]
APP (APPEARANCE)	[ABS. 5. 5. 1]
AUT (AUTOMATA)	[CON. 1]
CON (CONCRETE)	[CON.]
DIS (DISTANCE)	[ABS. 5. 1. 3. 1]
DUR (DURATION)	[ABS. 5. 1. 3.]
EDI (EDIBLE)	[CON. 2]
EFF (EFFECT)	[ABS. 1. 1. 3]
ENT (ENTITY)	[ABS. 4]
EVE (EVENT)	[PHE. 2. 1. 1]
FOR (FORMS / STRUCTURES)	[ABS. 5. 1]
GAS (GAS)	[CON. 6]
GAT (CONGREGATION)	[ANI. 1]
GRA (GRADABLE)	[ABS. 5. 1. 2]
HUM (HUMAN)	[ANI. 1. 2]
INF (INFORMATION)	[ABS. 3]
KND (KIND)	[ABS. 1]
LIQ (LIQUID)	[CON. 4]
LOC (LOCUS)	[SPA. 1]
MAN (MANNER)	[ABS. 5. 1. 2. 1]
MEA (MEASURE UNITS / MEASURABLE ENTITIES)	[ABS. 5]
NAT (NATURAL ENTITIES)	[PHE. 1]
NOR (NORMS / RULES / SCIENTIFIC SUBFIELDS)	[ABS. 2]
ORD (ORDINAL)	[TIM. 1. 1]
ORG (ORAGANIZATION)	[SPA. 2]
PAS (PASTY)	[CON. 5]
PER (PERSONALITY)	[ABS. 5. 1. 2. 1. 1]
PHE (PHENOMENA)	[PHE.]
PIT (POINT IN TIME)	[TIM. 1]
PRC (PROCESS)	[PHE. 2]
QUA (QUANTITY)	[ABS. 5. 1. 3. 1. 1]
REL (RELATIONAL TERMS)	[ABS. 1. 1]
SOC (SOCIAL BONDS)	[ABS. 1. 1. 1]
SOL (SOLID)	[CON. 3]
SPA (SPACE)	[SPA.]
STA (STATE)	[PHE. 3]
TIM (TIME)	[TIM.]
CON\ABS	[CON\ABS]

2.3 文型に現れる名詞句

「名詞句」欄には、終止用法の文型に現れる名詞句の例をあげた。例にあげられている名詞句には、以下に示すように修飾句を含むものが多い。

ひろい 01 文型 NP 1 ガ (区分番号 01)
 NP 1
 意味素性 ME A / S P A / C O N
 名詞句 この道路の幅, この公園の砂場の面積 / この建物の空間, この部屋のスペース / この道路, この公園, この建物, この部屋

ひろい 01 文型 NP 2 ガ NP 1 ガ (区分番号 02)
 NP 2
 意味素性 C O N
 名詞句 この道路, この公園, この建物, この部屋
 NP 1
 意味素性 ME A / S P A
 名詞句 幅, 面積 / 空間, スペース

記入例 ひろい 01

統 語 情 報 1	終	区分番号	文 型	NP 2 ガ NP 1 ガ	述 語 素	
		02				
	止 用 法	格形式	意味素性	名詞句		
		2 ガ	C O N	この道路, この公園, この建物, この部屋		
		1 ガ	M E A / S P A	幅, 面積 / 空間, スペース		
	文例					

格形式の欄では、文型の欄に記入されている「NP 2」「NP 1」に対応する格形式は、数字を前に添えて示した。

記入例 NP 2 ガ →

2 ガ
1 ニ / ガ

なお、人称制限がある場合には、文型の欄に () をつけて表示したが、その名詞句の意味素性は [HUM] とし、「名詞句」欄には一人称の名詞句だけを記載した。これは形容詞の終止用法 (断定・現在・肯定) で、話し手 (書き手) として解釈されること

を示すためである。辞書の記述の範囲を越えるが、文末に適切な助動詞（および相当表現）が現れたり、それが質問文であれば、二人称や三人称も現れる。また、意味素性は [HUM] だけでなく [ANI] [ORG] が現れる場合もあることをつけ加えておきたい。

記入例	ねむい 01	文型 意味素性・名詞句 文例	→	(NP 1 ガ) [HUM]・私 私は ねむい
-----	--------	----------------------	---	-------------------------------

実際の用例 太郎は 眠かった
花子は 悲しくて いつまでも 泣いていた
こう暑くては 動物園のペンギンも たまらないだろう
日本政府は 外圧で つらいところだ

2.4 述語素：文型の中の2項間の関係

ある述語形容詞の文型の中には名詞句と格形式が現れる。文型の中に現れる名詞句と名詞句の間の意味的关系を表示したのが述語素である。（注5）「関係」の基本は2項間の関係に認められるので、(2.1.1) にあげた格形式の範囲からは(1)のような5種類の組み合わせが実際にみられる（後に述べるように、1項の文型に現れる述語素を加えれば組み合わせは全部で6種類になる）。

- (1) a. NPニ NPガ
- b. NPガ NPガ
- c. NPニ NPヲ
- d. NPガ NPヲ
- e. NPガ NPカラ

ある文型の中に2項以上の名詞句が現れる場合、その中から取り上げる格形式の範囲内で、任意の2項間に実際みられる組み合わせを並べたものが(1)である。既に、「文型」とは以下の二つの側面を指すことを述べた。

- (i) その述語はいくつの名詞句(NP)をとるか
- (ii) それぞれの名詞句がどのような格形式を伴うか

述語素は文型を性格づける一つ的手段であり、その意味で述語素もこれらの二つの側面にしぼりつけられている。任意の二つの文型において、下の条件をみたしていれば、その二つの文型に現れる2項間の関係にはそれぞれ別の述語素が振られる。

- (i) それぞれの述語のとり項数が違う
- (ii) 項数が同じでも、格形式の組み合わせが違う

これは、述語素を認める場合に変わることのない原則である（例外となるものについては2.4.4 を参照）。その他の代表的な基準とあわせて、以下に簡単な説明を加える。

文型として表示される名詞句の数は、1項から3項までの3種類だが、そのうち2項のものについては述語素の概念に合致するので考えやすい。先に2項の場合について取り上げ、3項と1項の場合については、その後で説明する。

2.4.1 2項の文型と述語素

次にあげる(2)はすべて2項の例である。

- (2) a. このケーキは 形が 丸い
b. 犯人は 顔が 丸い
c. このケーキは 形が 悪い
d. 私は このケーキが ほしい

このうち、(2a-c)は2項を格形式「ノ」でつないで、(3)のように1項にすることができるが、(2d)はできない。

- (3) a. このケーキの形は 丸い
b. 犯人の顔は 丸い
c. このケーキの形は 悪い
d. *私のこのケーキは ほしい

このような結果になる理由の一つとして、(3d)の「ほしい」は2項がそれぞれ別々の指示対象であることを要求するためと考えられる。これ以外の3例の中でも、(3a)(3c)の「形」と(3b)の「顔」との間には明らかな違いがあり、前者は「側面語」、後者は「部分語」と呼び分けられる。(注6)

ところで、(2)を1項に変換する方法は(3)だけではない。(4)のように、2項のうち述語に近い方の名詞句を省略してしまう方法もある。しかし、(2a)にも(2c)にも同じ名詞句「形が」が現れるのに、省略できるのは(2a)の場合だけである。

- (4) a. このケーキは 丸い
b. ? 犯人は 丸い
c. ? このケーキは 悪い
d. ? 私は ほしい

(2a-d)の文はすべて同じ一つの文型のメンバーと認められるが、これらの文のそれぞれの個性を決定づけている要因は述語の性格だと考えられる。

上に例としてあげた基準の他に、名詞句の意味素性、格形式の交替などの基準を加えて(2a-d)には(5)のような述語素が振られる。

- (5) a. このケーキは 形が 丸い <PV>
b. 犯人は 顔が 丸い <PA>
c. このケーキは 形が 悪い <FC>
d. 私は このケーキが ほしい <FO>

36種類の述語素の一覧を[表8]に、また略号の一覧と格形式の交替情報を[表9]に示した。形容詞辞書では、動詞辞書になかった述語素を新たに設けた。(注7)

2.4.2 3項の文型と述語素

3項の文型では、2項間の組合せは基本的には3種類あるが、「NP1」を介した2項間の関係を示す述語素だけを記述した。このうち(7b, c)のように格形式の交替を許す場合にはそれに対応する述語素を「/」の前後に示す。

(6) a. 彼ガ 歴史ニ 関心ガ 深い



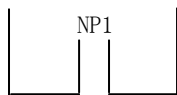
文型 : NP 2ガ NPニ NP 1ガ
述語素 : NT, NO

b. 彼ガ 若者ニ/カラ 人気ガ ない



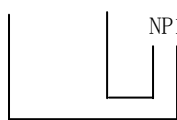
文型 : NP 2ガ NPニ/カラ NP 1ガ
述語素 : NL/NF, NO

c. 私ガ そよ風ガ 肌ニ 冷たい



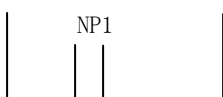
文型 : (NP 2ガ) NP 1ガ NPニ
述語素 : ST, SO

d. 私ガ 助手ニ 彼ガ ほしい



文型 : (NP 2ガ) NPニ NP 1ガ
述語素 : EV 1, FO

e. 私ガ 彼ガ/ヲ 助手ニ ほしい



文型 : (NP 2ガ) NP 1ガ/ヲ NPニ
述語素 : EV 1/EV 2, FO/O 2

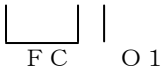
述語「ほしい」が現れる文では、NP 1の格形式「ガ」の交替形式として「ヲ」を許す傾向がある（同じような傾向は、形容詞型活用の助動詞「たい」が現れる文にも見られる）。形容詞述語文に「ヲ」が現れるということは、この種の形容詞述語文が他動詞述語文として別の解釈を受ける方向にあることを示している。この傾向が今後どの程度まで一般化するかについては判断しかねるが、この辞書の記述対象から外れる助動詞「たい」を除けば、これは述語「ほしい」に限られる現象である。従って、ここでは「ヲ」を格形式「ガ」に寄生して現れる例外的な交替形式とした。

2.4.3 1項の文型と述語素

1項の文型については、ゼロ形式の名詞句との組合せとして考えた。動詞辞書では、ガ格の名詞句に、述語素「A (Agent)」「O 1 (Object)」の二つを設定しているが、形容詞辞書では、それに従うと「NPガ」の述語素はすべて<O 1>ということになる。


格形式の組合せには(1)で示したように5種類あるが、「NPガ」はそのうち4種類に現れる。記入のたびに繰り返すのも煩雑なので、<O 1>を省略し簡潔な方式を取ることにした。動詞辞書と形容詞辞書の記載方法の違いは、以下の通りである。

(7) a. 動詞辞書の場合


彼ガ 音感ガ 優れている


文型 : N1ガ N2ガ
 述語素 : FC, O1

b. 形容詞辞書の場合

彼ガ 音感ガ よい


文型 : NP2ガ NP1ガ
 述語素 : FC

φ 私ガ ねむい


文型 : (NP1ガ)
 述語素 : O1

2.4.4 例外的な述語素

述語によっては、その文型の中に現れる名詞句の指示対象の数を方向づけたり、その関連で名詞句の項数に影響を及ぼすものがある。この辞書では、その種類の述語を「相互的」(‘RE’: reciprocal) という述語素で一括して呼ぶ。これは二つの点で「述語素らしからぬ」述語素である。まず、ここで扱うすべての文型のにまたがって振られる点で、述語素の原則に反する。

(8) 1項の場合

- a. 二人ガ 親しい
 b. 彼と彼女ガ 親しい

文型 : NP1ガ
 述語素 : O1, RE

(9) 2項の場合

- a. 二人ガ 仲ガ よい
 b. 彼と彼女ガ 仲ガ よい

文型 : NP2ガ NP1ガ
 述語素 : FC, RE

(10) 3項の場合

- a. 二人ガ 実力ニ 差ガ ない
 b. 彼と彼女ガ 実力ニ 差ガ ない

文型 : NP2ガ NPニ NP1ガ
 述語素 : NO, NT, RE

また、(8b)(9d)(10b)に現れる「ト」は並列助詞か格助詞か区別のつかない場合だが、形容詞辞書では、一つの名詞句内部の問題として処理できるよう並列助詞と考えることにした。この点、一貫して格助詞(格形式)として扱った動詞辞書とは異なる。動詞辞書の述語素‘SY’とは別の名称‘RE’を採用したのはこのためである。この「ト」が名詞句を構成要素として独立させ、(11)のように格助詞として働く場合は(名詞句の数もそれに伴って1項ずつ増えるが)、記述対象外とした。

(11) 記述対象外

- a. 彼女ガ 彼ト 親しい
 b. 彼女ガ 彼ト 仲ガ よい
 c. 彼女ガ 彼ト 実力ニ 差ガ ない

述語素	<p>…同じ文型に別の述語素が振られる場合には、述語素一覧表の順序に従って区分番号を振った。説明の中では、述語素を< >に入れた。</p> <p>対項……「文型」に表示した名詞句のうち、述語素が言及する組合せを「対項」と呼び、格形式のスケールの順序に従って示す。</p> <p>格形式ガを伴う名詞句がひとつ以上現れる場合は、述語形容詞に近いほうから「NP 1」「NP 2」と番号を振る。</p> <p>名詞句 (NP) の特徴；可能な場合は [] に意味素性を示す。</p> <p>述語……述語のタイプを示す。「意味の分類」で記述した「属性／感覚／感情」の3分類に従った。</p> <p>注記……注意事項</p> <p>語順：自然な語順が「対項」に示した順序と異なる場合、それを示す。</p> <p>交替：交替可能な文型とその述語素を示す。</p> <p>文例……自然な用例；3項の場合【 】で「対項」を示す。</p>
-----	--

O 1 (Object)

対項	NP 1 ガ	特に制限はない	(2.4.3 「1項の文型と述語素」参照)
述語	属性；感覚；感情		
注記	この述語素は「NP 1 ガ」という1項の文型すべてに振られる。		
文例	<p>この店の野菜の値段は 安い</p> <p>この店の野菜は 安い</p> <p>この店は 安い</p> <p>彼の顔の形は 丸い</p> <p>彼女の顔は 美しい</p> <p>その工事の音は うるさい</p> <p>この映画は 面白い</p> <p>私は 眠い</p> <p>私は 悲しい</p>		

L L 1 (Locational Locative)

対項	NPニ	NP 1の存在する場所	[LOC]
	NP 1ガ	具体物または抽象物	
述語	属性；感情（「ほしい」に限られる）		
注記	交替：NPガNP 1ガ <LP>		
文例	<p>日本には 資源が 乏しい</p> <p>cf. 日本は 資源が 乏しい <LP></p> <p>東京には 雨が 多い</p> <p>cf. 東京は 雨が 多い <LP></p> <p>この病院には 消火器が ない</p> <p>cf. この病院は 消火器が ない <LP></p> <p>私は 【近くに 本屋が】 ほしい</p>		

N L 1 (Non-locational Locative)

対項	NPニ [LOC] 以外 NP1ガ 具体物または抽象物
述語	属性; 感情 (「ほしい」に限られる)
注記	交替: NPガNP1ガ <NO>
文例	あの夫婦には 子供が ない cf. あの夫婦は 子供が ない <NO> この病院には 責任が ない cf. この病院は 責任が ない <NO> 収集マニアには A型の人が 多い cf. 収集マニアは A型の人が 多い <NO> 彼には 政治への興味が ない cf. 彼は 政治への興味が ない <NO> 私は 【この課に アルバイトが】 ほしい 私は 【生活に うるおいが】 ほしい

L T (Location-Towards)

対項	NPニ 方向の終点を示す場所 [LOC] NP1ガ 場所または場所をとる具体物 [LOC]
述語	属性
注記	語順: NP1ガNPニ 交替: NP1ガNPカラ <LF> (動詞辞書の<LG1>と対応するが、形容詞では移動の意味を伴わないので、新たに設けた)
文例	僕の家は 駅に 近い cf. 僕の家は 駅から 近い <LF> 私の家は 学校に 遠い cf. 私の家は 学校から 遠い <LF>

NG 1 (Non-location Goal)

対項	NPニ [LOC] 以外 NP1ガ 特に制限はない
述語	属性
注記	語順: NP1ガNPニ
文例	彼の意見は 彼女の意見に 近い そのロボットは 【動きが 人間に】 近い その行いは 泥棒に 等しい その人の年齢は 八十才には 遠い

E V 1	(EssiVe)
-------	----------

対項 NPニ 資格や役割 [KND] [PRC]
 NP1ガ 特に制限はない
 述語 属性；感情（「ほしい」に限られる；人称制限がある）

注記 語順：NP1ガNPニ が普通
 交替：NP1ガNPトシテ

文例 彼は 議長にふさわしい
 そのような行為は 良家の子女に ふさわしくない
 その作品は 日本の美術を代表するに ふさわしい
 贈り物には バラの花束が よい
 政治家には 彼のような人柄が 望ましい
 保母さんには 子供好きの人が 好ましい
 私は 【助手に 彼が】 ほしい

A P	(APtitude)
-----	------------

対項 NPニ 特に制限はない
 NP1ガ 資格や役割 [KND] [PRC]
 述語 属性

注記 語順：NP1ガNPニ
 交替：NP1ガNPニトッテ
 NP1ガNPガ <SC>

文例 議長は 彼に ふさわしい
 cf. 議長は 彼が ふさわしい <SC>
 このような装飾は この車に ふさわしい
 cf. このような装飾は この車に ふさわしい <SC>
 高級品を身につけるのは 彼女に ふさわしい
 cf. 高級品を身につけるのは 彼女が ふさわしい <SC>

A T	(ATtitude)
-----	------------

対項 NPニ [HUM] [ORG]
 NP1ガ [HUM] [ORG]
 述語 属性

注記 語順：NP1ガNPニ
 交替：NP1ガNPニ対シテ

文例 父親は 娘に 甘い
 新しい先生は 生徒に 優しい
 あのメーカーは ディーラーに 厳しい
 あの町は よそ者に 冷たい

RA (RAnge)

対項 NPニ [KND] [MAN]
NP1ガ [HUM] [ORG]

述語 属性

注記 語順：NP1ガNPニ
交替：NP1ガNPニ対シテ
NP1ガNPニツイテ

文例 彼は 歴史に 詳しい
彼は 機械に 強い
あの人は 変なところに 細かい
A社は 品質管理に 厳しい
彼は 古典文学に 明るい
彼は お金の使い方に うるさい

SO (Sc0ne)

対項 NPニ 特に制限はない
NP1ガ 特に制限はない

述語 属性；感覚；感情

注記 語順：NP1ガNPニ が普通
交替：NP1ガNPニ対シテ (<AT> <RA>以外のもの)

文例 早寝早起きは 健康に 良い
タバコは 病人に 悪い
その化粧品は 肌に やさしい
その物質は 熱に 強い
彼は 左からの攻撃に 弱い
子供には 固いベッドが のぞましい
この客間には そのテーブルが ふさわしい
彼女は 甘い言葉に 弱い
日本は 天然資源に 乏しい
最近の判決は 労働者の争議に 厳しい
(私は) 【冷たいビールが のどに】 快い
(私は) 【朝の空気が 肌に】 冷たい
(私は) 【そんなことは 他の会社に】 悪い

AS (AScriptive)

対項 NPニ [ACT]
NP1ガ [HUM] [ORG]

述語 属性

注記 語順：NP1ガNPニ

交替：NP1ガNPガ <BE>
 NP1ガNPデ
 NP1ガNPヲ行ノウタメニ

文例 娘は ピアノの稽古に 忙しい
 cf. 娘は ピアノの稽古が 忙しい <BE>
 cf. 娘は ピアノの稽古で 忙しい
 その日 【彼は 旅行の準備に】 忙しい
 cf. その日は 彼は 旅行の準備で 忙しい

NT (Non-location-Towards)

対項 NPニ 特に制限はない
 NP1ガ [AFF] [EFF] [NOR] [ACT]
 述語 属性
 注記 3項の文型または3項に展開できる文型の中のニーガの関係
 交替：NPニ対スルNP1ガ
 NPへノNP1ガ

文例 彼は 【歴史に 関心が】 ない
 咳止めには この薬の効果は 低い
 その小説には 若者からの人気は ない
 あの学校は 【帰国子女には 合格の基準が】 甘い
 あの先生は 【女生徒に 採点が】 辛い
 私には 息子からの連絡が ない
 あの商品には ユーザからのクレームが 多い

GR (GRoupie)

対項 NPニ [GAT] [HUM]
 NP1ガ [AFF]
 述語 属性
 注記 3項の文型または3項に展開できる文型の中のニーガの関係
 交替：NPカラNP1ガ <NF>
 NPノ間デNP1ガ
 文例 彼は 【若者に 人気は】 ない
 cf. 彼は 若者から 人気は ない <NF>
 PTAには その案への反対の声は 少ない
 cf. PTAからは その案への反対の声は 少ない <NF>
 僕は 【妻に 信用が】 ない
 cf. 僕は 妻から 信用が ない <NF>
 主婦層に 彼の評判は よい
 cf. 主婦層から 彼の評判は よい <NF>

D Y (DYadic)

対項 NPニ 特に制限はない
NP1ガ [SOC]
述語 属性

注記 3項の文型の中のニーガの関係
交替：NPトノNP1ガ

文例 彼は 【その事件に 関係が】 ない
cf. 彼とその事件は 関係が ない <NO, RE>
彼は その事件との関係が ない <TR>
禅は 【日本文化に 関係が】 深い
cf. 禅と日本文化は 関係が 深い <NO, RE>
禅は 日本文化との関係が 深い <TR>

R P (Reference Point)

対項 NPニ 特に制限はない
NP1ガ 特に制限はない
述語 属性

注記 3項の文型の中のニーガの関係
交替：NPトイウ観点カラ見ルトNP1ガ
NPノ点デNP1ガ

文例 二人は 【実力に 差が】 ない
その日は 【新製品の発表には タイミングが】 悪い
明日は 【結婚式に 日が】 よい
彼らは 【証言に 食い違いが】 大きい

S N (SeNtient)

対項 NPニ [HUM]
NP1ガ 感覚を引き起こす原因
述語 感覚(人称制限がある)

注記 「ーガル」がつきにくく、属性と区別しにくい
感覚の主体を表わす「私に」をつけると不自然な場合もある
文型では()をつけ「(NPニ)」とした

文例 私には この人工甘味料は 甘い
私には あの店のラーメンは まずい
私には このスープは 暖かい
私には プールの水が 冷たい
私には プリンターの音が うるさい
(私には) あいつの足は 臭いなあ

R C (ReCipient)

対項	NPニ	[HUM]
	NP1ガ	感情の対象
述語	感情(人称制限がある)	
注記	感情の主体を表わす「私に」をつけると不自然な場合もある 文型では()をつけ「(NPニ)」とした	
文例	私には この雑誌は 面白い 私には 住職の説教が ありがたい (私には) 百万円の損が 痛かった (私には) 彼のとぼけた表情が おかしい	

E V 2 (EssiVe)

対項	NPニ	[KND]
	NPヲ	特に制限はない
述語	感情(「ほしい」に限られる; 人称制限がある)	
注記	語順: NPヲNPニ 交替: NPヲNPトシテ	
文例	私は 【彼を 助手に】 ほしい cf. 私は 助手に 彼が ほしい <EV1>	

P V (Point of View)

対項	NP2ガ	特に制限はない
	NP1ガ	「属性」を表わす名詞句 [MEA] [GRA] [FOR]
述語	属性	
注記	交替: NP2ノNP1ガ <O1> NP2ガ <O1> NP2とAとの組合せから、NP1が特定しやすく、NP1を省略しても文の意味が変わらない。	
文例	そのケーキは 形が 丸い cf. そのケーキは 形が 悪い <FC> そのケーキは 値段が 高い cf. そのケーキは カロリーが 高い <FC> その山は 標高が 高い その服は 色が 赤い この道具の用途は 範囲が 広い この学校の生徒は 人数が 多い 彼は 年が 若い	

このプリンターは 音が うるさい
 この自転車のサドルは 位置が 低い

FC (FaCet)

対項	NP 2 ガ NP 1 ガ	特に制限はない 「属性」を表わす名詞句 [MEA] [GRA] [FOR] [SPA]
述語	属性	
注記	交替：NP 2 / NP 1 ガ <O1> NP 1 は省略できない	
文例	この香水は 匂いが 強い そのケーキは カロリーが 高い そのケーキは 形が 悪い その服は 色が 美しい その洞窟は 空間が 広い この料理は 味が しつこい この機械は 調子が よい 彼は 機嫌が 悪い	

TR (TRaints)

対項	NP 2 ガ NP 1 ガ	特に制限はない 「XのY」という形（または複合名詞「XY」） 「Y」は [MEA] [GRA] [FOR] [SPA]
述語	属性	
注記	交替：NP 2 / NP 1 ガ <O1> 「X」「Y」が単独で現れる文型と区別するために設けた	
文例	その部屋は 窓の形が 丸い cf. その部屋の窓は 形が 丸い <PV> その部屋は 窓が 丸い <PA> この建物は 部屋の形が 珍しい cf. この建物の屋根の形は 珍しい <FC> この建物は 屋根が 珍しい <PA> この服は 袖丈が 長い cf. この服の袖は 丈が 長い <PV> この服は 袖が 長い <PA> 最近の男の子は 声変りの時期が 早い cf. 最近の男の子の声変りは 時期が 早い <PV> 最近の男の子は 声変りが 早い <BE> 彼は 暴力団との関係が 深い cf. 彼と暴力団は 関係が 深い <NO>	

PA (Partitive)

対項	NP 2 ガ	おもに具体物 (全体)
	NP 1 ガ	おもに具体物 (部分) : [CON] [SOL] [LOC] [INF]
述語	属性	
注記	交替 : NP 2 / NP 1 ガ <O1>	NP 2 と NP 1 が、全体と部分の関係にある
文例	彼は 顔が 丸い この服は 袖が 長い 鶏は ももが 安い あの湖は 中心部が 深い この鉛筆は 先が 鋭い この小説は 第一章が 長い	

CH (Character)

対項	NP 2 ガ	[HUM] [ANI] [ORG]
	NP 1 ガ	[PER]
述語	属性	
注記	交替 : NP 2 / NP 1 ガ <O1>	(2項で表わす方が自然) 人または人に準じるものの性格、性質を表わす
文例	彼は 心が 広い 彼は 性格が 丸い 彼は 根性が 汚い 彼女は 気立てが よい 彼女は 物腰が やわらかい あの子は 気持ちが 優しい この学校は 気風が 荒い	

BE (Behavior)

対項	NP 2 ガ	行為や動きの主体 [HUM] [ANI] [ORG] [AUT] [NAT]
	NP 1 ガ	「～(を) すること」と置き換えられるものが多い [MAN] [PRC] [ACT] [EVE]
述語	属性	
注記	交替 : NP 2 / NP 1 ガ <O1>	(不可のものもある) 人または人に準じるものの動作やその実現の方法、あるいは異動する具 体物や自然現象の動きの状態を表わす
文例	彼は テニスが うまい	

彼は テレビゲームが うまい
 cf. *彼のテレビゲームは うまい
 あのチームは サッカーが 強い
 彼女は しつけが 厳しい
 彼は 靴のひもの結び方が 緩い
 彼は 考え方が 若い
 この学校は 始業が 早い
 その飛行機は 到着が 早い
 今年の桜は 開花が 遅い

LP (Locational Possessor)

対項 NP 2 ガ NP 1 が存在する場所 [LOC]
 NP 1 ガ 具体物あるいは抽象物
 述語 属性

注記 交替: NP 2 / NP 1 ガ <O 1>
 NP 2 = NP 1 ガ <L L 1>

文例 日本は 資源が 乏しい
 cf. 日本には 資源が乏しい <L L 1>
 東京は 雨が 多い
 cf. 東京には 雨が 多い <L L 1>
 この病院は 消火器が ない
 cf. この病院には 消火器が ない <L L 1>
 この駐車場は 空きが ない
 cf. この駐車場には 空きが ない <L L 1>

NO (Non-locational possessor)

対項 NP 2 ガ NP 1 が広い意味での所有者
 [LOC] [SPA] 以外
 NP 1 ガ 具体物あるいは抽象物
 述語 属性

注記 交替: NP 2 / NP 1 ガ <O 1>
 NP 2 = NP 1 ガ <N L 1>

文例 あの夫婦は 子供が ない
 cf. あの夫婦には 子供が ない <N L 1>
 この病院は 責任が ない
 cf. この病院には 責任が ない <N L 1>
 彼は 歴史への関心が 強い
 cf. 彼には 歴史への関心が ある <N L 1>
 この店は ラーメンが おいしい
 その家と皇室は 関係が 深い
 そのデモは 参加者が 一万人に 近い

DM (DoMain)

対項 NP 2 ガ [LOC] [PIT]
 NP 1 ガ 特に制限はない

述語 属性

注記 交替：NP 2 ノ NP 1 ガ <O1>
 NP 2 ガ <O1>☆

文例 この職場は テレビが うるさい
 cf. この職場はうるさい <O1>
 夏は 家の中が 暑い
 cf. この夏は暑い <O1>
 その日は 僕は 忙しい
 cf. その日は忙しい <O1>

☆「NP 2 ガ」に交替できない次のような例は除外した

ロンドンが 霧が 深い cf. *ロンドンが深い
 目黒が サンマが うまい cf. *目黒がうまい
 このあたりが 地盤が 緩い cf. *このあたりが緩い

EL (ELements)

対項 NP 2 ガ 特に制限はない
 NP 1 ガ 特に制限はない

述語 属性

注記 交替：NP 2 ノ NP 1 ガ <O1>
 主に、NP 2 の全体や外見の状態、または人の行為を受ける物事の状態を表わす（雑多なものが入っていて、今後さらに細分化を要する）

文例 その服は 柄が 細かい
 cf. その服の柄は 細かい <O1>
 その服は 仕上がりが美しい
 彼は 目付きが きつい
 この小説は 内容が 難しい
 この文章は 表現が かたい
 彼は しつけが よい
 cf. 彼は しつけが 厳しい <BE>
 この靴のひもは 結び方が 緩い
 cf. 彼は 靴のひもの結び方が 緩い <BE>
 その計画は 実現が 不可能に 近い
 殺人は 罪が 重い
 cf. 彼は 罪が 重い <NO>

S C (SpeCifier)

対項	N P 2 ガ	特に制限はない
	N P 1 ガ	特に制限はない
述語	属性	

注記 N P 1 は、N P 2 で示された範囲から選択指定したもの

文例 日本の首都は 東京が 正しい
 コンピュータの設置場所は、温度変化の少ないところが 望ましい
 cf. コンピュータの設置場所を温度変化の少ないところにするのが
 望ましい <O 1>
 このけんかは 君が 悪い
 その病気は このウィルスが あやしい
 通勤時間が長いのは 住宅事情の悪さによるところが 大きい
 私の家は 駅が 近い
 cf. 私の家は 駅に／から 近い <L T / L F>
 議長は 彼が ふさわしい
 cf. 議長は 彼に ふさわしい <A P>

B P (Body-Parts)

対項	N P 2 ガ	[HUM]
	N P 1 ガ	体の部分 [COM] [LOC]
述語	感覚	(人称制限がある)

注記 文型では () をつけ「(N P 2 ガ)」とした

文例 私は 頭が 痛い
 私は 手が かゆい
 私は 顔が 熱い
 私は 足元が 寒い

S T (STimulus)

対項	N P 2 ガ	[HUM]
	N P 1 ガ	感覚を引き起こす原因
述語	感覚	(人称制限がある)

注記 感覚の主体を表わす「私が」をつけると不自然な場合もある
 文型では () をつけ「(N P 2 ガ)」とした

文例 私は 日の光が まぶしい
 私は 風邪で マラソンが つらい
 【私は そよ風が】 頬に 快い

F O (F0cus)

対項	NP 2 ガ	[HUM]
	NP 1 ガ	感情の対象
述語	感情	(人称制限がある)
注記	感情の主体を表わす「私が」をつけると不自然な場合もある 文型では () をつけ「(NP 2 ガ)」とした	
文例	私は あの先生が 可愛い 私は 昔が 懐かしい 私は 恋人が ほしい 私は 命が 惜しい 私は てんぷらが いい 【(私は) そんなことは】 彼に 悪い	

O 2 (Object)

対項	NP 2 ガ	[HUM]
	NP 1 ガ	感情の対象
述語	感情	(「ほしい」に限られる；人称制限がある)
注記	文型では () をつけ「(NP 1 ガ)」とした 交替：NP 1 ガNP ガ <FO>	
文例	【私は 彼を】 助手に ほしい cf. 私は 助手に 彼が ほしい <FO>	

L F (Location-From)

対項	NP 1 ガ	場所または場所をとる具体物 [LOC]
	NP カラ	方向の基点を示す場所 [LOC]
述語	属性	
注記	交替：NP 1 ガNP ニ <LT> (動詞辞書の<LS 1>と対応するが、形容詞では移動の意味を伴わないので、新たに設けた)	
文例	僕の家は 駅から 近い cf. 僕の家は 駅に 近い <LT> 私の家は 学校から 遠い cf. 私の家は 学校に 近い <LT>	

N F (Non-location-From)

対項	NP 1 ガ [A F F] [A C T] NP カラ 特に制限はない
述語	属性
注記	3 項の文型または 3 項に展開できる文型の中のガーカラの関係 語順：NP カラ NP 1 ガ 交替：NP ニ NP 1 ガ <G R>
文例	彼は 【若者から 人気】 ない cf. 彼は 若者に 人気 が ない <G R> PTA からは その案への反対は 少ない cf. PTA には その案への反対は 少ない <G R> 僕は 【妻から 信用】 ない cf. 僕は 妻に 信用 が ない <G R> 息子から 私への連絡が ない

R E (REciprocal)

対項	特にない (2.4.4 「例外的な述語素」参照)
述語	属性
注記	形容詞述語文のうち、並列助詞のトを要求するものすべてにこの述語素を振る。1 項の文型では「NP 1」が、2 項以上の文型では「NP 2」が、「X ト Y」の形になるか、または複数を示す名詞句「彼ら」「二人」「両者」などがくる (動詞辞書の<S Y>とは扱いが異なる)
文例	彼と彼女は 親しい 彼と彼女は 仲が よい 彼と彼女は 実力に差が ない

[表 9] 述語素略号一覧と交替情報

述語素	格形式	述語素の交替	格形式
AP APtitude	ニ-ガ*	SC	ガ-ガ
AS Ascriptive	ニ-ガ*	BE	ガ-ガ
AT ATtitude	ニ-ガ*		
BE BEhavior	ガ-ガ	O1	ガ
BP Body-Parts	ガ-ガ		
CH CHaracter	ガ-ガ	O1	ガ
DM DoMain	ガ-ガ	O1	ガ
DY DYadic	ニ-ガ		
EL ELements	ガ-ガ	O1	ガ
EV1 EssiVe	ニ-ガ*		
EV2 EssiVe	ニ-ヲ*	EV1	ニ-ガ*
FC FaCet	ガ-ガ	O1	ガ
FO FOcus	ガ-ガ		
GR GRoupie	ニ-ガ	NF	ガ-カラ*
LF Locatio-From	ガ-カラ	LT	ニ-ガ*
LL1 Locational Locative	ニ-ガ	LP	ガ-ガ
LP Locational Possessor	ガ-ガ	LL1, O1	ニ-ガ, ガ
LT Location-Towards	ニ-ガ*	LF	ガ-カラ
NF Non-location-Form	ガ-カラ*	GR	ニ-ガ
NG1 Non-locational Goal	ニ-ガ*		
NL1 Non-locational Locative	ニ-ガ	NO	ガ-ガ
NO Non-locational pOssessor	ガ-ガ	NL1, O1	ニ-ガ, ガ
NT Non-location-Towards	ニ-ガ		
O1 Object	ガ		
O2 Object	ガ-ヲ	FO	ガ-ガ
PA PArtitive	ガ-ガ	O1	ガ
PV Point of View	ガ-ガ	O1	ガ
RA RAnge	ニ-ガ*		
RC ReCepient	ニ-ガ		
RP Reference Point	ニ-ガ		
SC SpeCifier	ガ-ガ		
SN SeNtient	ニ-ガ		
SO ScOpe	ニ-ガ*		
ST STimulus	ガ-ガ		
TR Traints	ガ-ガ	O1	ガ
RE REciprocal	ガ- (ト)		

注) *印で、「格形式」欄に示した語順が自然な語順と異なる場合を示した

2.5 文例

語義と文型を端的に示すような例文をあげた。自然な文になるように、文型に表示した格形式を、文例では係助詞か副助詞に直したことが多い。

ひろい 01
 文型 NP 1 ガ
 文例 この道路の幅は 広い

ひろい 01
 文型 NP 2 ガ NP 1 ガ
 文例 この道路は 幅が 広い

また、連体用法がよく使われる場合には、必要に応じて併記した。

あたらしい 02 (また使われていない)
 文型 NP 1 ガ
 文例 このコップは新しいですか?
 新しいノートに名前を書く
 従属節を挿入したものもある。

うれしい 01
 文型 NP 1 ガ
 文例 私は あなたに会えて うれしい

2.6 記載例

ひろい 01

統 語 情 報 1	終	区分番号	文 型	NP 2 ガ NP 1 ガ	述 語 素	P V	
		02					
	止 用 法	格形式	意味素性	名詞句			
		2 ガ	CON	この道路, この公園, この建物, この部屋			
		1 ガ	ME A / S P A	幅, 面積 / 空間, スペース			
		文例	この道路は 幅が 広い				

注1) 形容詞の連体形と終止形について

形容動詞を独立の品詞として認める立場にたてば、日本語の文法の中で活用語に含まれるのは、動詞、形容詞、形容動詞の三つである。このうちの動詞と形容詞の場合、現代語では終止形と連体形に形の上での区別がない。両方の活用形に形式上の区別があるのは、形容動詞の場合に限られる。

従って、現代語では「ので」の前に現れる形容詞が連体形か終止形かを定めるには、「ので」の前に現れる形容動詞の活用形を参照する他に方法がない。つまり形容動詞では「きれいなので」のように「ので」の前に連体形が現れるとはっきり言えるので、実際は連体形と終止形に区別のない形容詞の場合でも、「おいしいので」については連体形と認めることが可能になる。ただし形容動詞を否定する立場にたてば、この問題は別の角度から見なおす必要がある。形容動詞の否定論については次の論文に詳しい：水谷静夫(1951)「形容動詞辨」『國語と國文學』(28巻5号)。

注2) 終止用法・連体用法・連用用法について

活用形は、その名称が無意味なものでないとするれば、大きく二つの類に分けることができる。一つは、分布的な観点から名付けられた、終止形、連体形、連用形の類であり、もう一つは、意味の観点から名付けられた、未然形、仮定形、命令形の類である。単語のすべては出現する文の中で位置(分布)を与えられることになるので、前者のグループは単に活用形の名称である以上の意味を持つことになる。

このように終止、連体、連用を構文的な関係として認めようとする立場は、少数派であったとしても目新しいわけではない。ここで試みた説明は活用形の側から構文現象を見ようとする次の立場に近いものである：奥田靖雄(1975)「連用、終止、連体……」(再収：松本泰文編、『日本語研究の方法』むぎ書房 1978)

他方、構文的な観点から活用形を見なおすことも可能だが、この場合、終止、連体、連用の下にその他の活用形も配属されることになる。Jespersen は次の著書で構文的な関係を‘rank’と呼び、そこに三種の区別を認めることを提唱している：Jespersen, O, (1924) *The Philosophy of Grammar*. George Allen & Unwin (半田一郎訳『文法の原理』岩波書店 1958)。三種の‘rank’を日本語の活用形に対して適用した場合、ここに提唱したのとかなり近い結果が得られるはずである。次の著書に見える活用形の簡潔な記述は、そのような方向を示す一つの試みとして考えられる：芳賀綏(1962)「日本文法教室」東京堂(教育出版復刊 1982 3.3章)。

このような考え方を推し進める場合、少なくとも二つの問題がある。一つは、見出し語と終止形の区別である。見出し語には、活用形のうち終止形が当てられる。このため見出し語と終止形は混同されやすい。しかし、見出し語がその活用語のクラス表示であり、そのクラスのメンバーに過ぎない終止形とレベルが違うことは、もう一度確認しておく必要がある。本文で「終止用法」をいう名称を採用したのは、この意味で誤解を招きやすいかもしれない。そこで「終止用法」と呼ばれているのは、その見出し語が述語になった場合、名詞句をいくつ取るかという類の情報(Valency)に限られるからである。文法にはいろいろな範疇が用意されているが、平叙文、質問文、命令文の分類はモダリティによるものである。本来「終止用法」という名称は、このようなモダリティによる文の分類を示すのにふさわしいものかもしれない。

もう一つの問題は、連体修飾の中に連用用法と見られるものが現れたり、連用修飾の中に連体用法と見られるものが現れたりすることである。ここから、

- (A) 連体修飾の中に現れうる連用用法、
- (B) 連用修飾の中に現れうる連体用法、
- (C) 連体修飾および連用修飾以外の文の中だけに現れうる連用用法、

それぞれの場合に現れる単語類を明らかにする必要があることがわかる。それぞれの場合に現れる単語数をここに示したように(A) (B) (C) と呼び、それぞれが包含関係にあることを明らかにしたのは次の著書である：南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店。

注3) 文型「NPガNPガNPガ」について

ここにあげた文型の中には、「NPガ NPガ NPガ」という文型は含まれていない。先にあげた「書きことばでも使用されるかどうか」という基準から見ると、(1)のように三つの名詞句がすべて「ガ」を伴って現れるものを文型として認めなくてもよいと考えられる。

- (1) a. 日本は女性が平均寿命が長い
- b. あの店はラーメンが値段が安い

推敲された書きことばでは、(1a, b)はそれぞれ(2) (3)のような2項の文型あるいは1項の文型に修正されると思われる。

- (2) a. 日本は女性の平均寿命が長い
- b. 日本の女性は平均寿命が長い
- c. 日本の女性の平均寿命は長い

- (3) a. あの店はラーメンの値段が安い
- b. あの店のラーメンは値段が安い
- c. あの店のラーメンの値段は安い

従って、2項と1項の文型の記述があれば、(1)のような3項の文型を記述する必要はなくなる。

また、(2) (3)と較べて(1a, b)には明らかな対比性が含まれていることから、両方とも一種の比較構文として解釈できる。例えば、

- (4) a. 日本は男性より女性の方が平均寿命が長い
- b. あの店はチャーハンよりラーメンの方が値段が安い

(4a, b)のような文なら推敲された書きことばの中でも使用できると考えられるが、比較構文は既に述べたように文型として記述しないため、三つの名詞句がすべて「ガ」を伴って現れる文型を認めない方針に従った。（ただし、「今日は僕は都合が悪い」のような少数の例外については「備考」欄に記入してある。）

注4) 動詞辞書と併用する利用者のために、意味素性の対照表を簡略化して示す。

[表 10] 意味素性対照表

動詞辞書	形容詞辞書
ANI	AML, ANI
HUM	HUM, GAT
ORG	ORG, GAT
PLA	NAT, CON
PAR	CON
NAT	NAT, LOC, CON
PRO	AUT, CON
CON	EDI, SOL, LIQ, PAS, GAS, CON
PHE	NAT, GAS, PHE
ACT	MAN, PRC, ACT, EVE
MEN	MAN, PER, STA, ABS
LIN	INF
CHA	GRA, MAN, PER
REL	REL, SOC
LOC	SPA, LOC
TIM	TIM, PIT
QUA	DUR, DIS, QUA
ABS	KND, REL, SOC, AFF, EFF, NOR, ENT, MEA, FOR, APP, GRA, MAN, PERVORD, STA, ABS
DIV	CON\ABS

注5) 述語素の概略と参考文献について

「述語素」については村木新次郎氏によっていろいろな形で発表されているが、参考文献等については次の論文に詳しい：村木新次郎、青山文啓、六条範俊、村田賢一（1984）「辞書における格情報の記述」『情報処理学会自然言語処理研究会資料』46-3 pp. 1-8

注6) 側面語と部分語について

高橋太郎(1975)「文中にあらわれる所属関係の種々相」『国語額』103 pp. 1-17

VI 統言吾情 幸段 2

0. 印刷形式

統 語 情 報 2	連 体 用 法	制 限 用 法	1	
			2	
	連 用 用 法	動 詞		
		他		

1. 連体用法

1.1 連体用法について

形容詞の連体用法とは、形容詞が名詞（または名詞に相当する語句）を修飾する用法である。

白い花 赤いバラ

修飾語である形容詞は修飾される語（「被修飾語」）の前に置かれる。その形態は連体形をとる。形容詞の場合、連体形の形態は終止形のそれ（辞書の見出し語の形）と同じである。（ここでは形容詞の連体形が修飾語となる場合のみを取り上げる。形容詞に助動詞等が後接すると、形容詞自体は必ずしも連体形ではない。）なお、次のような「連体修飾構造」も、ここでの連体用法に含めるものとする。（注1）

地理に詳しい少年 数学に強い学生

当辞書では、形容詞の連体用法のうちの制限用法を扱う。制限用法の記述にあたっては、終始用法との関係から、「制限用法1」と「制限用法2」の区別を設けた。

連体用法には、他の非制限用法がある。こちらは終止用法と（意味において）共通性がみられるため、連体用法として別個に扱うことはしなかった。

以下で、制限用法と非制限用法との違いや、それらと終止用法との関係を述べていく。（当辞書における記載方法については、1.2で詳しく述べる。）

1.1.1 制限用法と非制限用法

形容詞が連体用法で用いられるとき、その働きによって 制限用法と 非制限用法との二つに分けられる。

① 制限用法

被修飾語が指示しうる対象のうち、当の形容詞の語義に当てはまるものだけに限定・制限する働き。

例えば、「かわいいリス」や「高い洋書」が制限用法で用いられた場合、それらが指示する対象は、「リス」「洋書」の一部に限定されており、「リス」「洋書」そのものが指示しうる対象とは異なっている。それぞれの表わすところは、おおよそ次のように言い換えられる。

- (1)a. かわいいリス……………「リス」(で指示される対象)のなかで、あるものは愛らしい
b. 高い洋書……………「洋書」(で指示される対象)のなかで、あるものは高価だ

② 非制限用法

被修飾語が指示する対象そのものが、当の形容詞の語義に当てはまることを示す、働き。(形容詞には指示対象を限定・制限する働きはない。)

被修飾語が、下の(2a, b)のように「この・あの」などが付いたものであるとき、形容詞には指示対象を限定する働きはない。「修飾語(形容詞)＋被修飾語」全体が指示する対象は、被修飾語(「このリス」「あの洋書」)だけで指示される対象と同じである。この場合、被修飾語が指示する対象が形容詞の語義に当てはまることを示すだけなのである。また、(3a, b)のように被修飾語が「総称的」な意味で用いられ、その類を総じて指示対象としている場合も(2a, b)と同様である。形容詞によって指示対象が限定されるということはない。その類が総じて形容詞の語義に当てはまることを示している。(これは制限用法と見た目には同じであるが、意味は異なることに注意。)

- (2)a. かわいいこのリス……………「このリス」(で指示される対象)は愛らしい
b. 高いあの洋書……………「あの洋書」(で指示される対象)は高価だ

(3)a. かわいいリス……………「リス」というものは(総じて)愛らしい
b. 高い洋書……………「洋書」というものは(総じて)高価だ

制限用法／非制限用法の区別は、つまるところ、「修飾語＋被修飾語」全体の指示対象が、被修飾語だけの指示対象とは異なるか、それとも同じであるかによる、と言うことができる。(注2)

[参考]

制限用法／非制限用法の区別は、英語の関係節でのものがよく知られている。英語の関係節の場合、これら二つの用法はコンマの有無(書き言葉の場合)やイントネーション等(話し言葉の場合)によって区別が明確になっている。

Children who learn quickly should study foreign languages as early as possible.

制限用法:「物覚えが早い子ども」に限って、の意

Children, who learn quickly, should study foreign languages as early as possible.

非制限用法:「子ども」は総じて、の意

1.1.2 連体用法と終止用法

連体用法には制限用法と非制限用法がある。それらと終止用法と比べてみると、以下でみるように、非制限用法は終止用法と意味的に共通することがわかる。一方、制限用法と終止用法には意味において違いがみとめられる。

非制限用法から先にみていく。終止用法の(4)に対して、そのガ格名詞句「この洋書」を被修飾語とした連体用法の(4')が存在する。形容詞「高い」のこの終止用法と連体用法とは、見た目の上でそれぞれのカ格名詞句と被修飾語とが同じものをとっている、という対応を示している。(4')は、全体によって指示される対象が「この洋書」の指示対象と同じであり、非制限用法である。(4')が表わすところは(4)が意味するものと同じである。つまり、これらは見た目だけではなく、意味においても対応している。

- (4) この洋書は高い
(4') 高いこの洋書……………「この洋書」は高価だ

また、次の終止用法の(5)では、ガ格名詞句の「洋書」は総称的に解釈される。すなわち、それは総じて「洋書」を指示対象としている。総称的な「洋書」を被修飾語とする連体用法は(5')である。(5')は非制限用法であり、それが表わすものは(5)が意味するものと同じである。これらも見た目だけではなく、意味においても対応している。

- (5) 洋書は高い
(5') 高い洋書 [非制限用法] ……「洋書」というものは高価だ

このように、非制限用法と終止用法は意味において共通している。すなわち、終止用法と連体用法は、それぞれのカ格名詞句と被修飾語とが同じという見た目の対応関係があるとき、意味的にも対応するのである。とすると、非制限用法と終止用法とをそれぞれそのまま記述すれば、辞書としては重複する部分ができることになる。したがって、当辞書では非制限用法を取って扱うということはしなかった。

さて、制限用法についてである。こちらの終止用法との関係は、非制限用法の場合とは異なる。上の(5')では「高い洋書」を非制限用法とした。しかし、これは制限用法にも解釈できる。次の(5'')である。(5'')と終止用法の(5)とは、それぞれの被修飾語とガ格名詞句が「洋書」であるから、見た目の上では対応している。

- (5'') 高い洋書 [制限用法] ……「洋書」のなかで、あるものは高価だ

しかし、(5'')が指示するのは、「洋書」のうちの「高い」ものだけである。終止用法の(5)は「洋書」が総じて「高い」ことを述べているのだから、(5'')と(5)とは意味において違いがある。このように、制限用法と終止用法とでは、見た目には対応していても、意味的には異なっているのである。

さらに、制限用法と終止用法とでは、意味的に異なるだけではなく、見た目の上での対応そのものが成り立たない場合もある。まず、制限用法の被修飾語が終止用法の名詞句としては用いられない場合である。

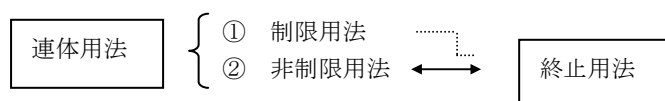
- (6) 近い将来 (*将来が／に／から／へ／と／… 近い)

上とは逆に、終止用法での名詞句が制限用法の被修飾語としてはあまり用いられない場合もなる。

(7)気が弱い (*弱い気) cf. 意志が弱い：弱い意志

以下のように、制限用法と終止用法とはいくつかの違いがみられる。制限用法は単純に終止用法から導き出せるようなものとは言えない。当辞書では、連体用法に関する情報として、制限用法についてそのスペースをさくことにしたが、(5”)のように終止用法と見た目に対応する場合を「制限用法1」とし、(6)のようにそれがない場合を「制限用法2」とした。(なお、(7)のようなものは「慣用表現」または「備考1」に記載した。)

連体用法(制限用法/非制限用法)と終止用法との官憲を一般的な図にすると下のようになる。(点線は見た目の上で対応だけがありうることを表わし、両方向の矢印は意味においても共通することを表わす。)



当辞書では、制限用法の被修飾語については記号「N」で表わし、終止用法の名詞句については記号「NP」で表わし区別を明確にしている。(I.3, VI.1.2 参照) これは、制限用法の被修飾語と終止用法の名詞句とに意味的な違いがあることを考慮に入れたためである。(注3)

ただし、確かに「N」と「NP」は意味においては違うのではあるが、ひとつの形容詞の同じ語義におけるそれぞれの例は共通するものが多い。(例えば(5)と(5”)の「洋書」がそうである。)終止用法と連体用法の制限用法とにおける見た目の上での対応関係(上図点線)とは、大雑把に言って、終止用法の名詞句を連体用法の被修飾語にする際に、「この・あの」などを取り去ったり、総称的な解釈をやめたりすることで成り立つ。

1.1.3 種々の連体用法

ここまでは、連体用法と終止用法との関係において、ガ格名詞句が連体用法の被修飾語に当たる場合をみてきたが、ガ格以外の名詞句についても連体用法の被修飾語との対応がみられることがある。ただし、当辞書では、ガ格以外の名詞句については、記述が煩雑になるのを恐れ、扱わなかった(1.2 参照)。

東京ニ 公園ガ 少ない
→ [東京ニ 少ない] 公園……被修飾語は「公園(ガ)」
→ [公園ガ 少ない] 東京……被修飾語は「東京(ニ)」

私の家ガ その駅ニ 近い
→ [その駅ニ 近い] 私の家……被修飾語は「私の家(ガ)」
→ [私の家ガ 近い] その駅……被修飾語は「その駅(ニ)」

太郎ガ 次郎ト 親しい
→ [次郎ト 親しい] 太郎……被修飾語は「太郎(ガ)」
→ [太郎ガ 親しい] 次郎……被修飾語は「次郎(ト)」

また、ガ格が二つあらわれている文型では、双方のガ格が連体用法の被修飾語に当た

る場合がある。なお、そのとき、残されたガ格をノ格に変えることができたり、変えないと不自然であったりすることがある。(注4) ガ格が二つの文型の場合、当辞書では原則として形容詞に近い方の名詞句を記述の対象とした。(1. 2. 1 参照)

太郎ガ その犬ガ 恐い (太郎がその犬を恐がっている)
→ [その犬ガ 恐い] 太郎 / その犬ノ恐い太郎
→ [太郎ガ 親しい] 次郎 / 太郎ノ恐いその犬

象ガ 鼻ガ 長い
→ [鼻ガ 長い] 象 / 鼻ノ長い象
→ [象ガ 長い] 鼻 / 象ノ長い鼻

1.2 当辞書における記載事項

当辞書では、形容詞の連体用法に関する情報として、制限用法を扱っている。限られたスペースにおいて、終止用法についての記述と重複することをなるべく避けるため、非制限用法は取り上げなかった。以下では、単に「連体用法」としてあっても、制限用法のみを指すものとする。当辞書では、制限用法の被修飾語(名詞)を「N」としている。(終止用法の名詞句は「NP」とし、区別している。I. 3, IV. 1. 1. 2 参照)

制限用法の被修飾語には、終止用法との関係において、その名詞句と見た目だけが対応するものと、見た目にも対応せず、連体用法に特有なものがある。そこで、当辞書では、記載欄を分け、前者を「制限用法1」、後者を「制限用法2」とし、それぞれの被修飾語の例を記述した。(1. 1. 2 参照)

終止用法： 石が大きい
連体用法： 大きい石 → 制限用法1

終止用法： *将来が／に／から／…近い
連体用法： 近い将来 → 制限用法2

また、当辞書では、ガ格以外の名詞句が被修飾語に当るような連体用法は、記述の対象から除いた。例えば、「あの人はその分野に詳しい」に対する連体用法として当辞書で採ったのは「その分野に詳しい人」であって、「あの人が詳しい分野」ではない。(1. 1. 3 参照)

終止用法： あの人がこの土地に詳しい
連体用法： この土地に詳しい人 記述対象
cf. あの人が詳しい土地 記述対象外

ただし、ガ格が他の格と交替する場合がある。そのようなものはガ格名詞句に準ずる扱いとした。

終止用法： 彼は商売が／に忙しい
連体用法： 彼が忙しい商売

以下、「制限用法1」「制限用法2」の各欄の具体的な記載方法について解説する。

とりうる連体修飾節に違いがある場合は、それぞれの被修飾語を「|」で区切って列挙した。終止用法と連体用法（特に連体修飾構造）の関係をみる場合には注意されたい。（単純な「形容詞＋名詞」の連体用法だけを問題とする場合は「|」を無視できる。）

終止用法： この店の食料品の値段は高い } NP 1 ガ；述語素：O 1
 この店の食料品は 高い }
 この店は 高い }
 この店の食料品は値段が高い NP 2 ガNP 1 ガ；述語素：P V
 この店は食料品の値段が高い NP 2 ガNP 1 ガ；述語素：T R
 この店は食料品が 高い NP 2 ガNP 1 ガ；述語素：N O

連体用法： 高い値段 | 高い食料品 | 高い店

→ 記入例

N 1	値段 食料品 店
-----	--------------

なお、必要に応じて、統語情報 1（終止用法）の「文例」欄に、当該の連体用法を含んだ文例を記載した。

あたらしい 02 （まだ使われていない）
 文型 NP 1 ガ
 文例 このコップは 新しいですか？
 新しいコップを 出してください。
 新しいノートに 名前を書く。

1.2.2 制限用法 2

—— 被修飾語（N）がどの名詞句（NP）にも対応しない場合 ——

この欄では、当該形容詞の連体用法における被修飾語で、終止用法のどの名詞句にも対応しないものが存在する場合、重要と考えられるものについて、その例をあげた。

終止用法： *将来が / に / から / … 近い
 連体用法： 近い将来

→ 記入例

将来

なお、「制限用法 1」や「制限用法 2」で扱ったものの他に、終止用法のガ格名詞句が、連体用法の被修飾語として用いられない場合もある。そのような例は「慣用表現」または「備考 1」の欄に記した。

終止用法： 気が弱い → 慣用表現へ
 連体用法： *弱い気

1.3 記載例

たかい 06 制限用法 1 : N 1

統 語 情 報 2	連 体 用 法	制 限 用 法	1	N 1	値段, 費用, 価格, 地価, 料金, 給料, 利子 野菜, 食 料品, 土地, 国際電話, 個人旅行, アルバイト 店, デ パート
			2		

わかい 01 制限用法 1 : N 2 あの [NP2] は年 [NP1] が若い→年が若い人

統 語 情 報 2	連 体 用 法	制 限 用 法	1	N 2	人, チーム, 世代, 選手
			2	生涯	

めぼしい 01 制限用法 1 : なし (連体用法のみ)

統 語 情 報 2	連 体 用 法	制 限 用 法	1	/	
			2	もの, 人, 作品, 演説, 産業, 選手, 収穫, 働き, 成果	

注1) 連体修飾構造について

「地理に詳しい少年」では、被修飾語の「少年」を修飾しているのは、「地理に詳しい」という節（「連体修飾節」）であり、形容詞の「詳しい」一語のみではない。この連体用法（連体修飾構造）は、終止用法（文）の「少年が地理に詳しい」に対応していると考えられる。「地理に詳しい」の部分はそのままで、ガ格名詞句の「少年」が被修飾語となっている。

少年が地理に詳しい : [地理に詳しい] 少年

このような連体修飾構造は、「内の関係」（寺村，1975-78，1981）（または「同一名詞連体修飾構造」（奥津，1974））と呼ばれる。

この他に、「外の関係」（寺村，1975-78，1981）（または「付加名詞連体修飾構造」（奥津，1974））も存在する。外の関係については、その一部を「制限用法2」で扱っている。

なお、形容詞についてとは限らないが、「連体修飾構造」をも含めて連体用法を論じたものには、上にあげたものの他に、井上（1976）、神尾（1983）、久野（1973）、寺村（1980）、寺村他（1987）、吉川（1989）等がある。

注2) 制限用法／非制限用法の統語論的な扱いについて

制限用法／非制限用法の違いは意味上のものであるが、これを統語論においてどのように扱うかについては考え方がいくつか存在する。例えば、奥津（1974：207-216）は、制限／非制限の意味的な違いを連体修飾節の区別ではなく、被修飾語にはじめから特殊／一般の区別があるためとしている。また、神尾（1983）は、関係節の制限／非制限は統語構造の違いによるものとし、制限的關係節はNPの下でNP'の下に包含され、非制限的關係節はNPの下でNP'の外に生ずるとしている。

注3) 「N」と「NP」の統語論的な扱いについて

当辞書のように、「N」と「NP」を区別し、それを統語論において理論的に扱うにあたっては、神尾（1983）が参考になる。なお、制限用法の被修飾語と終止用法の名詞句とに関する意味的な違いを問題としなかったり、その意味の違いを「N」と「NP」の区別なしに統語論で扱えるとしたら、その区別は不要となるかもしれない。

注4) 「ガノ可変」

この減少は「ガノ可変」と呼ばれる。（三上，1953，1955a, b等参照）なお、「ガ」と「ノ」を置き換えたものは、全体の構造（または「係り受け」）も異なるとも考えられようが、そこまでは問題にしないでおく。

注5) 被修飾語に対応するもの以外の名詞句

終止用法に現れる名詞句で被修飾語に対応するもの以外が、連体用法においてどのように振る舞うか（例えば、「N1」と記述された場合、「NP2ガ」がガ格のままか、ノ格をとるか等）については記述していない。

2. 連用用法

2.1 連用用法について

形容詞が他の要素を修飾する場合には、VI. 1. で見たような名詞を修飾する連体用法と、述語を修飾する連用用法とに大きく分けられる。連用用法の場合、形態的には語尾が「-く」で終る連用形となる。

連用用法の種類は、統語的にも意味的にも実に様々であるが、ここでは、修飾関係によって大まかに四つに分けて見ることにする。

① 副詞相当のもの

まず、形容詞一語で現れる場合の連用用法は、意味的には、以下に見られるように、述語を直接的に修飾している場合が多い。このタイプは、意味的な修飾関係という点では一部の副詞と同じ働きをしている。

はやく走る
いさましく戦う
おそろしく複雑だ
今日は、ひどく疲れた

上の例の「はやく」「いさましく」などは、「ゆっくり」などのいわゆる情態副詞と意味的な修飾関係が同じである。典型的には、動作・出来事のあり方を表している。「おそろしく」「ひどく」は、述語の表わす状態の程度を示し、「とても」などの程度副詞と同じ働きをしている。

しかし、この述語を直接修飾する場合の意味的關係は、細かく見ていくと、一様ではなく様々な種類に分かれる。また「述語を修飾する」といっても、厳密には述語より大きな単位である「述語と他の要素との意味的なまとまり」を修飾している場合も多い。この辞書で区別したものについては、以下の「当辞書における記載事項」のところで述べる。

② 文の述語として働くもの

着物姿の日本女性は美しく見える
ごはんは、何回も噛んでいると、甘く感じるようになる
みなさんの親切は本当に嬉しく思っています
そのことが、くやしく思われて仕方がなかった

これらの例では、意味的には「見える、感じる、思う、思われる」が、それぞれ「着物姿の日本女性は美しい」「ごはんが甘い」「みなさんの親切が本当に嬉しい」「そのことがくやしい」といった文相当のものを受けており、「美しく、甘く、嬉しく、くやしく」は、それらの述語として働いている。また、これらの形容詞は「はやく」「ひどく」などと違って義務的な様相になっており、省略できないという点でも、直接的に述語を修飾する場合とは異なる。

③ 「なる」「する」と結合したもの

風船が大きくなった
おだんごを丸くする

これらの例でも、「なる」「する」が、「風船が大きい」「おだんごが丸い」という

文相当のものを受けている。形容詞が義務的な要素となっているという点では②と似ているが、「なる」「する」の場合には、それらと形容詞の関係がより密接であるという点で異なる。

なお、上の例では、意味的にはある一つのものの変化を表わしているが、

- (a) 受付の女の人が若くなった
- (b) 蛍光灯を新しくした方がいい

のような、(a)別の人が変る、(b)別のものに取り替える、という意味を表わす場合もある。

④ この他にも、

- アナグマの脚は、がっちりとして、太く短い (並列)
- 水分が多く、腐りやすい (原因・理由)
- 他人に厳しく、自分に甘い (対比)
- 今回初めて投票した人も多く、投票率は過去最高となった (付帯状況)

のよなゆるい意味的關係を持つものが見られる。

当辞書では、これら四つのタイプのうち、述語を直接修飾するものとして挙げた①と「なる」「する」のついた③を記述の対象とした。

注) 連用用法の修飾關係について述べたものには、たとえば、ソーントン(1983)、仁田(1983)、益岡(1987)などがある。

2.2 当辞書における記載事項

連用用法の欄を、「－くなる、－くする 1、－くする 2」「動詞」「その他」(印刷形式では「他」と表示)の三つの欄に分けて記述した。

2.2.1 - くなる、- くする 1、- くする 2

① - くなる

各形容詞の「語義」ごとに、「－くなる」の接続が可能な場合、「－くなる」を書き入れて、それを示した。

- 例 つめたい 02 水が冷たい
- おおい 01 東京に空地が多い
- きびしい 01 あの先生は生徒に厳しい
- ほしい 01 僕はあの車がほしい

に対して、それぞれ次のような「－くなる」のついて文が可能なので、「つめたい 02」「おおい 01」「きびしい 01」「ほしい 01」には、「－くなる」が記入してある。

水が冷たくなった
東京に空地が多くなった
あの先生は生徒に厳しくなった
僕はあの車がほしくなった

→ 記入例 －くなる

新しく付け加わる「NPガ」が、動作主、原因以外のものについては、「その他」の欄に例文を記入した。

記入例 あかい 01 彼の顔は赤い → 彼は顔を赤くした。

 おかしい 05 胃がおかしい → 彼は胃をおかしくした。……

また、次の例のように統語的、意味的規則性は見られないが、形態的には「-くする」をもつものも同様に「その他」の欄に例文を記入した。

記入例 きびしい 01 → 先生が学生にきびしくするのは、当然だ。

cf. *高校先生が数学の先生を基部しくした

なお、このような規則性のみ見られない「-くなる」「-くする」のついてもものは、「慣用表現」の欄に記入されている場合もある。

例 胸／心があつくなる、胸／心をあつくする → 慣用表現へ

2.2.2 動詞

ここでは、上で述べたように〔NP1ガ〕という文型を持つ連用形が、動詞を直接的に修飾する場合（2.1 ①の用法参照）に限定して、その被修飾語となる動詞をいくつか上げて例示した。その際、形容詞は、終止用法で次のような文型を持つものか、

	NP1ガ	属性・感覚・感情
(NP2ガ)	NP1ガ	感覚・感情
(NP2ニ)	NP1ガ	感覚・感情

終止用法がない場合には、「えらい 03」のように、連体用法を持つものを記述の対象とした。（2.3 「記載例」参照）

動詞は、単純なもの、複合的なものを問わず、自然でよく使われそうなものを選ぶようにこころがけた。必要な場合は、名詞なども（ ）内に書き入れて意味が明確になるようにした。

記入例

ひろい 02 → 知られている、…… (D)

うすい 03 → (霧／もやが) かかる (D)

また、被修飾語となる動詞は、意味的な修飾関係で大まかに分類して、R（結果）、M（様態）、D（程度、量など）、A（心的態度）の記号に付して記述した。

記入例

あかい 01 → 変る, 染める, 塗る, 色づく (R)

いさましい 01 → 戦う, 駆ける, 戦死する, 散る, 行動する (M)

つめたい 05 → あしらう, つき放す, あたる (M) ; (心が) 冷えきっている (R)

ひどい 02 → 疲れる, 叱る, 気にする, … (D)

ありがたい 01 → 頂戴する, 受ける, 頂く (A)

なお、ここでは形容詞の連用用法だけを記述の対象としているので、(a)形態的には「-く」で終わっていても、本来の形容詞と意味の異なるもの、(b)修飾の関係が動詞とではなく文全体との間に見られるものなどは除いてある。

- (a) 私は、よくあの店に行きます
- (b) めずらしく、彼も来た

2.2.3 その他

ここには、上記「-くなる、-くする1、-くする2」「動詞」の欄の例外的事項、補足事項にあたるものを記入した。具体的には、形容詞・形容動詞が被修飾語となるものは、この欄に記入してある。

記入例

すばらしい 01 → 美しい, 大きい, 広い, 速い, きれいだ (D)

ひどい 02 → 暑い, 重い, 痛い, 嫌だ (D)

既に、2.2.1の②「-くする1、-くする2」で述べたように、形態的には「-くする」であるが、規則的な対応関係にないものは、この欄に例文の形で記入した。

記入例

きびしい 01 → 先生が学生にきびしくするのは、当然だ。

cf. *校長先生が数学の先生を学生にきびしくした

したい 01 → あの二人は昔から親しくしている。

cf. *僕は、あの二人を昔から親しくした

2.3 記載例

あかい 01

統 語 情 報 2			
	連 用 用 法		－くなる，－くなる 1
		動 詞	変わる，染める，塗る，色づく (R)
他	彼は顔を赤くした。		

えらい 03 (終止用法なし)

統 語 情 報 2			
	連 用 用 法		/
		動 詞	こたえる，できる，冷える，損ねる (D)
他	大きい，早い，熱心だ，急だ (D)		

VII 慣用表現

0. 印刷形式

慣 用 表 現	
------------------	--

1. 慣用表現について

他の語句と結びついて固定的に用いられることが定まっているひとまとまりの語句があれば、それ全体を「慣用表現」として記述した。この欄に記載したのは以下のようなものである。

- a. 慣用句
- b. ことわざ
- c. 常套句

a. 慣用句

この慣用表現の欄に記載した慣用句は、「形容詞慣用句」および「形容詞を含む慣用句」などである。[呼称は西尾（1985）による。]

形容詞慣用句の例： 敷居が高い 風当たりが強い 鼻の下が長い
形容詞を含む慣用句の例： 臭い飯を食う 枕を高くして眠る

「慣用句」という語の定義は、下記のような一般的と考えられるものに従った。

1. 構成要素個々の意味の合成が全体の意味にならない。よって辞書に登録されている各語彙の意味から、句全体の意味を解釈することができない。

例 根も葉もない ≠ (木の) 根も葉も存在しない
= 根拠のない

2. 構成要素どうしの結合が密接である。よって以下のような特徴を示すことがある。

- ① 同義語などによる構成要素の取り換えがきかない。

例 腹が黒い → *おなかが黒い

- ② 修飾語は原則として句全体に係る。したがって慣用句中に修飾語が入りにくかったり、部分を修飾しにくかったりする。

例 手が早い → *手が女に早い
敷居が高い → *長い敷居が高い

3. その他以下のような特徴も指摘できよう。

- ① 古語や古い語形など、今日では単独で用いられないものが含まれていることがある。

例 一銭もない 狭き門

- ② 通常の表現に比べ、構成要素それぞれの統語上の振舞いに様々な点で制限がある場合が多い。(語順の入れ替えができない、肯定形を持たない、など)

b. ことわざ

教訓・風刺など、まとまった思想を盛り込んだ、古くから言い伝えられてきた短句で、形容詞を含むものを「慣用表現」の欄に記載した。(ことわざ、格言、故事成語、言い習わしなど)

例 遠くの親類より近くの他人
鉄は熱いうちに打て
船頭多くして船山に登る
長いものには巻かれる

c. 常套句

全体の意味を構成要素個々の意味の合成から得ることは可能だが、構成要素どうしの結合が強く、固定的に用いられる表現で、形容詞を含むものを「慣用表現」の欄に記載した。(常套句、決まりきった言い回し、紋切り型の表現など)

例 当らずといえども遠からず
どこに出してもはずかしくない
古き良き時代
頭が割れるように痛い

◎なお「慣用表現」の形態の決定と、一般性の度合いを確かめるために以下の辞書等を参照した。

金田一・池田編(1988)	『学研国語大辞典 第二版』	学習研究社
白石大二編(1977)	『国語慣用句大辞典』	東京堂出版
首藤 公昭(1989)	『日本語における固定的複合表現』	
	昭和 63 年度科学研究費特定研究 (I)	
秦 恒平(1984)	『からだ言葉の本』	筑摩書房
林 大監修(1986)	『国語大辞典 言泉』	小学館
松村 顕編(1988)	『大辞林』	三省堂
宮路 裕編(1982)	『慣用句の意味と用法』	明治書院

◎参考文献

慣用句研究に関してまず拠るべきは高木(1974)である。その他、以下の諸論が参考になろう。森田(1966a, b)、坂本(1982)、宮地(1985)、また『日本語学』4巻1号(宮地他編 1985)所収の各論考。

2. 「慣用表現」の記載方法

日常よく使われるものを、この「慣用表現」の欄に記載した。記載方法は以下の原則に従った。欄に書ききれなかった場合（「ない」「よい」「わるい」）は、代表例のみを記載した。

- ① 意味が最も近いと考えられる語義の「慣用表現」の欄に記載した。

当該「慣用表現」に含まれる形容詞の意味がどの語義に最も近いのか、その判定が難しい場合も、そのつど検討して記入した。したがって、一つの慣用表現が二つの語義にまたがって登録されることはない。

例 面の皮が厚い → 「板、紙、布、……」が厚い、の語義の「慣用表現」の欄に

- ② なるべく広く取るように心がけた。よって理論的には「慣用句」と認められないものでも「慣用表現」とした場合がある。

例 台所が苦しい ← 「一家の台所を預かる。わが家の台所は火の車だ。」のように、「台所」に「家計のやりくりや経済状態」という意味があると認められるので、理論的には「慣用句」としなくてもよい。
この場合、「台所」は終止用法「名詞句」の欄から外した。

- ③ 同じ語根を含むものも取るように心がけた。

例 若気の至り／過ち → 「若い」に
目の前が真っ暗になる → 「暗い」に

ただし、動詞は形容詞の表現が可能なもののみ併記した。

例 財布のひもが緩む → 財布のひもが緩い、もなんとか可能なので記載
たがが緩む → たがが緩い、とは言わないので記載しない

- ④ 複合語と考えたものは、形態情報の「複合語」の欄に回すことにした。その際、アクセントなど音の変化の有無は判断の材料とした。たとえば連濁を起しているものは一語とみなし、すべて「複合語」の欄に記載したごとくである。

例 腹黒い（はらぐろい） → 複合語へ
腹が黒い → 慣用表現

例 手っ取り早い（てっとりばやい） → 複合語へ
一足早い → 慣用表現

- ⑤ 同等の資格を持つ語の繰り返しには、便宜上複合語として扱ったものがある。

例 痛し痒し めでたしめでたし よしあし
多かれ少なかれ 遅かれ早かれ よかれあしかれ → 複合語へ

- ⑤ 多少でも活用がある場合には、終止形で代表させた。

例 一足遅い ← 「一足遅かった。一足遅く～する」の形の方が一般的

- ⑦ 自他の対応や省略形など、異なった携帯はすべて記載するよう心がけた。その場合個々の表現は／で区切って記載した。

例 口が酸っぱくなるほど／口を酸っぱくして／口酸っぱく言う／注意する／…
こと／話／その場／…が丸くおさまる／を丸くおさめる

- ⑧ 助詞の交替がある場合には／で示した。

例 耳が／に痛い

ただし、「形容詞慣用句」が連体用法で用いられる場合の「が」と「の」の交替（「気が長い話」と「気の長い話」のようなもの）については一々明記していない。
〔VI. 連体用法 注4 参照〕

- ⑨ 同義語や類義語などによって構成要素の入れ替えが可能な場合には、／で区切って示した。

例 けつ／しりの穴が小さい
りんごのように赤いほほ／ほっぺ／ほっぺた

- ⑩ 構成要素の特定が困難な場合は、「x / y / z / …」で代表的な例を挙げた。しかし、構成要素が受けるある種の制限については注記していない。

例 若かりし時／日／頃／…
ことば／人種／宗教／…の壁が厚い

- ⑪ 省略可能なものは（ ）に入れて示した。

例 目（の玉）の黒いうち
格好（が）悪い

- ⑫ 構成要素を略記する場合は、～を用いて示した。

例 ～もへったくれもない

- ⑬ それぞれの慣用句の意味は原則として記入していない。ただし、通常の用法との区別を明示する必要があると考えた場合、複数の意味で用いられる場合、などには、（＝ ）で意味を記すか、かわりやすい例文を（例. ）で示すかした。

例 冷たくなる（＝死ぬ） ← 「温度が下がる」「態度がよそよそしくなる」と区別
頭が痛い（例. 娘の進学問題で頭が痛い） ← 「頭痛」と区別
足が早い（＝1 走るのが速い 2 腐りやすい 3 商品の売れ行きがいい）

- ⑭ その慣用句に関して注記すべきことがある場合は、〔 〕で記した。出典の記載はこれに当たる。書名は「 」で示した。

例 良薬は口に苦し〔「孔子家語」〕

- ⑮ 表記は最も一般的と考えられるものに従った。ただし、漢字表記に「ゆれ」があり決定しがたい場合は、かな書きにした。また、固定した表記がある場合にはこの限りではない。

表記に典拠がある例： 永すぎた春 [三島由紀夫の小説]

- ⑯ 漢字の読みを振る場合は、当該漢字の直後に「()」に入れて示した。

例 故きを温(たず)ねて新しきを知る [「論語」為政]

- ⑰ 形容詞を二つ以上含むものはそれぞれの「見出し語」に重複して記載した。

例 帯に短したすきに長し → 「短い」「長い」に

- ⑱ 「ことわざ」は、慣用句と違い、異なった形態を持つものでも一つしか記載していない。

例 逃した魚は大きい → 「のがした」か「にがした」か、それとも「逃げられた魚」なのか「釣り落した魚」なのかは問題とせず一つを以て代表させた。

- ⑲ 身体語彙について：

「気」を含むものはすべて慣用表現として扱った。ただし、「一い気がする」は慣用表現とはしなかった。「～の働き、～の機能」などを補っても、意味がそれほど大きく変わることなく、なんとか言えるものは通常表現とみなした。

例 頭が鈍い 頭が悪い → 終止用法「名詞句」の欄へ
頭が重い 頭がかたい 頭が古い → 慣用表現

注)

「慣用表現」としての記載を見合わせたものの例をここにまとめておく。これらも必要があれば「備考」の欄に注記するなどした。

- ① 一い思いをする／一い思いをさせる
痛い 恐ろしい 悲しい 悔しい 苦しい 恐い 寂しい 寒い つまらない
辛い 苦い 恥ずかしい みっともない 煩わしい など。

かなりの数の形容詞がつくことから、「慣用表現」とは認めなかった。よく使われるものについては、連体用法の「制限用法2」の欄に記載した。

- ② 一い+形式名詞
ウチ (に, など)
近いうち 早いうち 熱いうち あたたかいうち 明るいうち 暗いうち

コト (に, になる, やる, を言う, など)
ありがたいこと うまいこと うるさいこと えらいこと 惜しいこと
細かいこと 小さいこと つまらないこと とんでもないこと 長いこと
憎いこと まずいこと やかましいこと 悪いこと

コロ

小さいころ (=子供のころ)

トコロ

危ないところ (お) 忙しいところ えらいところ 惜しいところ 遠いところ
はやいところ まずいところ

ナカ

(お) 忙しいなか

モノ (=物, 者), モノ (ン) だ, など

おいしいもの まずいもの 冷たいもの つまらないもの うまいもの
あやしいもの

この他「点, とおり, はず, まま, わけ」など、形式名詞を含むものについては扱
わなかった。

- ③ 「慣用表現」とはしなかった表現で、記載が必要と考えた場合には、「備考」の欄
に「<慣>「……」のように言う」と記載した。

例 くわしい 01

<慣>「詳しくは～」のように言う (例. 詳しくは～まで、詳しくは～を参
照)。

その他、当該の形容詞と直接には関係のない表現でも「備考」の欄に記載したもの
がある。

例 おそろしい 01

<慣>「習慣と (いうの) はおそろしいもので～」のように言う。

← 人間というのは悲しいもので、時が経つのは早いもので、などの
ように、ある程度自由に使える表現である。

3. 記載例

つよい 05

慣 用 表 現	我が強い。気が強い。芯が強い。心臓が強い。鼻っばし／鼻っばしらが強い。
------------------	-------------------------------------

VIII 備考

0. 印刷形式

<1 ページ目>

備考 1	
---------	--

<2 ページ目以降>

備考 2	
------	--

1. 備考 1

形態情報、意味情報、統語情報の連体用法および連用用法などに関して、注記すべき事項があれば、次のような略号とともに記入した。

- 例
- <形> → 形態情報に関する事項
 - <意> → 意味情報に関する事項
 - <統> → 統語情報 2 (連体用法・連用用法) に関する事項
 - <慣> → 慣用表現とはしなかった、その他の言い回しや表現などの事項
 - <参> → 見出し語に関し、本辞書で扱うことのできなかった用法などの参考事項 (格助詞以外の助詞を伴って文をかたちづくる場合など)

2. 記載例

しろい 01

備考 1	<形>「しろむ」ではなく「しらむ」となる。<意>同時に、汚れていない、あるいは何も書かれていないということを意味することもある。<慣>「かしらに白を頂く」「髪に白いものがまじる」などは白髪の意味。
---------	--

めぼしい 01

備考 1	<統>連体用法のみ。
---------	------------

くやしい 01

備考 1	<参> 「～してくやしい」のように言う（例．負けてくやしい、ばかにされてくやしい）。
---------	--

3. 備考2

統語情報1（終止用法）に関して、注記すべき事項があれば、該当部分の区分番号とともに記入した。

4. 記載例

あわただしい 01

備考2	◇02 NP1がACT/PITのとき、NP1ガはNP1デと交替可。
-----	-----------------------------------

よい 09

備考2	◇02 「明日は私は都合がいい」のように3項の文型も可能。
-----	-------------------------------

IX 下位区分一覧

当辞書の見出し語とその下位区分を一覧に示す。

凡例

〈見出し語〉				
うまい	語義数	03		
〈語義番号〉	〈意味記述〉	〈文型〉	〈述語素〉	〈文例〉
01	(私は) 味がいいと感じる	(NPニ) NP1 が*	SN	僕にはあの店のラーメンが うまかった
02	飲食物などの味がよい	NP1 が*	01	日本の米は うまい
		NP2 が* NP1 が*	PA	焼き魚は 目の下が うまい
		NP2 が* NP1 が*	NO	あの店は ラーメンが うまい
03	人や動物などが何かをすることが上手である	NP1 が*	01	彼の歌は うまい
		NP2 が* NP1 が*	BE	彼は 歌が うまい

=====
 あおい 語義数 0 6

01 色が青か青に近い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR PA	空の色が 青い 海は 色が 青い 彼は 瞳の色が 青い 彼は 瞳が 青い
02 色が緑か緑に近い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	今 信号の色が 青い この木の実は 色が 青い この木は 実の色が 青い この木は 実が 青い
03 植物の実が未熟である	NP1 が	01	このバナナは まだ 青い
04 考えなどが未熟である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の言うことは 青い 彼は 考え方が 青い
05 光や霧などが暗く、冷たい 感じに見える	NP1 が	01	月の光が 青い
06 皮膚が異常に白っぽく、あ るいは黒っぽく見える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	彼の顔は 青い 彼は 顔が 青い

=====
 あかい 語義数 0 1

01 色が赤または赤に近い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	顔の色が 赤い 彼の顔は 色が 赤い 彼は 顔の色が 赤い 彼は 顔が 赤い
---------------	--	----------------------	---

=====
 あかるい 語義数 0 8

01 十分な量の光によって満た されている	NP1 が NP2 が NP1 が	01 DM	この部屋は 明るい 夏は 外が 明るい
02 発する光の量が十分である	NP1 が	01	春の日差しが 明るい
03 色の明度が高く、鮮やかに 見える	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR	この車のシートの色は 明るい この車のシートは 色が 明るい この車は シートの色が 明るい
04 声や音が比較的高く、軽や かに聞こえる	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR	あの教会の鐘の音は 明るい あの教会の鐘は 音が 明るい あの教会は 鐘の音が 明るい
05 性格などが陽気で快活であ る	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH BE	彼の性格は 明るい 彼は 性格が 明るい 彼は 態度が 明るい
06 深刻でなく、楽しい快い感 じを与える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	彼の小説のテーマは いつも 明 るい 彼の小説は テーマが いつも 明るい

07	あまり問題がなく、安心して きる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	あの時代は 明るかった この子供たちは 将来が 明るい
08	人が何かについて詳しい知 識を持っている	NP1 が NP二	RA	田中さんは 国際情勢に 明るい

あさい 語義数 06

01	上方の入口や表面から底ま での距離が短い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	この湖の水深は 比較的 浅い この湖は 水深が 比較的 浅い この湖は 中心部の水深が 浅い この湖は 中心部が 比較的 浅い
02	内部にあって表面に近いと ころに位置する	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR EL	この地下道の位置は 浅い この地下道は 位置が 浅い 昨日の地震は 震源の位置が 浅 かった 昨日の地震は 震源が 浅かった
03	入口から奥までの距離が短 い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	この押入れの奥行きは ずいぶん 浅い この押入れは 奥行きが 浅い 最近の住宅は 押入れの奥行きが 浅い 最近の住宅は 押入れが 浅い
04	十分ではない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 二/が NP1 が NP2 が NP二 NP1 が	01 BE NO NT/SC NT,N0	ストレスを持つ人の眠りは 浅い ストレスを持つ人は 眠りが 浅 い 彼は 妻の仕事への理解が 浅か った 妻の仕事には 夫の理解が 浅か った 彼は 現場の仕事に 経験が 浅 い
05	時間がまだあまりたってい ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	この学校の歴史は まだ 浅い この学校は 歴史が 浅い
06	淡い色調の			彼女のセーターは 浅い緑だった

あたたかい 語義数 07

01	(私は) 気温が適度に高い と感じる	(NP1 が)	01	私は 暖かい
02	気温が適度に高い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 DM	南国の春は とても 暖かい 今日は 朝が 暖かくて、 起き やすかった
03	気温が適度に高いと感じさ せる	NP1 が	01	南風が 暖かい
04	(私は) 物の温度が適度に 高いと感じる	(NP二) NP1 が	SN	私には ポケットの中のカイロが 温かった

	(NP2 が) NP1 が	BP	私は あんかで 足元が 温かい
05 物の温度が適度に高い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	ごはんが 温かい 君は 手が 温かい
06 体をおおうことによって適度に高い温度を感じさせる	NP1 が	01	このセーターは とても 温かい
07 やさしさや思いやりがある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼の心は 温かい 彼は 心が 温かい

=====
あたらしい 語義数 0 4

01 できてから少ししか時間がたっていない	NP1 が	01	この靴は まだ 新しい
02 まだ使われていない	NP1 が	01	このコップは 新しいですか？
03 今までのものとは別のものである			新しい制度を 導入する
04 今までにない特色を持っている	NP1 が	01	彼の視点は 新しい

=====
あつい 語義数 0 7

01 (私は) 気温が高すぎると感じる	(NP1 が)	01	私は 暑い
02 気温がかなり高い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 DM	夏は 暑い 夏は 昼下がりが 特に 暑い
03 気温がかなり高いと感じさせる	NP1 が	01	夏の日差しは 暑い
04 (私は) 直接体に触れる物や体の一部の温度が高すぎると感じる	(NP二) NP1 が (NP2 が) NP1 が	SN BP	私には このスープが 熱い 私は 日焼けして 顔が 熱い
05 物の温度がかなり高い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	このお茶は 熱い 君は 手が 熱いよ
06 何かに夢中になって、気持ちが高ぶっている	NP1 が	01	今、 男たちの視線が 熱い
07 互いの恋愛感情が高まっている	NP1 が	01, RE	あの二人は 熱い

=====
あつい 語義数 0 4

01 板や皮膜などの表と裏のへだたりが大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA EL	この板は かなり 厚い あそこのラーメンは チャーシューが 厚い この豚は 皮下脂肪が 厚い
------------------------	-------------------------------------	----------------	--

02	信仰心などを十分に持ち合 わせている	NP1 が NP2 が NP1 ニ/が	01 SO/NO	彼の信仰は あつい 彼は キリスト教への信仰が あ つい
03	信頼などを十分に受けてい る	NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 が NP ニ/が NP1 が	01 NT/SC GR/NF,NO	彼への信頼が 厚い あの教授は 人望が 厚い その候補者は 国民に 信頼が 厚い
04	十分な心からの			厚いもてなしを 受けた

=====
あぶない 語義数 0 4

01	危険を招く可能性がある	NP1 が	01	今、あの国へ行くのは 危ない
02	悪い結果に終る可能性が高 い	NP1 が	01	もう少し遅れたら、その人の生 命は 危なかった
03	実現しない可能性が高い	NP1 が	01	このままでは 来年度の進級は 危ない
04	情報が信用できない	NP1 が	01	その話は どうも 危ない

=====
あまい 語義数 1 0

01	(私は)味に甘味が多いと 感じる	(NPニ) NP1 が (NPが) NP1 が	SN BP	私には この人口甘味料は 甘い 私は 口の中が 甘いので 辛い ものが食べたい
02	飲食物などの味に甘味が多 い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	砂糖は 甘い このパイは 皮が 甘い
03	(私は)味に塩分や辛味が 少ないと感じる	(NPニ) NP1 が	SN	私には この塩鮭の味は 甘い
04	飲食物などに塩分や辛味が 少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR NO	子供用カレーの味は 甘い この料理は 味つけが 甘い あの店は 味噌汁の味が 甘い あの店は 味噌汁が 甘い
05	香りや匂いがけだるくやわ らかく、人をひきつける	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	パラの香りは 甘い そのクッキーは 匂いが とても 甘い
06	やわらかく、人をひきつけ るような			甘いことばに ついだまされた
07	ピントやねじなどが十分に 機能していない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	このドアのねじが 甘い このドアは ねじが 甘い
08	判断や見通しなどが安易で 、慎重さに欠ける	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の見通しが 甘い 彼は 見通しが 甘い
09	採点や規制などがきびしさに 欠ける	NP1 が NP1 が NPニ	01 AT	あの教授の女生徒に対する採点は 甘い あの教授は 女生徒に 甘い

	NP1 が NPニ	SO	我が校の合格の基準は 帰国子女には 甘い
	NP2 が NP1 が	BE	当局は 排気ガスに対する規制が 甘い
	NP2 が NP1 が	NO	我が校は 帰国子女に対する合格の基準が 甘い
	NP2 が NPニ NP1 が	NT, BE	あの教授は 女生徒には 採点が 甘い
	NP2 が NPニ NP1 が	NT, NO	我が校は 帰国子女には 合格の基準が 甘い
10 十分な効果をあげていない	NP1 が	01	敵の守りは 甘い
	NP2 が NP1 が	BE	チャンピオンは 右のガードが 甘い

=====
あやしい 語義数 0 8

01 様子が普通と変わっていて警戒心をおこさせる	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	あの男は拳動が あやしい あの男は 拳動が あやしい この町は どうも 様子が あやしい
02 悪い方向に向かう可能性が高い	NP1 が	01	空模様が あやしい
03 実現する可能性が低い	NP1 が	01	彼の当選は あやしい
04 技術や知識が不十分で信用できない	NP1 が	01	彼のドイツ語は あやしい
05 本当ではない可能性が高い	NP1 が	01	このニュースは どうも あやしい
06 犯人もしくは原因である疑いがある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 SC	あんたが 一番 あやしい その病気は このウイルスが あやしい
07 秘密の関係がありそうである	NP1 が	01, RE	あの二人は あやしい
08 人に説明しがたい不安を与えるような			あやしい魅力に 惑わされる

=====
あらい 語義数 0 6

01 目・粒や模様などのひとつひとつが大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV FC TR EL	このセーターの編み目は 粗い このやすりは 目が 粗い この洗剤は 粒子が 粗い このセーターは 編み目が 粗い このセーターは 模様が 粗い
02 表面がざらざらして感触がなめらかでない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	この布の肌ざわりは 粗い この布は 肌ざわりが 粗い
03 大まかであまり細かいことまで配慮しない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の仕事は 粗い 彼は 仕事が 粗い

	NP2 が NP1 が	EL	この計画は 立て方が 粗い
04 乱暴で気配りやていねいさに欠ける	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の言葉づかいは 荒い 彼は 言葉づかいが 荒い
05 性格などが粗野で激しい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼の気性は 荒い 彼は 気性が 荒い
06 波などの勢いが激しい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	波が 荒い 冬の日本海は 波が 荒い

=====
ありがたい 語義数 0 3

01 (私は)人に感謝したくなるような気持ちである	(NP2 が) NP1 が	FO	私は あの時の君の心づかいが ありがたかった
02 (私は)尊く、もったいないという気持ちが起きる	(NP2 が) NP1 が	FO	私は 住職のお説教が ありがたかった
03 人に、尊くもったいないという気持ちを起こさせる	NP1 が	01	住職のお説教は ありがたい

=====
あわただしい 語義数 0 2

01 やることが多く、時間に追われて落ち着かない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 DM	今回の訪米は 非常に 慌しかった アメ横は 年の瀬が 慌しい
02 人の動きが活発である	NP1 が	01	政界の動きが 慌しい

=====
いけない 語義数 0 3

01 とりかえしのつかないくらい悪い状態である	NP1 が	01	この卵焼きは もう いけない
02 人の性格や行動が好ましくない。/困った事態について責任がある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 SC	あの子は いけない子だ その件は 私が いけなかった
03 容認できることではない	NP1 が	01	そういういたずらは いけない

=====
いさましい 語義数 0 2

01 人が危険や困難を恐れない	NP1 が	01	あの兵士は 勇ましい
02 音や字が大きく威勢がいいという感じを与える	NP1 が	01	この行進曲は 勇ましい

=====
いそがしい 語義数 0 2

01 用事に追われて、ほかのことをする暇がない	NP1 が NP2 が NP1 ニ/が NP2 が NP1 が	01 AS/BE DM	彼は 忙しい 彼は 仕事が 忙しい 観光シーズンは 民宿は 忙しい
-------------------------	---------------------------------------	-------------------	---

	NP2 が NP1 が NP二	DM,AS	年末は 彼は 祭りの準備に 忙しい
02 落ち着きがなく、せかせかしている			あいつは 忙しい奴だ

=====
 いたい 語義数 0 2

01 (私は)体の一部に苦痛を感じる	(NP2 が) NP1 が	BP	私が 足が 痛い
02 (私は)ひどい打撃・損害であると思う	(NP二) NP1 が	RC	私には 先取点を挙げられなかったのが 痛い

=====
 いちじるしい 語義数 0 1

01 程度が目立って大きい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO,RE	技術の進歩が 著しい A国とB国は 生活水準の格差が 著しい
	NP2 が NP1 が	EL	彼は 進境が 著しい

=====
 うすい 語義数 1 1

01 板や皮膜などの表と裏の隔たりが少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA EL	この板は 薄い 彼は 唇が 薄い やせている人は 皮下脂肪が 薄い
02 髪の毛などがまばらで量が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	その人の髪は 薄い その人は 髪が 薄い
03 気体の濃度が低い	NP1 が	01	山頂付近の空気は 薄い
04 溶液の濃度が低い	NP1 が	01	この水溶液は 薄い
05 味の刺激が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR	この味噌汁の味は 薄い この味噌汁は 味が 薄い この店は 料理の味が 薄い
06 色や字などがあまり目立たない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC EL	このインクの色は 薄い このインクは 色が 薄い このコピーは 写りが 薄い
07 程度が小である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2二/が NP1 が NP2 が NP二 NP1 が	01 NO NT/SC NT,NO	若者の政治問題への関心は 薄い 彼は 政治問題への関心が 薄い 政治は 若者の関心が 薄い 彼は 政治問題に 関心が 薄い
08 関係などが密接でない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR NO,RE	今回の事件とあの事件の関係は 薄い あの事件は 今回の事件と 関係が 薄い 今回の事件とあの事件は つながりが 薄い

09	友情や信仰心などを十分に 持ち合わせていない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 SO/NO	その男の信仰心は 薄い 太郎は 信仰心が 薄い
10	一定の傾向が弱い	NP1 が NP2 ニ/が NP1 が	01 NL1/NO	この記念行事の軍事色は 薄い その記念行事は 軍事色が 薄い
11	もうけが少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	この商売の儲けは 薄い この商売は 儲けが 薄い

=====
うつくしい 語義数 0 3

01	外見や音色などがすばらし く、感動的である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA	バラの花は 美しい 彼女は 声が 美しい 彼女は 足が 美しい
02	外見がきれいに整っていて 、気持ちがよい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	この製品の仕上がりは 美しい 彼女は 着こなしが 美しい この製品は 仕上がり が 美しい
03	心情、行為が純粋で悪意が ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼女の心は とても 美しい 彼女は 心が とても 美しい

=====
うまい 語義数 0 3

01	(私は)味がいいと感じる	(NPニ) NP1 が	SN	俺には あの店のラーメンが う まかった
02	飲食物などの味がよい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA NO	日本の米は うまい 焼き魚は 目の下が うまい あの店は ラーメンが うまい
03	人や動物などが何かをする ことが上手である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の歌は うまい 彼は 歌が うまい

=====
うらやましい 語義数 0 1

01	(私は)自分もそうありた いという気持ちになる	(NP2 が) NP1 が	FO	私は 標準語を話せる人が うら やましかった
----	----------------------------	---------------	----	---------------------------

=====
うるさい 語義数 0 6

01	(私は)音や声などが大き く耳ざわりだと感じる	(NPニ) NP1 が	SN	私には プリンターの音が うる さかった
02	音や声などが大きく耳ざわ りである	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV DM	プリンターの音が うるさい この犬は 鳴き声が うるさい この部屋は プリンターの音が うるさい
03	いろいろと細かい文句や注 文をつけて厳しい	NP1 が NPニ	RA	僕は 紅茶に うるさい
04	注文や要求などが、いやに なるほど細かくしつこい	NP1 が	01	親の注文が あれこれと うるさ いので、 おもしろくない

		NP2 が NP1 が	BE	あの人は 注文が うるさい
05	(私は)邪魔あるいは面倒で、できれば避けたいと思う	(NP二) NP1 が	RC	私には 蚊が うるさくて、眠れなかった
06	議論が活発に広く行われていて、わずらわしい感じを与える	NP1 が	01	消費税についての議論が うるさい

=====

うれしい 語義数 0 1

01	(私は)喜びを感じて、ここにこしたくなるような気持ちである	(NP1 が)	01	俺は 何だか非常に うれしかった
		(NP2 が) NP1 が	FO	私は 母に会えたことが うれしい

=====

えらい 語義数 0 4

01	行いや人格などが賞賛に値する	NP1 が	01	あの人は 偉い
02	社会的地位や身分が高い	NP1 が	01	校長先生は 学校で いちばん偉い
03	程度がはなはだしく普通でない			えらい騒ぎに なった
04	人をひどく困惑させるような			えらいことに なった

=====

おいしい 語義数 0 2

01	(私は)味がいいと感じる	(NP二) NP1 が	SN	私には あの店のラーメンは おいしい
02	飲食物などの味がよい	NP1 が	01	旬のものは おいしい
		NP2 が NP1 が	PA	焼き魚は 目の下が おいしい
		NP2 が NP1 が	NO	あの店は ラーメンが おいしい

=====

おおい 語義数 0 3

01	数えられる物の数がたくさんある	NP1 が	01	この学校の生徒の数は 多い
		NP2 が NP1 が	PV	この学校の生徒は 数が 多い
		NP2 が NP1 が	TR	この学校は 生徒の数が 多い
		NP2二/が NP1 が	LL1/LP	日本には 火山が 多い
		NP2二/が NP1 が	NL1/NO	この学校は 生徒が 多い
		NP2 が NP1 が	BE	彼は 遅刻が 多い
		NP二 NP1 が	NL1	芸能界には 彼の知人が 多い
		NP2二/が NP1 が	NT/SC	僕には 得意先からの連絡が 多かった
		NP 加 NP1 が	NF	得意先からは 彼への連絡が 多い
		NP2 が NP二 NP1 が	NL1, NO	彼は 芸能界に 知人が 多い

02 数えられない物の量がたくさんある	NP1 が	01	日本の雨量は 多い
	NP2 が NP1 が	PV	この店のラーメンは 量が 多い
	NP2 が NP1 が	TR	日本は 雨量が 多い
	NP2 ニ/が NP1 が	LL1/LP	この街は 緑が 多い
	NP2 ニ/が NP1 が	NL1/NO	この湖には 水が 多い
03 具体物でないもの（考えや性質や働きや変化など）がたくさんある	NP1 が	01	その計画を実施するときの問題は 非常に 多い
	NP2 ニ/が NP1 が	NL1/NO	僕は 将来に対する不安が 多い
	NP2 ニ/が NP1 が	NT/SC	その計画は P T A からの反対が 多い
	NP ニ/が NP1 が	GR/NF	主婦層には 消費税への反対が 多い
	NP2 が NP ニ NP1 が NP2 が NP ニ/が NP1 が	NO,NT NO,GR/NF	僕は 将来に 不安が 多い その計画は P T A に 反対の声が 多い

=====
おおきい 語義数 07

01 空間を占める量が多い	NP1 が	01	この学校のグラウンドの面積は 大きい
	NP2 が NP1 が	PV	この学校のグラウンドは 面積が 大きい
	NP2 が NP1 が	FC	彼は 背が 大きい
	NP2 が NP1 が	TR	この学校は グラウンドの面積が 大きい
	NP2 が NP1 が	PA	彼は 手が 大きい
02 衣服などがゆるくて合わない	NP1 が	01	この靴は 大きくて、 すぐ脱げてしまう
03 年齢が比較的上の方である	NP1 が	01	あの子は もう 大きい
	NP2 が NP1 が	NO	あの家は 末の子も もう 大きい
04 音の量が多い	NP1 が	01	ラジオの音が 大きい
	NP2 が NP1 が	FC	その男は 声が 大きい
05 数量的な程度が大である	NP1 が	01	支払った額は 大きい
	NP2 が NP1 が	FC	そのトラックは 重量が 大きい
	NP2 が NP1 が	TR	このプロジェクトは 予算の規模が 大きい
06 程度がいちじるしい	NP1 が	01	彼の夢は 大きかった
	NP2 が NP1 が	NO	社長は 責任が 大きい
	NP2 ニ/が NP1 が	NL1/NO,RE	会社の回答と組合の要求額は 差が 大きかった
	NP2 ニ/が NP1 が	NT/SC	僕は 母からの影響が 大きい
	NP2 が NP ニ NP1 が	NT,NO	あの事故は 会社に ダメージが 大きかった
07 重大な影響を与える	NP2 が NP ニ NP1 が	RP,NO,RE	両社は 給料に 差が 大きい
	NP2 が NP1 が	SC	子供が非行に走るのは 家庭環境が 一番 大きい

=====

おかしい 語義数 0 6

01	(私は)笑いたくなるような滑稽さを感じる	(NP二) NP1 が	RC	私には そのコントが とてもおかしかった
02	人に、笑いたくなるような滑稽さを感じさせる	NP1 が	01	彼らのコントは おかしい
03	普通と違っていて好ましくない	NP1 が	01	そんな格好は おかしいよ
04	正当な理由がなく、不自然である	NP1 が	01	輸入品の値段が下がらないのはおかしい
05	正常な状態ではない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	バッティングの調子が おかしい このエンジンは 調子が おかしい
06	人間関係が普通でない	NP1 が	01,RE	あの女の子と運転手は おかしい

おいしい 語義数 0 3

01	(私は)何かを失うのがいやだと感じる	(NP2 が) NP1 が	F0	私は まだ 命が 惜しい
02	(私は)もう少しでうまくいったのに残念だという気持ちである	(NP2 が) NP1 が	F0	昨日の試合は 惜しかった
03	(私は)もったいない、残念だと感じる	(NP2 が) NP1 が	F0	気に入った品なので、人に譲るのは 惜しい

おそい 語義数 0 6

01	移動に要する時間が長い	NP1 が	01	音の速さは 光の速さよりも 遅い
		NP2 が NP1 が	PV	この川の流れるは 速度が 遅い
		NP2 が NP1 が	TR	このピッチャーは カーブのスピードが 遅い
		NP2 が NP1 が	BE	太郎は 走るのが 遅い
02	動作や変化に要する時間が長い	NP1 が	01	このパソコンの処理の速度は 遅い
		NP2 が NP1 が	PV	このパソコンの処理は スピードが 遅い
		NP2 が NP1 が	TR	このパソコンは 処理のスピードが 遅い
		NP2 が NP1 が	BE	このパソコンは 処理が 遅い
03	人が何かに要する時間が長い	NP1 が	01	彼のみこみは 遅い
		NP2 が NP1 が	BE	彼は のみこみが 遅い
04	周期が長い	NP1 が	01	この患者の脈が 遅い
		NP2 が NP1 が	FC	この曲は テンポが 遅い
		NP2 が NP1 が	BE	この老人は 呼吸が 遅い

05	時期がある基準よりも後である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR BE EL	この学校の始業時間は 遅い 冬の日の出は 時刻が 遅い 今年の桜は 開花の時期が 遅い 今年の桜は 開花が 遅い 父の病気は 発見が 遅く、 手遅れだった
----	----------------	---	----------------------------	---

06	もう適切な時期を過ぎている	NP1 が	01	それに気づくのが 遅かった
----	---------------	-------	----	---------------

=====
おそろしい 語義数 0 3

01	(私は)何かに対して恐怖を感じる	(NP2 が) NP1 が	F0	私は 地震が 恐ろしい
02	人に恐怖を感じさせる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	大地震は 恐ろしい 飛行機は 事故が 恐ろしい
03	常識では考えられないほどの			その事故の死傷者は おそろしい数に 上った

=====
おもい 語義数 1 2

01	重量が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	彼の体重は 重い 太郎は 体重が 重い この机は ひき出しの重量が やけに 重い この机は 引き出しの側が やけに 重い
02	(私は)体に負担を感じるほど重量が大きいと感じる	(NP二) NP1 が	SN	私には 背中の荷物が 重かった
03	運動の速度や方向を変えるのに大きな力を必要とする	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	そのピッチャーの球は 重い そのピッチャーは 球が 重い
04	(私は)体の一部がだるくて不快であると感じる	(NP2 が) NP1 が	BP	今日は どうも 体が 重い
05	動きが遅く、なめらかでない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の足取りは 重かった 彼は 足取りが 重かった
06	ことが深刻で克服し難い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	きのうの会議の雰囲気は 重かった この小説は 扱っているテーマが 重い
07	音の調子が暗く安定感がある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	このギターの色は 重い このギターは 音が 重い
08	病気などが深刻で治りにくい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	彼の病気は 重かった その患者は 病気が 重かった
09	負担などが大きくて大変である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO	サラリーマンの税の負担は 重い サラリーマンは 税の負担が 重い

10 責任などが大きい	NP1 が	01	混乱をまねいた行政の責任は 重い
	NP2 が NP1 が	NO	彼は 罪が 重い
	NP2 が NP1 が	EL	殺人は 罪が 重い
11 刑などが厳しい	NP1 が	01	彼の刑は 重い
	NP2 が NP1 が	NO	その犯人は 刑が 重かった
	NP2 が NP1 が	EL	殺人は 刑が 重い
12 使命などが重要である			彼は 重い使命を 担っている

=====
おもしろい 語義数 0 7

01 (私は)興味をひかれ、楽しいと感じる	(NP二) NP1 が	RC	私には この雑誌は おもしろい
02 人の興味をひき、楽しませる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	相撲は おもしろい この雑誌は コラムが おもしろい
03 (私は)ちょっと変わっていて、興味深いと感じる	(NP二) NP1 が	RC	私には その作品の形が おもしろかった
04 ちょっと変わっていて、人の興味をひく	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PC EL	彼の作品は いつも おもしろい 彼の作品は 形が おもしろい その芝居は 設定が おもしろい
05 (私は)笑いたくなるような滑稽さを感じる	(NP二) NP1 が	RC	私には その冗談は おもしろかった
06 滑稽で、笑いをさそう	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA EL	この漫画は おもしろい あの人は 顔が おもしろい あの人は 言うことが おもしろい
07 (私は)不満がなく、気分がいい	(NP2 が) NP1 が	F0	私は 自分だけ怒られるのが おもしろくない

=====
かがやかしい 語義数 0 1

01 賞賛に値するほどすばらしい	NP1 が	01	今回の拳闘部の戦績は 輝かしい
------------------	-------	----	-----------------

=====
かたい 語義数 0 9

01 変形したり、こわれたりしにくい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	ダイヤモンドは 硬い この鉛筆は 芯が 硬い
02 弾力性が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	このベッドは 固い このベッドは スプリングが 固い
03 あまりなめらかに動かない	NP1 が	01	彼の体は 固い

		NP2 が NP1 が	PA	彼は 体が 固い
04	きつくしまっていて、簡単には動かない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	このビンのふたは 固い このピンは ふたが 固い
05	音色に広がりがなく、冷たい感じを与える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	このピアノの音色は 固い このピアノは 音色が 固い
06	自由な、のびのびしたところがない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	彼の演技は 固い 彼は 演技が 固い 彼は 表情が 固い
07	強くしっかりしている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE NO	彼の決意は 堅い 彼は ガードが 堅い あのチームは 団結が 堅い
08	まじめだが、面白味に欠ける	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	彼の話は いつも 堅い この本は 内容が 堅い
09	実現の可能性が高い	NP1 が	01	彼の入賞は 固い

=====
かなしい 語義数 0 2

01	(私は)心が痛んで泣きたくなるような気持ちである	(NP1 が) (NP2 が) NP1 が	01 FO	私は なぜか 悲しかった 私は 友達との距離が 悲しかった
02	人を泣きたくなるような気持ちにさせる	NP1 が	01	別れは 悲しい

=====
かゆい 語義数 0 1

01	(私は)むずむずした、かきたくなるような感じがする	(NP2 が) NP1 が (NP2 が) NP1 が	BP ST	私は 頭が かゆい 私は 足のしもやけが かゆい
----	---------------------------	--------------------------------	----------	-----------------------------

=====
からい 語義数 0 3

01	(私は)味に塩分や辛味が多いと感じる	(NP二) NP1 が	SN	私には この料理の味が 辛い
02	飲食物などの味に辛味が多い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR NO	あの店の味つけは 辛い この料理は 味が 辛い 彼は 料理の味つけが 辛い あの店は 味噌汁が 辛い
03	評価の基準が高く厳しい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE NO	あの先生の点が 辛い あの先生は 採点が 辛い あの教授は 点が 辛い

=====
かるい 語義数 1 3

01	重量が小さい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV	彼の体重は 軽い 彼は 体重が 軽い
----	--------	----------------------	----------	-----------------------

	NP2 が NP1 が	TR	このダンボールは 中身の重量が 軽い
	NP2 が NP1 が	PA	この電話は 受話器が 軽い
02 運動の速度や方向を変える のに大きな力を必要としない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	そのピッチャーの球は 軽い あのピッチャーは 球が 軽い
03 (私は)体の一部が気持ち よく動いて、快いと感じる	(NP2 が) NP1 が	BP	私は 肩が だいぶ 軽くなりました
04 動きが速く、なめらかである	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	彼の足取りは 軽い 彼は 動きが 軽い
05 深く考えたり思い悩んだり しない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼の性格は 軽い 彼は 性格が 軽い
06 事があまり深刻ではない			軽いジョークを とばす
07 音や味などが比較的刺激が 少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV FC	このピアノの音は 軽い このタバコは 味が 軽い このピアノは 音が 軽い
08 病気などがたいしたことは ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	彼の怪我は 軽かった 彼は 症状が 軽い
09 負担や被害などが少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO	彼の税の負担は 軽かった 彼は 税の負担が 軽い
10 責任などがあまりない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO EL	彼の責任は 軽い 彼は 責任が 軽い その仕事は 責任が 軽い
11 刑などがあまり厳しくない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO EL	その犯人の刑は 軽かった 彼は 刑が 軽かった 彼は 処分が 軽かった
12 仕事などがあまり負担にな らない	NP1 が	01	こんな仕事 軽いよ!
13 あまり激しくない/簡単な			軽い運動を した

かわいい

語義数 0 4

01 (私は)人や動物などに愛 情がわき、大切にしたいと 思う	(NP2 が) NP1 が	F0	私は 孫が かわいい
02 外見やしぐさなどがほほえ ましく、愛情を感じさせる	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA BE EL	この人形は とても かわいい 彼女は 声が かわいい 彼女は 顔が かわいい ペンギンは 歩き方が かわいい あの子は 笑顔が かわいい
03 人や行為などが魅力的で愛 情を感じさせる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	彼の素直に何でもやってくれと ころが かわいいね 彼は 素直なところが かわいい

04 大きさが普通よりかなり小さい NP1 が CH あの子は 小学校六年生にしては
ずいぶん かわいい

きいろい 語義数 0 1

01 色が黄か黄に近い NP1 が 01 バナナの皮の色は 黄色い
NP2 が NP1 が PV バナナの皮は 色が 黄色い
NP2 が NP1 が TR バナナは 皮の色が 黄色い
NP2 が NP1 が PA このあたりのイチヨウは もう
葉が 黄色い

きたない 語義数 0 6

01 不潔で、見て不快な感じを NP1 が 01 テーブルクロスの上のしみが 汚い
与える

02 汚れがひどい NP1 が 01 子供の手足は 汚かった
NP2 が NP1 が PA その子は 手足が 汚かった

03 音や色などがさわやかに NP1 が 01 彼の作品の色は 汚い
欠け、濁った感じを与える NP2 が NP1 が FC 彼の作品は 色づかいが 汚い

04 公正でなく、人の道に外れ NP1 が 01 彼のやり方は 汚い
ている NP2 が NP1 が CH 彼は 根性が 汚い
NP2 が NP1 が BE 彼は やり方が 汚い

05 ていねいさに欠け、不快な NP1 が 01 その書類の字は 汚い
感じを与える NP2 が NP1 が BE 彼は 言葉づかいが 汚い
NP2 が NP1 が EL その書類は 字が 汚い

06 みっともないくらい何かに NP1 が NP二 RA 彼は 金に 汚い
執着している

きつい 語義数 0 8

01 設置状態がしっかりしすぎ NP1 が 01 このビンのふたは きつい
て、とりはずしにくい NP2 が NP1 が TR このピンは ふたの締め方が き
つui
NP2 が NP1 が BE 彼は ネクタイの結び方が きつ
ui
NP2 が NP1 が EL このビンのふたは 締め方が き
つui

02 着用するには小さすぎて窮 NP1 が 01 このジーンズは きつい
屈である NP2 が NP1 が PA この上着は 袖が 少し きつい

03 刺激の程度がはなはだしい NP1 が 01 このタバコは きつい
NP2 が NP1 が FC この焼酎は においが きつい

04 (私は)仕事などが大変で (NP二) NP1 が RC 私には 一万円の会費は きつい
、つらく感じる

05 厳しく反省をうながすよう な 先生から きついおしかりを 頂
戴しました

06 性格などがやさしさが感じられないほど強い	NP1 が	01	あの人の性格が きついの、親譲りだ
	NP2 が NP1 が	CH	あの人は 性格が きつい
	NP2 が NP1 が	EL	彼女は 言葉が きつい
07 人に、心身への負担が大きいという感じを与える	NP1 が	01	広告会社の仕事は きつい
	NP2 が NP1 が	EL	あの会社は 仕事が きつい
08 顔立ちや目付きなどが気の強さを感じさせる	NP1 が	01	彼女の顔つきは きつい
	NP2 が NP1 が	PA	彼は 目が きつい
	NP2 が NP1 が	EL	彼女は 顔つきが きつい

きびしい

語義数 0 5

01 規則や評価などの基準が厳格で、いいかげんなことを許さない	NP1 が	01	あの先生は女生徒への採点は 厳しい
	NP1 が NP 二	AT	あの先生は 生徒に 厳しい
	NP1 が NP 二	SO	近所の人達の目は Aさんには 厳しかった
	NP2 が NP1 が	BE	あの先生は 女生徒への採点が 厳しい
	NP2 が NP1 が	NO	我が校は 帰国子女に対する合格基準が 厳しい
	NP2 が NP 二 NP1 が	NT, BE	父は 長男の僕には しつけが 厳しかった
02 何かに関して、いい加減な対処を許さない	NP1 が NP 二	RA	父は 時間に 厳しい
	NP2 が NP1 が	EL	わが校は 帰国子女には 合格の基準が 厳しい
03 期待どおりの結果を得るのが厳しい状況である	NP1 が	01	日本チームの五輪出場は かなり 厳しい
	NP2 が NP1 が	BE	その病院は 経営が 厳しい
	NP2 が NP1 が	EL	彼は生活が 厳しい
04 表情などが固く、緊張している	NP1 が	01	これから船出する二人の表情は 厳しい
	NP2 が NP1 が	EL	今日の先生は 顔つきが 厳しい
05 暑さ寒さなどの程度がはなはだしい	NP1 が	01	残暑が 厳しい

くさい

語義数 0 3

01 (私は)臭いがよくないと感じる	(NP 二) NP1 が	SN	私には 煙草のにおいが 臭い
02 においがよくない	NP1 が	01	にんにくのにおいは 臭い
	NP2 が NP1 が	PV	ブルーチーズは においが 臭い
	NP2 が NP1 が	PA	あいつは 足が 臭い
	NP2 が NP1 が	EL	酔っぱらいは 息が 臭い
03 重要な情報が隠されていると感じさせる	NP1 が	01	目撃者の証言が 臭い

=====

くやしい 語義数 0 1

01 (私は)残念で腹立たしく (NP2 が) NP1 が F0 私は あの試合に負けたことが
思う くやしい

=====

くらい 語義数 0 8

01 十分な量の光によって満た NP1 が 01 夕立の前は 暗い
されていない NP2 が NP1 が DM この病院は 廊下が 暗い

02 発する光の量が十分でない NP1 が 01 ろうそくの炎は 暗い

03 色の明度が低く、黒っぽく NP1 が 01 冬の海の色は 暗い
、目立たない NP2 が NP1 が FC 冬の海は 色が 暗い
NP2 が NP1 が TR 彼は 服の色が 暗い

04 音が比較的 low、重苦しく NP1 が 01 ピアノの音色が 暗い
聞こえる NP2 が NP1 が FC このピアノは 音色が 暗い
NP2 が NP1 が TR この車は エンジンの響きが 暗
い

05 性格などが陰気で重苦しい NP1 が 01 彼の性格は 明るい
感じを与える NP2 が NP1 が CH 彼は 性格が 暗い
NP2 が NP1 が BE 彼は 態度が 暗い

06 深刻で重苦しい感じを与え NP1 が 01 彼の小説のテーマは 暗い
る NP2 が NP1 が EL 彼の今度の小説は テーマが 暗
い

07 問題が多くて、不安である NP1 が 01 世の中が 暗い
NP2 が NP1 が EL この市場は 先行きが 暗い

08 人が何かについてあまりよ NP1 が NP2 RA 彼は 国際情勢に 暗い
く知らない

=====

くるしい 語義数 0 5

01 (私は)肉体的にひどい苦 NP1 が 01 食べ過ぎて 私は 苦しかった
痛や圧迫を感じている (NP2 が) NP1 が BP 私は 人いきれで ぬ根が 苦しか
(NP2 が) NP1 が ST 私は 風邪で 呼吸が 苦しかっ
た

02 (私は)精神的にひどい苦 (NP2 が) NP1 が F0 私は その試合が 苦しかった
痛や圧迫を感じている

03 物や金銭が不足して、困っ NP1 が 01 失業者の生活は 苦しい
た状態にある NP2 が NP1 が BE 円高で 輸出産業は 経営が 苦
しい
NP2 が NP1 が EL わが家は 家計が 苦しい

04 困った状態にある NP1 が 01 部下の失敗で 彼の立場は 苦し
しい

05 説明などに無理がある NP1 が 01 その説明は ちょっと 苦しいよ

=====
 くらい 語義数 0 3

01 色が黒か黒に近い NP1 が 01 そのドレスの色は 黒い
 NP2 が NP1 が PV そのドレスは 色が 黒い
 NP2 が NP1 が TV あの車は シートの色が 黒い
 NP2 が NP1 が PA 彼は 髪が 黒い

02 物が汚れて黒っぽく見える NP1 が 01 シャツのえりが 黒い
 NP2 が NP1 が PA このシャツは えりが 黒い

03 不吉で悪意があるような 彼に対して 黒いうわさが 流れ
 た

=====
 くわしい 語義数 0 3

01 説明や記述などが細かい所 NP1 が 01 この解説書の内容は 詳しい
 までいきわたっている NP2 が NP1 が EL この解説書は 説明が 詳しい

02 細かい所まではっきりとし
 た 詳しい時期は 七月にならないと
 示せない

03 人が何かについて細かいと NP1 が NP二 RA 田中君は 京都の地理に 詳しい
 ころまでよく知っている

=====
 けわしい 語義数 0 3

01 地形に急な傾斜や凹凸が多
 い NP1 が 01 この山道は 険しい
 NP2 が NP1 が PA この山は 道が 険しい

02 態度に緊張感や警戒心が感
 じられる NP1 が 01 彼の表情は 険しい
 NP2 が NP1 が PA 彼は 顔が 険しい
 NP2 が NP1 が EL 彼は 目つきが 険しい

03 難しい問題がたくさんある NP1 が 01 日本の前途は 険しい

=====
 こい 語義数 0 7

01 はっきりと目立って見える NP1 が 01 彼のひげは 濃い
 NP2 が NP1 が PA 彼は ひげが 濃い

02 気体の濃度が高い NP1 が 01 ロンドンの霧は 濃い

03 溶液の濃度が高い NP1 が 01 この牛乳は 濃い

04 味の刺激が高い NP1 が 01 彼の味つけは 濃い
 NP2 が NP1 が FC この料理は 味つけが 濃い
 NP2 が NP1 が TR この店は 料理の味が 濃い

05 色や字などが白に対してよ
 く目立つ NP1 が 01 このインクの色は 濃い
 NP2 が NP1 が FC この墨は 色が 濃い
 NP2 が NP1 が EL この印刷は 赤が 濃い

06 程度が大である	NP1 が	01	法案の自然成立の可能性が 濃い 法案は 自然成立の可能性が 濃い
	NP2 が NP1 が	N0	
	NP2 が NP1 が	SC	その証人は 偽証の疑いが 濃い 彼女の趣味は 恋人からの影響が 濃い
	NP2 ニ/が NP1 が	NT/N0	
07 一定の傾向が強い	NP1 が	01	この記念行事の宗教色は 濃い この記念行事は 宗教色が 濃い
	NP2 ニ/が NP1 が	NL1/N0	

=====
 ころよい 語義数 0 2

01 (私は)気持ちがいいと感じる	(NP2 が) NP1 が	ST	私は 春の日ざしが 快かった 私は そよ風が 頬に 快かった
	(NP2 が) NP1 が NP ニ	S0,ST	
02 積極的で、嫌な様子が見られない			快い承認が うれしかった

=====
 このましい 語義数 0 1

01 目的にならなっていて適当である	NP1 が	01	この記事の内容が 好ましくない 保母さんには 子供好きの人が 好ましい 子供には 固いベッドが 好ましい この記事は 内容が 好ましくない 計算機の設置場所は 温度変化が 少ない場所が 好ましい
	NP ニ NP1 が	EV1	
	NP ニ NP1 が	S0	
	NP2 が NP1 が	EL	
	NP2 が NP1 が	SC	

=====
 こまかい 語義数 0 6

01 目・粒や模様などのひとつひとつが小さい	NP1 が	01	このざるの目は 細かい このやすりは 目が 細かい この洗剤は 粒子が 細かい このセーターは 編み目が 細かい この機械は 部品が 細かい この本は 字が 細かい
	NP2 が NP1 が	PV	
	NP2 が NP1 が	FC	
	NP2 が NP1 が	TR	
	NP2 が NP1 が	PA	
	NP2 が NP1 が	EL	
02 金額が少ない、あるいは小単位である	NP1 が	01	おつりが 細かくて ごめんなさい
03 連続した動きや変化などのひとつひとつが小さい	NP1 が	01	ネズミの動きは 細かい ネズミは 動きが 細かい
	NP2 が NP1 が	BE	
04 説明や内容などが微細にわたっている	NP1 が	01	あの会社の規則は 細かい 彼は 説明が 細かい あの会社は 規則が 細かい
	NP2 が NP1 が	BE	
	NP2 が NP1 が	EL	
05 すみずみまでていねいに行き届いた			細かい気配りに 感激した
06 お金などに対して非常に気をつかう	NP1 が NP ニ	RA	彼は 金に 細かい

=====

こわい 語義数 0 2

- | | | | |
|-----------------------------|----------------------|----------|-----------------------|
| 01 (私は)何かに対して、危
険や不安を感じる | (NP2 が) NP1 が | F0 | 私は 雷が 怖い |
| 02 人に危険や不安を感じさせ
る | NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
EL | 地震は 怖い
飛行機は 事故が 怖い |

=====

さびしい 語義数 0 3

- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------|----------|-----------------------------------|
| 01 (私は)心が満たされず、
孤独であると感じている | (NP1 が)
(NP2 が) NP1 が | 01
F0 | 私は なんとなく さびしかった
私は 一人暮らしが さびしい |
| 02 人を、孤独で心が満たされ
ないような気持ちにさせる | NP1 が | 01 | あの音楽は さびしい |
| 03 人の気配が少なく、ひっそ
りしている | NP1 が | 01 | 季節外れの行楽地は さびしい |

=====

さむい 語義数 0 4

- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 01 (私は)気温が低すぎると
感じる | (NP1 が)
(NP2 が) NP1 が | 01
BP | 私は 寒い
私は 背中が 寒い |
| 02 気温がかなり低い | NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
DM | この部屋は 寒い
きょうは 朝が 寒かった |
| 03 気温がかなり低いと感じさ
せる | NP1 が | 01 | 北風が 寒い |
| 04 ある状態や行為などが人に
気温がかなり低いと感じさ
せる | NP1 が | 01 | そんな格好でいるのは 寒いよ |

=====

さわがしい 語義数 0 2

- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|----------------|---|
| 01 話し声や音楽などが大きく
聞こえる | NP1 が
NP2 が NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
PV
DM | 子供たちの声が 騒がしい
応援団は 歓声が 騒がしい
おもては 人の声が 騒がしい |
| 02 特定の話題に人々の関心が
集まり、何だかざわついて
いる | NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
DM | 世間が 騒がしい
商店街は 年の瀬が 騒がしい |

=====

しかくい 語義数 0 1

- | | | | |
|-------------------------|--|----------------------|---|
| 01 形が方形か方体あるいはそ
れに近い | NP1 が
NP2 が NP1 が
NP2 が NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
PV
TR
PA | その荷物の形は 四角い
この部屋は 形が 四角い
この部屋は 窓の形が 四角い
この部屋は 窓が 四角い |
|-------------------------|--|----------------------|---|

=====

したしい 語義数 0 1

01 互いによく知り合っていて NP1 が 01,RE 山田さんと彼は 生前 親しかった
、仲がよい

しつこい 語義数 0 3

01 味や香りなどが強すぎる NP1 が 01 この料理の味は 少し しつこい
NP2 が NP1 が FC この料理は 味が しつこい

02 同じことを何度も繰り返し NP1 が 01 新聞の勧誘が あまりにも しつ
、なかなかあきらめない NP2 が NP1 が BE こい
あのサラ金は 取り立てが しつ
こい

03 なかなか消えずにいつまで NP1 が 01 このしみは しつこくて なかな
も残っていて困る

しぶい 語義数 0 6

01 (私は)舌がしびれるよう (NP二) NP1 が SN 私には このお茶は 渋い
な苦味を感じる

02 飲食物などに舌がしびれる NP1 が 01 どんぐりは 渋い
ような味がある NP2 が NP1 が PA ぶどうは 皮が 渋い

03 趣味や芸などに落ち着いた NP1 が 01 彼の演技は 渋い
さりげない良さがある NP2 が NP1 が FC 彼は 声が 渋い
NP2 が NP1 が BE 彼は 演技が 渋い
NP2 が NP1 が EL 彼は 好みが 渋い

04 色やデザインなどが落ちて着 NP1 が 01 このセーターの色は 渋い
いた上品な感じを与える NP2 が NP1 が FC このセーターは 色が 渋い

05 人が金の支払いをしたがら NP1 が 01 彼の金払いは 渋い
ない NP1 が NP二 RA 彼は 金に 渋い
NP2 が NP1 が BE 彼は 金払いが 渋い

06 不満・不快・不賛成を示す 彼は 渋い顔で 断った
ような

しろい 語義数 0 1

01 色が白か白に近い NP1 が 01 彼のシャツの色は 白い
NP2 が NP1 が PV 彼のシャツは 色が 白い
NP2 が NP1 が TR 彼は シャツの色が 白い
NP2 が NP1 が PA 彼は 肌が 白い

すくない 語義数 0 3

01 数えられる物の数があまり NP1 が 01 この学校の生徒の数は 少ない
ない NP2 が NP1 が PV この学校の生徒は 数が 少ない
NP2 が NP1 が TR この学校は 生徒の数が 少ない
NP2二/が NP1 が LL1/LP 日本には 平地が 少ない

	NP2ニ/カ NP1ガ NP2ガ NP1ガ NPニ NP1ガ NP2ニ/カ NP1ガ	NL1/NO BE NL1 NT/NO	この学校は 生徒が 少ない 彼は 遅刻が 少ない 芸能界には 彼の知人が 少ない 僕には 得意先からの連絡が 少 なかつた 得意先からは 彼への連絡が 少 ない 彼は 芸能界に 知人が 少ない
	NPカ NP1ガ	NF	
	NP2ガ NPニ NP1ガ	NL1,NO	
02 数えられない物の量があまり りない	NP1ガ NP2ガ NP1ガ NP2ガ NP1ガ NP2ニ/カ NP1ガ NP2ニ/カ NP1ガ	01 PV TR LL1/LP NL1/NO	その国の雨量は 少ない この店のラーメンは 量が 少な い その国は 雨量が 少ない この街は 緑が 少ない この湖は 水が 少ない
03 具体的でないもの(考えや 性質や動きや変化など)が 少ない	NP1ガ NP2ニ/カ NP1ガ NP2ニ/カ NP1ガ NPニ/カ NP1ガ NP2ガ NPニ NP1ガ NP2ガ NPニ/カ NP1ガ	01 NL1/NO NT/SC GR/NF NT,NO GR/NF,NO	その計画を実施するときの問題は 少ない 僕は 将来に対する不安が 少な い その計画は P T Aからの反対が 少ない 部課長クラスには 社長の営業方 針に対する批判は 少ない 僕は 将来に 不安が 少ない その計画は P T Aに 反対の声 が 少ない

すさまじい

語義数 0 2

01 常識では考えられないほど 、程度が大である	NP1ガ NP2ガ NP1ガ	01 EL	この本の売れ行きは すさまじい この本は 売れ行きが すさまじ い
02 外観が恐ろしく異様な感じ を与える	NP1ガ	01	その光景は すさまじかった

すずしい

語義数 0 4

01 (私は)気温が適度に低い と感じる	(NP1ガ)	01	私は 涼しい
02 気温が適度に低い	NP1ガ NP2ガ NP1ガ	01 DM	エアコンのきいた部屋は 涼しい 秋は 朝晩が 涼しい
03 気温が適度に低いと感じさ せる	NP1ガ	01	木かげのそよ風は 涼しい
04 すっきりとした印象を与え る	NP1ガ NP2ガ NP1ガ NP2ガ NP1ガ NP2ガ NP1ガ	01 FC PA EL	彼女の目もとは 涼しい 風鈴は 音が 涼しい 彼女は 目もとが 涼しい その服は 模様が 涼しい

すっぱい

語義数 0 2

01	(私は)味に酸味を感じる	(NP二) NP1が	SN	私には この梅干しは 酸っぱい
02	飲食物などの味に酸味が多い	NP2が NP1が NP2が NP1が	01 PA	レモンは 酸っぱい この果物は 種の回りが 酸っぱい

=====
すばらしい 語義数 0 1

01	大変優れていて、感嘆に値する	NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が	01 FC PA BE EL	この映画は すばらしい あの映画は 色彩が すばらしい ベルサイユ宮殿は 庭園が すばらしい あのチームは 速攻が すばらしい この詩は 比喻が すばらしい
----	----------------	--	----------------------------	--

=====
するどい 語義数 0 8

01	先端や刀などが細くとかっている	NP1が NP2が NP1が	01 PA	このナイフは 鋭い この針は 先が 鋭い
02	傾斜やカーブなどの程度がはなはなだしい	NP1が NP2が NP1が	01 FC	この屋根の傾斜は 鋭い この屋根は 傾斜が 鋭い
03	輪郭や凹凸などが、はっきりしてよく目立つ	NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が	01 FC TR EL	彼の顔の輪郭は 鋭い 彼の顔は 輪郭が 鋭い 彼は 顔の輪郭が 鋭い 彼は 顔だちが 鋭い
04	感覚的刺激が強くはっきりしている	NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が	01 FC EL	もずの鳴き声は 鋭い もずは 鳴き声が 鋭い 結石は 痛みが 鋭い
05	動きがすばやく、力強い	NP1が NP2が NP1が NP2が NP1が	01 BE EL	この車の出足は 鋭い 野生動物は 動きが 鋭い この車は 出足が 鋭い
06	感覚・知覚が非常に優れている	NP1が NP2が NP1が	01 FC	犬の嗅覚は 鋭い 犬は 嗅覚が 鋭い
07	態度が攻撃的で、的を得ている	NP1が NP2が NP1が	01 EL	この新聞の議論は 鋭い この新聞は 議論が 鋭い
08	的を得ている	NP1が NP2が NP1が	01 BE	君の質問は 鋭い 彼は 読みが 鋭い

=====
ずるい 語義数 0 2

01	公正でないことをする卑怯な性質である	NP1が	01	あの人は ずるい
02	行為や方法などが公正でない	NP1が	01	人のせいにするのは ずるい

=====

せまい

語義数 0 3

01 幅や面積などが小さい	NP1 が	01	このあたりの道幅は 狭い
	NP2 が NP1 が	FC	その都市の道路は 幅が 狭い
	NP2 が NP1 が	TR	その年は 道路の幅が 狭い
	NP2 が NP1 が	PA	その年は 道路が 狭い
02 範囲が小さい	NP1 が	01	彼の趣味の範囲は 狭い
	NP2 が NP1 が	PV	彼の趣味は 範囲が 狭い
	NP2 が NP1 が	TR	彼は 趣味の範囲が 狭い
	NP2 が NP1 が	NO	彼は 付き合いが 狭い
03 自己中心的で、柔軟性や包容性に欠ける	NP1 が	01	太郎の心は 狭い
	NP2 が NP1 が	CH	太郎は 心が狭い

たかい

語義数 0 6

01 下端から上端までの距離が大きい	NP1 が	01	太郎の背は 高い
	NP2 が NP1 が	PV	あの山は 標高が 高い
	NP2 が NP1 が	FC	太郎は 背が 高い
	NP2 が NP1 が	TR	この学校は 塀の高さが 高い
	NP2 が NP1 が	PA	この学校は 塀が 高い
02 比較的上の方に位置する	NP1 が	01	この山の展望台の位置は 高い
	NP2 が NP1 が	PV	この山の展望台は 位置が 高い
	NP2 が NP1 が	TR	この山は 展望台の位置が 高い
	NP2 が NP1 が	PA	この船は 重心が 高い
03 数量的な程度が普通より上である	NP1 が	01	この実験の成功の確率は 高い
	NP2 が NP1 が	FC	うちのおばあさんは 血圧が 高い
	NP2 が NP1 が	TR	日本の警察は 検挙率が 高い
04 程度が普通より上である	NP1 が	01	あの先生の教養は 高い
	NP2 が NP1 が	NO	彼は 理想が 高い
	NP2 ニ/カ NP1 が	NT/NO	彼は 主婦層からの評判が 高い
	NP2 ニ/カ NP1 が	NT/SC	今回の選挙は 国民の関心が 特 に 高かった
	NP ニ/カ NP1 が	GR/NF	識者からは その小説への評価が 高い
05 音や声などの音程が普通より上である	NP1 が	01	あの人の声は 高いから、ソプラノがいい
	NP2 が NP1 が	FC	彼女は 声が すごく 高い
06 かかる金額が大きい	NP1 が	01	この店の食料品の値段は 高い
	NP2 が NP1 が	PV	その店の食料品は 値段が 高い
	NP2 が NP1 が	TR	この店は 食料品の値段が 高い
	NP2 が NP1 が	PA	牛は ヒレが 高い
	NP2 が NP1 が	BE	この建設会社は インテリジェントビルの建設が 特 に 高い
	NP2 が NP1 が	NO	この店は 食料品が 高い

=====				
たくましい	語義数	0 2		
01 外見が力強く、筋骨が発達している	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA EL		彼の胸は たくましい あの男は 胸が たくましい 彼は 体つきが たくましい
02 能力や意欲などが十分にあって力強い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO		人間の生命力は たくましい 彼は 商魂が たくましい
=====				
ただしい	語義数	0 2		
01 行いや考え方などが理想や基準に合っている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL		彼の意見は 正しい 彼は r の発音が 正しい 今回の選挙は やり方が 正しい
02 事実や真理に反していない	NP2 が NP1 が	SC		問3の答えは b が 正しい
=====				
たのしい	語義数	0 2		
01 (私は)明るく愉快に感じる	(NP1 が) (NP2 が) NP1 が	01 FO		毎日 私はとても 楽しい 私は 仕事が 楽しい
02 人を明るく愉快的気持ちにさせる	NP1 が	01		食べることは 楽しい
=====				
たのもし	語義数	0 1		
01 しっかりしていて頼りになりそうである	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL		あの男は 頼もしい 彼は 将来が 頼もしい
=====				
たまらない	語義数	0 4		
01 (私は)耐えられないと感じる	(NP二) NP1 が	RC		私には タバコの煙が たまらない
02 人に、耐えられないほどの不快感を与える	NP1 が	01		日本の夏は 蒸し暑くて たまらない
03 (私は)とても快いと感じる	(NP二) NP1 が	RC		私には 食後の一服が たまらない
04 人に、非常に強い快感を与える	NP1 が	01		食後の一服は たまらない
=====				
ちいさい	語義数	0 6		
01 空間を占める量が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV FC TR PA		このケースの容積は 小さい この上着は サイズが 小さい 彼は 背が 小さい この学校は グランドの面積が 小さい この部屋は 窓が 小さい

02	衣類などがきつくて合わない	NP1 が	01	この帽子は 小さくて、もうかぶれない
03	年齢が比較的下の方である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO	あの子は まだ 小さい 彼は まだ 子供が 小さい
04	音の量が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	ラジオの音が 小さい その男は 声が 小さい
05	数量的な程度が小である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR	支払った額は 小さい このダムは 水量が 小さい このプロジェクトは 予想規模が 小さい
06	程度がたいしたことはない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が	01 NO NL1/NO,RE NT/SC NT,NO RP,NO,RE	彼の夢は 小さかった この計画は 地元への影響が 小さいとは言えない 会社の回答と組合の要求額は 差が 小さく、ストが回避された 僕は 母からの影響が 小さくはない その広告は 販売促進に 効果が小さかった 両社は 給料に 差が 小さいとは言えない

ちかい

語義数 06

01	複数地点の間の空間的へだたりが小さい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP1 が NP ニ/が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV,RE TR LT/LF SC EL,RE	私の家と学校との距離は 近い 私の家と学校は 距離が 近い 私の家は 駅との距離が 近い 私の家は 駅に 近い その公園は 駅が 近い 太郎の入学式と次郎の入園式は 会場が 近い
02	まだ実現していないことについて、現時点との時間的へだたりが小さい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	太郎の出発の日は 近い 太郎は 出発の日が 近い
03	複数地点の間の時間的へだたりが小さい	NP1 が NP1 が NP ニ NP2 が NP1 が	01,RE NG1 FC,RE	太郎の入学式の日と次郎の入園式の日は 近い 太郎の入学式の日は 次郎の入園式の日に近い 太郎の入学式と次郎の入園式は 日が 近い
04	関係が密接で、交流が深い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR NO,ME	両国の関係は 近い 国は B国との関係が 近い 両国は 関係が 近い
05	一定の基準や数量にほとんど等しい	NP1 が NP2 が NP1 が NP ニ NP2 が NP1 が NP ニ	NG1 NG1,PV NG1,TR	そのデモの参加者の数は 一万人に 近かった そのデモの参加者は 数が 一万人に 近い そのデモは 参加者の数が 一万

		NP2 が NP1 が NP二	NG1,NO	人に 近い そのデモは 参加者が 一万人に 近い
		NP2 が NP1 が NP二	NG1,EL	その計画は 実現が 不可能に 近い
06 大体同じである		NP1 が NP1 が NP二	01 NG1	双方の店員の数は 近い 太郎の意見は 次郎の意見に 近 い
		NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	FC,RE BE,RE	彼と奥さんは 年が 近い そのロボットとこのロボットは 動きが 近い
		NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP二	EL,RE NG1,FC	太郎と次郎は 意見が 近い この店は 店員の数が あの店に 近い
		NP2 が NP1 が NP二	NG1,BE	このロボットは 動きが 人間に 近い
		NP2 が NP1 が NP二	NG1,EL	太郎は 意見が 次郎に 近い

=====

つまらない 語義数 0 4

01 (私は)退屈で満たされな い気持ちがある	(NP1 が) (NP2 が) NP1 が	01 FO	ぼくは 何もすることがなくて つまらない 私は 学校が つまらない
02 人を退屈で満たされない気 持ちにさせる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	最近のテレビ番組は つまらない この雑誌は コラムが つまらな い
03 報われることのない損なこ とである	NP1 が	01	急いで行って、 事故に遭うのは つまらない
4 たいして価値がなく、あま り重要でない			つまらないミスを 避ける

=====

つめたい 語義数 0 6

01 (私は)直接体に触れる物 の温度が低すぎると感じる	(NP二) NP1 が (NP2 が) NP1 が NP二	SN SO,ST	私には プールの水が 冷たかっ た 私は 朝の空気が 肌に 冷たか った
02 物の温度がかなり低い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	水が 冷たい 君は 手が 冷たい
03 気温がかなり低いと感じさ せる	NP1 が	01	朝の空気が 冷たい
04 (私は)体の一部の温度が 低いと感じる	(NP2 が) NP1 が	BP	私は 手が 冷たい
05 性格などがやさしさや思い やりに欠けている	NP1 が NP1 が NP二 NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 AT CH BE	彼女の心は 冷たい 彼女は 最近 僕に 冷たい 彼女は 心が 冷たい 彼女は 態度が 冷たい

06 人に反感や無関心さを感じさせる	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	母の言葉 冷たかった あの会社は 対応が 冷たい あの人は 視線が 冷たい
--------------------	-------------------------------------	----------------	---

つよい

語義数 1 2

01 物を動かす力が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PC	ゴリラの筋力は 強い ゴリラは 筋力が 強い
02 自然現象などの動きや変化が激しい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	今日の風は 強い きのうの地震は 揺れが 強かった
03 刺激の程度がはなはだしい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PC	にんにくの匂いは 強い このレモンは 酸味が 強い
04 体の一部が機能的に優れている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA	彼の心臓は 強い 彼は 足腰が 強い 彼は 胃腸が 強い
05 精神的な力が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	彼の精神力は 強い 彼は 精神力が 強い
06 程度がはなはだしい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 二/が NP1 が NP2 二/が NP1 が NP 二/カラ NP1 が NP2 が NP 二 NP1 が NP2 が NP 二/カラ NP1 が	01 NO NT/NO NT/SC GR/NF NT,NO GR/NF,NO	政権党に対する庶民の不信感は 強い 庶民は 政権党への不信感が 強い 職場の禁煙には 愛煙家からの反対の声が 強い 僕には とりわけ 親の期待が 強かった 若年層に 禁煙への反対が 強い 庶民は 政権党に 不信感が 強い 禁煙は 若年層に 反対が 強い
07 相互の関係がしっかりしている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR NO,RE	と B との因果関係が 強い A は B との因果関係が 強い A と B は 因果関係が 強い
08 数量的な程度がはなはだしい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	このメガネの度は 強い このメガネは 度が 強い
09 競争に勝つ力がある	NP1 が NP1 が NP 二 NP2 が NP1 が	01 SO BE	チャンピオンは 強い チャンピオンは 横からの攻撃に 強い 彼は 喧嘩が 強い
10 外部からの刺激に対する耐性が大きい	NP1 が NP 二	SO	その物質は 熱に 強い
11 特定の状況に適応する力がある	NP1 が NP 二	SO	彼は 本番に 強い
12 特定の事について詳しい知識や技術がある	NP1 が NP 二	RA	彼は 機械に 強い

=====			
つらい	語義数	0 4	
01 (私は) 身体にひどい苦痛を感じて耐えがたい	(NP1 が) (NP2 が) NP1 が	01 ST	私は 風邪で つらい 私は 早起きが つらい
02 (私は) 精神的にひどい苦痛を感じて、耐えがたい	(NP2 が) NP1 が	F0	私は やり直しさせられることが つらい
03 人に苦痛を感じさせるほど大変である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	新入社員は つらい サラリーマンは 転勤が つらい
04 人に苦痛を感じさせるほど冷酷な			つらい仕打ちは これ以上我慢できない

=====			
とおい	語義数	0 4	
01 複数地点間の空間的へだたりが大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP1 が NP二/カ NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR LT/LF SC EL, RE	私の家と学校の距離は 遠い 私の家と学校は 距離が 遠い 私の家は 駅からの距離が 遠い 私の家は 駅に 遠い 私の家は 駅が 遠い 太郎の入学式と次郎の入園式は 会場が 遠い
02 現時点との時間的へだたりが大きい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	その計画の実現の日は 遠い その計画は 実現の日は 遠い
03 関係が密接でなく、あまり交流がない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR NO, RE	両国の関係は 遠い 国は B国との関係が 遠い 両国は 関係が 遠い
04 ある数量から、かなりかけはなれている	NP1 が NP二 NP2 が NP1 が NP二 NP2 が NP1 が NP二 NP2 が NP1 が NP二	NG1 NG1, PV NG1, TR NG1, NO	そのデモの参加者の数は 一万人には 遠い そのデモの参加者は 数が 一万人には 遠い そのデモは 参加者の数が 一万人には 遠い そのデモは 参加者が 一万人には 遠い

=====			
とぼしい	語義数	0 1	
01 少なくとも十分ではない	NP1 が NP1 が NP二 NP2二/が NP1 が NP2二/が NP1 が NP2二/が NP1 が NPカ NP1 が NP2 が NP二 NP1 が	01 S0 LL1/LP NL1/NO NT/SC NF NT, NO	日本の天然資源は 乏しい 日本は 天然資源に 乏しい 日本は 天然資源が 乏しい 我社は 有能な技術者が 乏しい 妻の仕事に 夫の理解が 乏しい ユーザからは その商品への反応が 乏しい 彼は 仕事に 意欲が 乏しい

=====			
とんでもない	語義数	0 1	
01 常識ではとても容認できる	NP1 が	01	そんな時間は とんでもないよ

ことではない

ない

語義数 0 4

01	存在しない / 所有していない	NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が	01 LL1/LP NL1/NO	駐車場の空気が ない この病院は 消火器が ない 私は 細かいお金が ない
02	具体的でないもの（考えや性質や動きや変化など）が存在しない	NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP ニ/が NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が NP2 が NP ニ/が NP1 が	01 NL1/NO NT/SC GR/NF NT,NO GR/NF,NO	その計画を実施するときの問題は ない 彼は 芸術的センスが ない 妻の仕事に 夫の理解が ない 女房には 信用が ないんだ 僕は 将来に 不安が ない 私は 女性に 人気がない
03	行われぬ / 発生しない	NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP が NP1 が	01 NT/SC NF	彼からの連絡は ない 私には 息子からの連絡が なかった 息子からは 私への連絡が なかった
04	関係が成立しない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が	01 TR NL1/NO,RE DY,NO RP,NO,RE	両国の国交は ない 彼は 氏とのつきあいが ない あの二人は 血縁関係が ない 彼は B社に 関係が ない 彼と弟は 実力に 差がない

ながい

語義数 0 3

01	両端間の距離が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	そのセーターの袖の寸法は 長い そのセーターの袖は 寸法が 長い そのセーターは 袖の丈が 長い そのセーターは 袖が 長い
02	時間が多い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR BE	大病院の待ち時間は 長い 今回の彼の滞在は 期間が 長い 彼は 滞在の期間が 長い 彼は 話が 長い
03	情報の量が大きく、受け取るのに時間がかかる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	この文章は 長い この本は 第一章が 長い

なつかしい

語義数 0 1

01	(私は)以前接した物事を思い出して心がひかれる	(NP2 が) NP1 が	F0	知らない他国にいる私は 故郷が 懐かしい
----	-------------------------	---------------	----	----------------------

にがい

語義数 0 3

01	(私は)味に苦味を感じる	(NPニ) NP1 が	SN	私には このチョコレートは 苦い
----	--------------	-------------	----	------------------

02	飲食物などの味に苦味が多い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	ホップの実は 苦い さんまは 腹わたが 苦い
03	味わいたくないような、不快な			その失恋は 苦い思い出と なった

=====
にくい 語義数 0 2

01	(私は) 敵意を持ち、怒りを感じている	(NP2 が) NP1 が	F0	俺は あいつが 憎い
02	文句のつけようがないほどすばらしい	NP1 が	01	彼の今日の着こなしは にくい

=====
にくらしい 語義数 0 2

01	(私は) 反感を持ち、敵意を感じている	(NP2 が) NP1 が	F0	私は 彼の態度が 憎らしい
02	感じが悪く、人に反感や敵意を感じさせる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	あの子の態度は 本当に 憎らしい 彼は 口のきき方が 憎らしい

=====
にぶい 語義数 0 3

01	感覚的刺激が弱く、ぼんやりしている	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	この車のエンジンの音は 鈍い このエンジンは 音が 鈍い
02	感覚・知覚が非常に劣っている	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	頭の働きが 鈍い 彼は 勘が 鈍い
03	動きが遅く、活発でない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	地価の動きが 鈍い 彼は バットの振りが 鈍い この車は 出足が 鈍い

=====
ぬるい 語義数 0 2

01	(私は) 物の温度が十分に高くないか、あるいは十分に低くないと感じる	(NP2) NP1 が	SN	私には このスープは ぬるい
02	温度が十分に高くないか、あるいは低くない	NP1 が	01	このスープは ぬるい

=====
ねむい 語義数 0 2

01	(私は) 眠気を感じている	(NP1 が)	01	私は 眠い
02	人に眠気を感じさせる	NP1 が	01	あの先生の講義は 眠い

=====
のぞましい 語義数 0 1

01 期待される好ましいこと ある	NP1 が	01	全員参加が 望ましい 政治家には 彼のような人柄が 望ましい 子供には 固いベッドが 望まし い この病気は 静かに寝ているのが 望ましい
	NPニ NP1 が	EV1	
	NPニ NP1 が	S0	
	NP2 が NP1 が	SC	

=====

はげしい 語義数 0 4

01 活発で勢いが強い	NP1 が	01	都市の人口の増加が 激しい 幼児は 動きが 激しい 今度の出し物は 動きが 激しい
	NP2 が NP1 が	BE	
	NP2 が NP1 が	EL	
02 程度が極端に大きい	NP1 が	01	交通渋滞が 激しい この靴は 傷みが 激しい
	NP2 が NP1 が	EL	
03 自然現象の勢いが強い	NP1 が	01	さっきの地震の揺れは 激し かった きのうの地震は 揺れが 激し かった
	NP2 が NP1 が	EL	
04 性格が強く、感情の変化が 極端である	NP1 が	01	あの人の性格は 激しい 祖父は 気性が 激しかった
	NP2 が NP1 が	CH	

=====

はずかしい 語義数 0 2

01 (私は)きまり悪くて、 いたたまれないような気持 ちである	(NP1 が)	01	みんなに見られると 恥ずかしい 私は みんなの見ている前でこ ろんだのが 恥ずかしかった
	(NP2 が) NP1 が	F0	
02 (私は)責任を感じて、い たたまれないような気持ち である	(NP1 が)	01	僕は 試合に負けてキャプテンと して 恥ずかしい 私は 戦争中に日本のしてきたこ とが 恥ずかしい
	(NP2 が) NP1 が	F0	

=====

はなはだしい 語義数 0 1

01 程度が非常に大である	NP1 が	01	疲労が 甚だしい 彼は 非常識も 甚だしい とBは 差が 甚だしい その都市は 台風の被害が 甚だ しかった
	NP2 が NP1 が	BE	
	NP2 が NP1 が	NO,RE	
	NP2 が NP1 が	EL	

=====

はやい 語義数 0 7

01 移動に要する時間が短い	NP1 が	01	この列車の速度は 速い 光の移動は スピードが 速い 光は 移動のスピードが 速い 太郎は 走るのが 速い
	NP2 が NP1 が	PV	
	NP2 が NP1 が	TR	
	NP2 が NP1 が	BE	
02 動作や変化に要する時間が 短い	NP1 が	01	並列コンピュータの処理のスピー ドは 速い 並列コンピュータの処理は スピ
	NP2 が NP1 が	PV	

		NP2 が NP1 が	TR	ドが 速い 並列コンピュータは 処理のスピードが 速い
		NP2 が NP1 が	BE	彼は 本を読むのが 速い
03 人が何かに要する時間が短い		NP1 が	01	彼の頭の回転は 早い
		NP2 が NP1 が	BE	彼は のみこみが 早い
04 周期が短い		NP1 が	01	この曲のテンポは 速い
		NP2 が NP1 が	FC	この曲は テンポが 速い
		NP2 が NP1 が	BE	幼児は 呼吸が 速い
05 時期がある基準よりも以前である		NP1 が	01	この学校の始業時間は 早い
		NP2 が NP1 が	PV	最近の男の子の声変わりは 時期が 早い
		NP2 が NP1 が	TR	最近の男の子は 声変わりの時期が 早い
		NP2 が NP1 が	BE	今年の桜は 開花が 早い
		NP2 が NP1 が	EL	父の病気は 発見が 早かった
06 時間も手間もかからない		NP1 が	01	直接会って話す方が 早い
07 まだ適当な時期に至っていない		NP1 が	01	あきらめるのは 早い

=====

ひくい 語義数 0 5

01 下端から上端までの距離が小さい		NP1 が	01	次郎の背は 低い
		NP2 が NP1 が	PV	あの山は 標高が 低い
		NP2 が NP1 が	FC	太郎は 身長が 低い
		NP2 が NP1 が	TR	この学校は 塀の高さが 低い
		NP2 が NP1 が	PA	この学校は 塀が 低い
02 比較的下の方に位置する		NP1 が	01	あの丘の展望台の位置は 低い
		NP2 が NP1 が	PV	あの丘の展望台は 位置が 低い
		NP2 が NP1 が	TR	この自転車は サドルの位置が 低い
		NP2 が NP1 が	PA	この船は 重心が 低い
03 数量的な程度が普通より下である		NP1 が	01	この実験の失敗の確立は 低い
		NP2 が NP1 が	FC	私は 血圧が 低いんです
		NP2 が NP1 が	TR	この問題は 4 才児の正解率が 低い
04 程度が普通より下である		NP1 が	01	彼の理想は 低い
		NP2 が NP1 が	NO	あの人は 理想が 低い
		NP2 ニ/が NP1 が	NT/NO	その小説には 識者からの評価が 低い
		NP2 ニ/が NP1 が	NT/SC	その問題は 皆の関心が 低い
		NP ニ/が NP1 が	GR/NF	識者からは その小説への評価が 低い
		NP2 が NP ニ NP1 が	NT,NO	彼は 環境保護に 関心が 低い
		NP2 が NP ニ/が NP1 が	GR/NF,NO	首相は 主婦に 人気 が 低い
05 音や声などの音程が普通より下である		NP1 が	01	あの人の声は 低い
		NP2 が NP1 が	FC	彼女は 声 が 低い

=====				
ひとしい	語義数	0 2		
01 複数のものが全く同じである	NP1 が NP1 が NP2	01, RE NG1	二辺の長さが 等しい 辺 a の長さは 辺 b の長さに 等しい	
	NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	PV, RE TR	二辺は 長さが 等しい 二等辺三角形は 二辺の長さが 等しい	
	NP2 が NP1 が	PA	二等辺三角形は 二辺が 等しい	
02 一定の基準に非常に近い	NP1 が NP2	NG1	その行いは 泥棒に 等しい	

=====				
ひどい	語義数	0 3		
01 はなはだしく道義に反する	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	あの人のやり方は ひどい あなたは やり方が ひどい あの会社は 労働条件が ひどい	
02 目にあまるほど、程度が大である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	頭痛が ひどい 彼は 風邪が ひどい	
03 はなはだしく悪い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC NO EL	大都市の住宅事情は ひどい 彼の作品は 色が ひどい このホテルは 食事が ひどい きのうのピッチングは 立ち上がりが ひどかった	

=====				
ひろい	語義数	0 3		
01 幅や面積などが大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR PA	その道路の道幅は 広い その都市の道路は 幅が 広い その都市は 道路の幅が 広い その都市は 道路が 広い	
02 範囲が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR NO	彼の知識の範囲は 広い 彼の知識は 範囲が 広い 彼は 知識の範囲が 広い 彼は 趣味が 広い	
03 見方・考え方が柔軟で、包容力がある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	太郎の心は 広い 太郎は 心が 広い	

=====				
ふかい	語義数	0 9		
01 上方の入口や表面から底までの距離が長い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	この湖の水深は ずいぶん 深い この湖は 水深が 深い この湖は 中心部の水深が 深い この湖は 中心部が とても 深い	
02 内部にあって表面から遠い所に位置する	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR	この地下道の位置は 深い この地下道は 位置が 深い さっきの地震は 震源の位置が 深かった	

	NP2 が NP1 が	EL	さっきの地震は 震源が 深かった
03 入口から奥までの距離が長い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR	この押入れの奥行きは 深い この押入れは 奥行きが 深い この部屋は 押入れの奥行きが 深い
	NP2 が NP1 が	PA	この部屋は 押入れが 深い
04 森や霧などの密集の度合いが高い	NP1 が	01	ロンドンの霧は 深い
05 心情などが非常に強い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO	遺族の悲しみは 深い 彼は 情が 深い
06 理解などが十分である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 ニ/が NP1 が	01 BE NO NT/SC	彼の考えは 深い 彼は 考え方が 深い 彼は 政治への関心が 深い 今回の総選挙には 国民の関心が 深い
	NP2 が NO ニ NP1 が	NO,NT	彼は 環境問題に 関心が 深い
07 関係が密接である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP ニ NP1 が	01 TR NO,RE DY,NO	歴史的に見ても、日本とオランダとの関係は ずいぶん 深い 日本は その国との関係が 深い 日本とアメリカは 関係が 深い 禅は 日本文化に 関係が 深い
08 秋や夜などがそのさなかにある	NP1 が	01	秋が 深い
09 重厚で味わいがある			その海は 深い青が 美しかった

=====
ふさわしい 語義数 0 1

01 雰囲気や条件・役割によく合っている	NP1 が NP ニ NP2 が NP1 ニ/が NP2 ニ/が NP1 が	EV1 AP/SC SO/SC	彼は 議長に ふさわしい 議長は 彼に ふさわしい この客間には そのテーブルが ふさわしい
----------------------	--	-----------------------	--

=====
ふとい 語義数 0 2

01 長いものの幅や切り口の面積が大きい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	この麵は 太い 太郎は 腕が 太い
02 声が低く力が強い	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	太郎の声は 太い 太郎は 声が 太い

=====
ふるい 語義数 0 5

01 できてからかなり時間がたっている	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	この建物は 古い この産業は 歴史が 古い
02 ずっと以前から慣れ親しんでいる	NP1 が でいる	01 NP2 が NP1 が	この机も 古いね BE,RE 僕とあいつは 付き合い

				んだ
03	改める以前のものである	NP1 が	01	この住所は 古いので、書きかえてください
04	以前からあるものと同じで、新しい特色がない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	そのしゃれは 古いよ 彼は 見方が 古い
05	ずっと以前のことである	NP1 が	01	うちの学校の創立は 古い

=====
ほしい 語義数 0 2

01	(私は)何かを手に入れた と思う	(NP2 が) NP1 が /ヲ	F0/02	私は その情報が ほしい
02	(私は)どこかに何かがある ことを望んでいる	(NP2 が) NPニ NP1 が (NP2 が) NPニ NP1 が (NP2 が) NPニ NP1 が (NP2 が) NP1 が /ヲ NPニ	LL1,F0 NL1,F0 EV1,F0 EV1/EV2,F0/02	私は 近くに 本屋が ほしい 私は うちの課に アルバイトが ほしい 私は 助手に 彼が ほしい 私は ぜひ その人を 助手に ほしい

=====
ほそい 語義数 0 2

01	長いものの幅や切り口の面 積が小さい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	枝が 細い このノートは 罫が 細い
02	声が比較的高めで弱々しい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	花子の声は 細い 花子は 声が 細い

=====
まずい 語義数 0 6

01	(私は)味が悪いと感じる	(NPニ) NP1 が	SN	私には あの店のラーメンは まずい
02	飲食物の味が悪い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA NO	あの店のコーヒーは まずい このたいやきは しっぽが こげ ていて まずい あの店は ラーメンが まずい
03	技術的に劣っている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	彼の守備は まずい 彼は 守備が まずい この絵は 構図が まずい
04	やり方が適切でない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE	会社の対応が まずく、誠意を 疑われた 彼は 言い方が まずかったよう だ
05	ある理由で同意できないこ とである	NP1 が	01	相手の弱みにつけこむようなこと をするのは まずい
06	外見が普通よりも良くない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	服は美しいが、顔は まずい この犬は 顔が まずい

=====
まずしい 語義数 0 3

01 財産や収入が少なく、生活 や経営が苦しい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	その子の家は 貧しい 太郎は 家が 貧しかったので 進学できなかった
02 能力や内容などが不十分で 劣っている	NP1 が NP2 が NP1 が	01 NO	私の才能は 貧しい 私は 想像力が 貧しいので、 イメージが浮かびません
03 外見が粗末でみすぼらしい	NP1 が	01	彼の身なりは 貧しかった

=====
まるい 語義数 0 3

01 形が円か球あるいはそれに 近い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	地球の形は 丸い 地球は 形が 丸い 犯人は 顔の輪郭が 丸い 犯人は 顔が 丸い
02 物の一部がまるみをおびて いる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	彼のあごは 丸い 彼は あごが 丸い
03 性格が穏やかで協動的であ る	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼の人柄は 丸い 彼は 人柄が 丸い

=====
みじかい 語義数 0 3

01 両端間の距離が小さい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	そのセーター - の袖の寸法は 短い そのセーターの袖は 寸法が 短 い そのズボンは 裾の丈が 短い そのセーターは 袖が 短い
02 時間が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR BE	このスーパーのレジの待ち時間は 短い 今回の彼の滞在は 期間が 短い 彼は 滞在の期間が 短い 彼は 話が 短い
03 情報の量が少なく、受け取 るのにあまり時間がかから ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	この文章は 短い この本は 第一章が 短い

=====
みすぼらしい 語義数 0 2

01 外見が情けないほど貧弱で ある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	新幹線は 古くなると、 何か みすぼらしい あの人は 身なりが みすぼらし い
02 内容が情けないほど貧弱で ある			みすぼらしい事件を ドラマチック に仕立てあげた

=====い

みっともない 語義数 0 1

01 外見・行為・体裁が悪くて、人に悪い感じを与える NP1 が 01 彼女の服装は みっともない

みにくい 語義数 0 2

01 外見がひどく悪くて、人にいやな感じを与える NP1 が 01 彼は とても 醜い
NP2 が NP1 が PA 彼は 顔が 醜い
NP2 が NP1 が EL 彼は 姿が 醜い

02 心情・行為が悪意に満ちている NP1 が 01 彼の心は とても 醜い
NP2 が NP1 が CH 彼は 心が 醜い

むずかしい 語義数 0 6

01 簡単にできるようなことではない NP1 が 01 国際相互理解は 難しい
NP2 が NP1 が EL この機械は 操作が 難しい

02 簡単にわかるようなものではない NP1 が 01 数学は 難しい
NP2 が NP1 が EL この論文は 内容が 難しい

03 問題が多く、なかなかうまくいかない NP1 が 01 この職場の人間関係は 難しい
NP2 が NP1 が EL この職場は 人間関係が 難しい

04 人や性格などがわかりにくく、つきあうのが大変である NP1 が 01 わが家の祖父は 難しい
NP2 が NP1 が CH 太郎は 性格が 難しい

05 人があることに関して、容易に満足しない NP1 が NP二 RA 私の父は 食べ物に 難しい

06 賛成しかねるような/深く考え込むような 彼は 難しい顔を していた

めずらしい 語義数 0 2

01 (私は)めったに見聞きすることがないと思う (NP二) NP1 が RC 私には 雪が 珍しい

02 めったに見聞きすることがない NP1 が 01 こんな時期に雪が降るのは 珍しい
NP二 NP1 が LL1 この地方に 地震は 珍しい
NP二 NP1 が NL1 鉄道に こんな事故は 珍しい
NP2 が NP1 が FC この建物の屋根は 形が 珍しい
NP2 が NP1 が TR この建物は 屋根の形が 珍しい
NP2 が NP1 が PA この建物は 屋根が 珍しい
NP2 が NP1 が EL この布は 織り方が 珍しい

めでたい 語義数 0 2

01 喜ばしく、祝うべきことである NP1 が 01 無事に卒業できたのは めでたい

02 人がよすぎて考えが足りない
い NP1 が 01 あの人は 少し おめでたい

めぼしい 語義数 0 1

01 特に価値のありそうな
今度の展覧会には めぼしい作品
は なかった

もろい 語義数 0 3

01 弾力性に乏しく、こわれや
すい NP1 が 01 その合金は もろい
NP1 が NP2 SO この建物は 横揺れに もろい
NP2 が NP1 が PA この建物は 土台が もろい

02 地震などが弱く、くずれや
すい NP1 が 01 このあたりの地震は もろい

03 人が精神的に弱く、傷つき
やすい NP1 が 01 彼は 精神的に もろい
NP1 が NP2 SO 彼は 情に もろい

やかましい 語義数 0 5

01 音や声が大きく、耳ざわり
である NP1 が 01 工場の音が やかましい
NP2 が NP1 が PV 電動のタイプは 音が やかまし
い
NP2 が NP1 が DM この部屋は ラジオの音が やか
ましい

02 いろいろと細かい文句や注
文をつけ、難しい NP1 が NP2 RA お父さんは ネクタイに やかま
しい

03 いい加減な対処が許されな
いほど厳しい NP1 が 01 この学校の規則は やかましい
NP2 が NP1 が BE この家庭は しつけが やかまし
い
NP2 が NP1 が NO この学校は 規則が やかましい

04 注文や要求などが、いやに
なるほど細かくしつこい NP1 が 01 母親のごとかが あれこれと や
かましい
NP2 が NP1 が BE 彼の母親は ごとかが やかまし
い

05 議論が広く行われている NP1 が 01 消費税についての議論が やかま
しい

やさしい 語義数 0 6

01 態度が穏やかで、思いやり
がある NP1 が 01 彼女は 優しい
NP1 が NP2 AT 新しい先生は 生徒に 優しい
NP2 が NP1 が CH あの娘は 気立てが 優しい

02 しぐさや態度などがやわら
かく、温かみを感じさせる NP1 が 01 彼の笑顔は 優しい
NP2 が NP1 が BE 彼女は 態度が 優しい
NP2 が NP1 が EL 彼は 笑顔が 優しい

03	外見や印象などがやわらかく、上品で美しい	NP1 が	01	あの仏像のお顔は 優しい
04	人の体などに刺激が少なく、快い感じを与える	NP1 が NP2 が	S0	この化粧品は 肌に 優しい
05	簡単にできることである	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	この機械の操作は 易しい この機械は 操作が 易しい
06	簡単でわかりやすい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	太郎の文章は 易しい この論文は 内容が 易しい

=====
 やすい 語義数 0 1

01	あまりお金がかからない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA BE NO	この店の食料品の値段は 安い この店の食品は 値段が 安い この店は 食料品の値段が 安い 鶏肉は 皮が 安い その印刷屋は 袋とじ製本が 安い この店は 食料品が 安い
----	-------------	--	----------------------------------	--

=====
 やむをえない 語義数 0 1

01	決して好ましいことではないが避けられない	NP1 が	01	十分ぐらいの遅れは やむをえない
----	----------------------	-------	----	------------------

=====
 やわらかい 語義数 0 8

01	変形したり、こわれたりしやすい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	この金属は 軟らかい 赤ちゃんは 爪が 軟らかい
02	弾力性がある	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	このソファのクッションは 柔らかい このソファは クッションが 柔らかい
03	なめらかによく動く	NP1 が NP2 が NP1 が	01 PA	彼の体は 柔らかい 彼は 体が 柔らかい
04	ふわふわした感触を与える	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 PV TR PA	このタオルの肌ざわりは 柔らかい このタオルは 肌ざわりが 柔らかい このコートは 裏地の肌ざわりが 柔らかい このコートは 裏地が 柔らかい
05	音色に広がりがあって、暖かい感じを与える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	オーボエの音色は 柔らかい オーボエは 音色が 柔らかい
06	見た目があまりきつくない、やさしい感じを与える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	あのドレスのシルエットは 柔らかい 彼の彫刻は 線が 柔らかい

07	感触が穏やかで、快い感じを与える	NP1 が	01	春の日差しは 柔らかい
08	態度が穏やかで好感を与える	NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH	彼の人当りは 柔らかい 彼は 人当たりが 柔らかい

ゆるい 語義数 0 6

01	傾斜やカーブなどの程度が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR	この坂道の勾配は 緩い この坂道は 勾配が 緩い この建物は 屋根の傾斜が 緩い
02	大きすぎてぴったりあわない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR	この靴は 緩い このピンは ふたが 緩い
03	設置状態が不安定で、動きやすい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 TR BE EL	くつひもが 緩い このピンは ふたのしめ方が 緩い 彼は くつひもの結び方が 緩い このふたは しめ方が 緩い
04	通常よりやわらかく、流動性がある	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	このしっくいは 緩い あの見習いは 小麦粉の溶き方が 緩い この小麦粉は 溶き方が 緩い
05	制限などがあまり厳しくない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE NO EL	囚人の監視が 緩い その国の警察は スピード違反の取り締りが 緩い この学校は 規則が 緩い 密猟は 監視が 緩い
06	動きが遅い	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	この川の流れは 緩い この川は 流れが 緩い あの投手のカーブは 曲り方が 緩い

よい 語義数 1 4

01	ある側面が優れている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA NO	この壺の形は 良い 彼女は 声が 良い あの女優が 顔が 良い このホテルは 食事が 良い
02	性格や行動などが社会的に好ましい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH BE	彼の家柄は 良い 彼女は 気立てが 良い 彼は 行いが 良い
03	好ましい状態である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	機械の調子が 良い この機械は 調子が 良い
04	数量的な程度が高く、好ましい	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR EL	この商品の収益率は 良い 彼は 成績が 良かった この会社は 商品の収益率が 良い この課は 営業成績の伸びが 良い

い

05	器用で洗練されている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	彼の趣味は 良い 彼は 要領が 良い 彼は センスが 良い
06	環境が好ましい状態である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	今日の天気は 良い この部屋は 日当りが 良い
07	評判などが好ましい	NP1 が NP2 が NP1 が NPニ/カラ NP1 が NP2 が NOニ/カラ NP1 が	01 NO GR/NF GR/NF,NO	彼の P T A からの評判は 良い 彼は P T A からの評判が 良い P T A からは 彼の評判は 良い 彼は P T A から 評判が 良い
08	関係などがうまくいっている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC,RE TR EL,RE	うちの兄弟の仲は 良い あの二人は 仲が 良い あの支店は 本社との連絡が 良い あの支店と本店は 連絡が 良い
09	都合や時期などが適当である	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NPニ NP1 が	01 EL RP,EL	彼の都合が 良い 私は 都合が 良い 休み明けは 発表に タイミングが 良い
10	好ましい結果をもたらす	NP1 が NPニ	SO	ビタミンCは 健康に 良い
11	目的にかなっていて適当である	NPニ NP1 が NP1 が NPニ NP2 が NP1 が	EV1 SO SC	贈り物には バラの花束が 良い あの喫茶店は デートに 良い クツ下は 白が 良い
12	(私は)好ましい、あるいは適当だと思う	(NP2 が) NP1 が	F0	私は すしが 良い
13	必要でない	NP1 が	01	その件は もう 良からう
14	(私は)自分もそうありたいという気持ちになる	(NP2 が) NP1 が	F0	海外旅行に行くなんて、君は 良いなあ

=====

よわい

語義数 1 3

01	物を動かす力が小さい	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	女性の握力は 弱い 女性は 握力が 弱い
02	自然現象などの動きや変化が少ない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	さっきの地震の揺れは 弱かった さっきの地震は 揺れが 弱かった
03	刺激などの程度が小である	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	このガスレンジの火は 弱い このコーヒーは 酸味が 弱い
04	体の一部が機能的に劣っている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA	幼児の胃腸は 弱い 彼は 腹筋が 弱い 幼児は 胃腸が 弱い
05	指針的な力があまりない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC	彼の精神力は 弱かった 最近の若者は 忍耐力が 弱い

06 程度が小である	NP1 が	01	この薬の副作用は 弱い
	NP2 が NP1 が	NO	この薬は 副作用が 弱い
	NP2 ニ/が NP1 が	NT/NO	その計画は P T A からの反対の 声が 弱かった
	NP2 ニ/が NP1 が	NT/SC	この絵には ビカソの影響は 弱い
	NP ニ/が NP1 が	GR/NF	P T A には その意見への反対の 肥が 弱い
	NP2 が NP ニ NP1 が	NT,NO	この薬は 咳どめには 効果が 弱い
07 相互の関係がしっかりして いない	NP1 が	01	両者の結びつきは 弱い
	NP2 が NP1 が	TR	A は B との関係が 弱い
	NP2 が NP1 が	NO,RE	両社は 結びつきが 弱い
08 数量的な程度が小である	NP1 が	01	このメガネの度は 弱い
	NP2 が NP1 が	FC	このメガネは 度が 弱い
09 競争に勝つ力があまりない	NP1 が	01	あの大関は 弱い
	NP1 が NP ニ	SO	チャンピオンは 横からの攻撃に 弱い
	NP2 が NP1 が	BE	彼は 喧嘩が 弱い
10 外部からの刺激に対する耐 性が小さい	NP1 が NP ニ	SO	その物質は 熱に 弱い
11 特定の状況に適應する力が あまりない	NP1 が NP ニ	SO	彼は 本番に 弱い
12 特定のことにについて、詳し い知識や技術がない	NP1 が NP ニ	RA	彼は 機械に 弱い
13 特定の対象にさからえない	NP1 が NP ニ	AT	母親は 息子に 弱い
	NP1 が NP ニ	SO	彼は 権力に 弱い

わかい 語義数 0 5

01 年齢があまり高くない	NP1 が	01	あの人の年齢は 意外に 若い
	NP2 が NP1 が	PV	彼は 年は 若い、 経験は豊 富だ
02 誕生・創立からまだあまり 月日がたっていない	NP1 が	01	この苗木は まだ 若い
03 考え方などが未熟で、まだ 大人として扱えない	NP1 が	01	彼の考えは まだ 若かった
	NP2 が NP1 が	BE	君は 考えが まだ 若いな
04 若者のように元気で、適應 力もあり活動的である	NP1 が	01	年のわりに 私の父親の身体は 若い
	NP2 が NP1 が	PA	彼は 顔が 若い
	NP2 が NP1 が	EL	仕事を持っている人は 気持ちが 若くて、 ほがらかだ
05 数や番号などの値が小さい	NP1 が	01	こっちのカード番号の方が 若い

=====				
わずらわしい		語義数 0 2		
01	(私は)何かに対して、面倒だから避けたいと感じる	(NP2 が) NP1 が	F0	私は 近所づきあいが 煩わしい
02	面倒で人を悩ませる	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	引っ越しは 煩わしい 引越は 雑用が 煩わしい

=====				
わるい		語義数 1 3		
01	ある側面が劣っている	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA NO	くさやの匂いは 悪い くさやは 匂いが 悪い 彼は 顔が 悪い このホテルは 食事が 悪い
02	性格や行動などが社会的に好ましくない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 CH BE	彼の態度は 悪い 彼は 性格が 悪い 彼は 酒癖が 悪い
03	好ましい状態ではない	NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC PA	彼の機嫌が 悪い 彼は 機嫌が 悪い 彼は 胃が悪くて、病院に通っている
04	数量的な程度が低く、好ましくない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC TR EL	この商品の収益率は 悪い この商品は 収益率が 悪い この店は 客の回転率が 悪い うちの子は 体重の増え方が 悪い
05	やり方が適切でない/洗練されていない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 BE EL	議長の手ぎわが悪くて、会議は不成功に終わった 彼は 要領が 悪い 彼は センスが 悪い
06	環境が好ましい状態ではない	NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL	今日の天気は 悪い この会場は 換気が 悪い
07	評判などが好ましくない	NP1 が NP2 が NP1 が NPニ/カヲ NP1 が NP2 が NPニ/カヲ NP1 が	01 NO GR/NF GR/NF,NO	彼の評判は 悪い 彼は P T Aからの評判が 悪い P T Aからは 彼の評判は 悪い あの今日は P T Aから 評判が悪い
08	関係などがうまくいっていない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 FC,RE TR EL,RE	あの二人の仲は 悪い あの二人は 仲が 悪い 彼は 上司との相性が 悪い あの支店と本店は 連絡が 悪い
09	都合や時期などが適当でない	NP1 が NP2 が NP1 が NP2 が NP1 が	01 EL RP,EL	彼の都合が 悪い 私は 都合が 悪い 今は 引っ越しには 時期が 悪い
10	好ましい結果をもたらさな	NP1 が NPニ	S0	タバコは 肺に 悪い

い

- | | | | | |
|----|----------------------------------|----------------------|----------|--------------------------|
| 11 | 人の性格や行動が好ましくない。/ 困った事態について、責任がある | NP1 が
NP2 が NP1 が | 01
SC | あいつは 悪い
このけんかは お前が 悪い |
| 12 | (私は) 人に対してすまないと思う | (NP2 が) NP1 が NPニ | S0, F0 | そんなことは ほかの会社に 悪いなあ |
| 13 | はなはだ有害で好ましくない | | | 彼は 悪い病気に かかってしまった |

参考文献

- 井上和子(1976)『変形文法と日本語(上)』大修館書店
- 沖久雄(1983)「小さな程度を表す副詞のマトリックス」渡辺実編(1983)所収 pp. 199-215
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論』大修館書店
- 奥田靖雄(1975)「連用, 終止, 連休……」『宮城教育大学国語国文』6(宮城教育大学国語国文学会) (再収:松本泰丈編 1978 pp. 221-232)
- 神尾昭雄(1983)「名詞句の構造」井上和子編『講座 現代の言語 I 日本語の基本構造』三省堂 pp. 77-126
- 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」渡辺実編(1983)所収 pp. 176-198
- 久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 坂本勉(1982)「慣用句と比喩: 慣用化の度合の観点から」『言語学研究』1(京都大学言語学研究会) pp. 1-21
- 鈴木一彦・林巨樹編(1973)『品詞別日本文法講座 4 巻 形容詞・形容動詞』明治書院
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- ソーントン, ロザリンド(1983)「形容詞の連用形のいわゆる副詞的用法」『日本語学』2 巻 10 号 明治書院 pp. 64-74
- 高木一彦(1974)「慣用句研究のために」『教育国語』38 むぎ書房 (再収:松本泰丈編 1978 pp. 95-118)
- 高橋太郎(1975)「文中にあらわれる所属関係の種々相」『国語学』103 (国語学会) pp. 1-17
- 寺村秀夫(1975-78)「連体修飾のシンタクスと意味 1-4」『日本語・日本文化』4-7(大阪外国語大学留学生別科) 4: pp. 71-119, 5: pp. 29-78, 6: pp. 1-35, 7: pp. 1-24
- 寺村秀夫(1980)「名詞修飾部の比較」國廣哲彌編『日英比較講座 2 巻 文法』大修館書店 pp. 221-266
- 寺村秀夫(1981)『日本語の文法(下)』日本語教育指導参考書 5 国立国語研究所
- 寺村秀夫(1982-84)『日本語のシンタクスと意味 I, II』くろしお出版
- 寺村秀夫他編(1987)『ケーススタディ日本文法』桜楓社
- 中道知子(1983)「形容詞の諸特性」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究-5 — 計算機用レキシコンのために —』 pp. 133-158
- 中道知子(1986)「形容詞をめぐる二, 三の問題について」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究-7 — 計算機用レキシコンのために(2) —』 pp. 341-352
- 西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所報告 44 秀英出版
- 仁田義雄(1983)「結果の副詞とその周辺」渡辺実編(1983)所収 pp. 117-136
- 野田尚史(1981)『「カキ料理は広島が本場だ」構文について』『待兼山論叢』15 日本学篇(大阪大学文学部) pp. 45-66
- 芳賀綏(1962)『日本文法教室』東京堂(復刊:『新訂・日本文法教室』教育出版 1982)
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版

- 松本泰丈編(1978)『日本語研究の方法』むぎ書房
- 三上章(1953)『現代語法序説』刀江書院(復刊:くろしお出版 1972)
- 三上章(1955)『現代語法新説』刀江書院(復刊:くろしお出版 1972)
- 三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
- 水谷静夫(1951)「形容動詞辨」『國語と國文學』28卷5号(東京大學國文學研究室)
(再収:服部四郎他編『日本の言語学4巻 文法Ⅱ』大修館書店 1979 pp.395-413)
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 宮地裕(1985)「日本語慣用句考」『共同研究論集』3(大阪大学文学部)pp.1-25
- 宮地裕他編(1985)『日本語学』(特集:慣用句)4巻1号 明治書院
- 村木新次郎・青山文哲・六条範俊・村田賢一(1984)「辞書における格情報の記述」『情報処理学会自然言語処理研究会資料』46-3 pp.1-8
- 森田良行(1966a)「語彙—慣用的な言い方—」『講座日本語教育』2(早稲田大学語学教育研究所) pp.61-78
- 森田良行(1966b)「日本語イディオムの研究」『早稲田大学語学教育研究所紀要』5(早稲田大学語学教育研究所) pp.93-116
- 八木孝夫(1987)『新英文法選書7巻 程度表現と比較構造』大修館書店
- 安井稔・秋山怜・中村捷(1976)『現代の英文法7巻 形容詞』研究社出版
- 吉川武時(1989)『日本語文法入門』アルク
- 渡辺実編(1983)『副用語の研究』明治書院
- Bolinger, Dwight L. (1972) *Degree Words*. The Hague: Mouton.
- Jespersen, Otto. (1924) *The Philosophy of Grammar*. London: George Allen & Unwin.
(半田一郎訳『文法の原理』岩波書店 1958)
- Lakoff, George & Mark Johnson. (1980) *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press. (渡部昇一他訳『レトリックと人生』大修館書店 1986)
- Lyons, John. (1977) *Semantics*. Vol.2. Cambridge: Cambridge University Press.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech & Jan Svartvik. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Rusiecki, Jan. (1985) *Adjectives and Comparison in English: A Semantic Study*. London: Longman.
- Sinclair, John. (ed.) (1987) *Collins COBUILD English Language Dictionary*. London: Collins.
- 大野晋・浜西正人(1981)『門川類語新辞典』角川書店
- 小川芳男・林大他編(1982)『日本語教育事典』大修館書店
- 小西友七編(1989)『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社出版
- 林大(1964)『分類語彙表』国立国語研究所資料集6 秀英出版
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店

[外部発表]

村田賢一、廣瀬茂、橋本三奈子(1989)「計算機用日本語基本形容詞辞書の試作」 『情報処理学会第38回全国会論文集』

[技術センター発表会]

廣瀬茂(1988)「計算機用形容詞辞書の試作」 『情報処理振興事業協会技術センター第7回発表会論文集』

橋本三奈子、白石由紀子(1989)「計算機用日本語基本形容詞辞書について」 『情報処理振興事業協会技術センター第8回発表会論文集』

[技術センター報告書]

『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究 -10- —I P A L (Basic Adjectives) をめぐって』(1990)

清沢美恵「形容詞語幹+ガルの文型」

外池俊幸「形容詞の段階性/非段階性」

青山文哲「二項関係についてのおぼえがき」

井口厚夫「連体修飾節と主題文」

高松正毅「慣用句論：認定の問題点と発生発達の経路について」

索引

あ行

異音同音 4, **16**
意味記述 4, 9-10, **24-25**
意味素性 4, 5, **47-55**, 56, 57, 62, 80
意味分類 4, **29-37**, 41
N 5-6, 46, **85**, 86, 90
NP 5-6, 46, **56-57**, 85, 86, 90
エントリ **13**
音便 **21-22**

か行

下位区分 4, 5, **7-13**, 105
快・不快 4, 38, **39**
下位分類 4, 31
係助詞 44, 77
格形式 10-11, 42, **43-47**, 56, 57
58, 59, 60, 61, 62, 76, 81
格助詞 10-11, 44, 45, 60
活用 15, **21-22**, 78, 99
感覚 4, 9, 19, 23, 24, **27-29**, 32, 38,
39, 40, 51, 61, 94
感情 4, 9, 19, 23, 24, 25, **27-29**, 32,
38, 39, 40, 61, 94
慣用句 **97**, 98, 100
慣用表現 4, 20, 85, 88, 94, **97**, 98, 99,
101
関連語 4, 5, 9, 20, **25-27**, 50
一くする (1, 2) 4, **93-94**, 95
一くなる 4, 28, **92-93**, 94
区分番号 4, 5, 7, 8, **11-13**, 47, 62, 104
形式名詞 101, 102
形容詞 **7-8**, 24, 27-29, 37-38, 42-43,
46, **78**
形容詞述語文 44, 45, 47, 59, 75
形容動詞 16, 78
原因 (一くする 2) **93**
項 24, **44**, 45, 46, 47, 51, 57, 58, 59 ,
60, 62, 66, 67, 75, 79
語幹 4, **15**, 16, 22, 23

語義 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 16, 19, 24,
77, 83, 85, 87, 92, 93, 99
語義番号 4, 5, **7-8**, 9, 10, 12, 13
語根 **16**, 17, 18, 20, 99
ことわざ 97, **98**, 101
語尾 4, **16**, 22

さ行

サブエントリ **13**
サブエントリ番号 **13**
指示対象 **49**, 50, 58, 60, 83, 84
終止形 8, **22**, 42, 78, 82, 99
終止用形 4, 5, 6, 7, 8, 10-11, 12, 13, 23,
25, 29, **42-43**, 46, 50, 56,
78, 82, 84-88, 90, 93, 94
述語素 4, 5, 7, 8, 10-11, 12, 13, 43,
57-60, 61, 62, 76, 80, 81, 88
常套句 97, **98**
身体語彙 **101**
制限用法 4, 5, 6, 82, **83**, 84, 85, 86, 90
総称的 **83**, 84, 85
側面語 58, 80
属性 4, 9, 19, **27-29**, 32, 38, 40,
47, 48, 50, 51, 61, 94

た行

段階性 4, 5, **37-38**, 41
段階的 37
知覚主体 9, **27-29**, 35, 36
知覚対象 9, **27-29**
同義語 4, 9, 25, **26**, 97, 100
動作主 (一くする 1) **93**

な行

人称制限 17, **23**, 24, 46, 47, 56, 64,
67, 68, 73, 74

は行

派生語 4, **16**, 20
反義語 4, 9, 25, **26-27**
比較級・最上級 44
比較構文 79
備考 4, 18, 19, 20, 45, 79, 85, 88, 101, 102,
103, 104
被修飾語 5, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 90,
94, 95
非制限用法 6, 82, **83**, 84, 85, 86, 90
非段階的 37
評価 4, 5, 24, **38-39**, 40
表記 4, **14-15**, 101
複合語 4, **20**, 99
副助詞 44, 77
部分語 58, 80
文型 4, 5, 6, 7, 8, 10-11, 12, 13, 19, **43-47**,
56, 57-60, 62, 66-69, 73, 74, 78, 77, 79,
85, 86, 87, 88, 93, 94
文例 4, 5, 6, 44, 57, 62, **77**, 88

ま行

見出し 4, 5, **7, 8**,
見出し語 4, 5, **7-8**, 13, 78, 105
名詞句 5-6, 24, 26-27, 38-39, 43-46, 50, 51,
56-57, 57-60, 75, 79, 84, 85, 86, 87,
88, 90

ら行

類義語 4, 9, 25, **26**, 100
連体形 **22**, 42, 78, **82**
連体修飾構造 **82**, 88, 90
連体用法 4, 5, 6, 7, 24, 25, **42-43**, 77, 78,
82, 84-85, 86, 90, 91, 100, 101
連濁 **20**, 99
連用形 **22**, 42, **91**
連用用法 4, 5, **42-43**, 78, **91-92**, 95

あとがき

I P A 技術センターにおける計算機用辞書は、自然言語処理技術の基礎整備という目的で開発しています。昭和62年から、磁気テープ形式および報告書形式で公開している『計算機用日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic Verbs)』は、これまで多くの方々に利用されてきました。当初は、日本語処理に携わる機関を利用者として想定していましたが、「計算機用」という名にもかかわらず、国語学や日本語教育の関係者にも広く普及しました。また海外からの引き合いもあり、このような辞書の必要性を改めて認識しています。

このたび動詞辞書の続編ともいえる『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)』を公開する運びとなりました。計画段階では、形容詞の辞書は動詞辞書と同じ枠組みで簡単にできるものではないかと予想していましたが、その予想はみごとに外れました。動詞に比べ先行研究にも乏しく、形容詞について包括的、体系的に研究を進めてきた研究者も決して多いとは言えず、それこそ試行錯誤の連続でした。また、動詞辞書の続編ということで、利用者の便宜を図って動詞辞書と同じ枠組みを用いた方がよいという立場と、研究としての進歩・発展をめざさなければならないという立場との板ばさみにもあいました。

当辞書の主な開発メンバーは、日本語を始め、英語、フランス語、ロシア語などの若手研究社で、言語理論も伝統的な国文法から生成文法、句構造文法まで多岐にわたっています。名詞句の記号を「N」にするか、「NP」にするかといったことも、それぞれの言語学的背景の違いから意見が分かれ、何回も議論しなければなりませんでした。またいわゆる「二十守護（ガーゼ）構文」の問題についても、それぞれの立場や考えがあって、全員のコンセンサスが得られるような状態には至りませんでした。けれども、形容詞に関しては国語学の側でも自然言語処理の側でもデータが不足しているという現実を踏まえ、とにかくデータを収集し提供しようということで、全員の意見が一致しました。

この辞書を基にして、利用者の皆様と共に何らかの発見をしたり、新しい理論をたてたりすることができれば幸いです。

最後に、今回の機会を与え、ご援助くださった通産省や当協会の事務局の方々、ご指導いただいたコンサルティング委員の先生方、共に研究をしてくださったワーキング委員・臨時ワーキング委員の方々、その他お世話になった多くの方々に心からお礼申し上げます。

(文責 橋本)

特別研究員	村田 賢一
研究員	橋本三奈子
研究員	白石由紀子

不許複製 禁無断転載

© 情報処理振興事業協会 1990

発行 平成2年7月 定価 1,200円 (税込み)

発行者 〒105 東京都港区芝公園三丁目1番38号

秀和芝公園三丁目ビル6階

情報処理振興事業協会

技術センター

電話番号 (03) 437-2301

報告書番号 2技-113

